

F D

2025年度
北海道医療大学 F D研修報告書
<基本編・テーマ編>

学生を中心とした
教育をすすめるために

北海道医療大学 全学F D委員会

目 次

<基本編>	
北海道医療大学全学FD研修	
「学生を中心とした教育をすすめるために」	
-ユニバーシティ・アイデンティティーを考える-	
はじめに	1
実施概要（趣旨など）	2
参加者名簿	4
学長講話	14
「北海道医療大学の教員としての使命と期待」	
学長　三国　久美	
レクチャー	24
「当大学の理念・目標・方針に基づく授業	
～基本的な確認事項について～」	
医療技術学部　　藏満　保宏	
ワークショップ（プロダクト）	
Aグループ	43
Bグループ	45
Cグループ	47
アンケート	49
FD委員感想	56

＜テーマ編＞

北海道医療大学全学FD研修

学生を中心とした教育をすすめるために

- 発展し続ける生成AIの講義での活用について-

はじめに	63
実施概要（趣旨など）	64
参加者名簿	65
レクチャー①	73
「生成AIは何ができるのか、生成AIに何を任せられるのか」 薬学部 二瓶 裕之	
レクチャー②	80
「AIで読み解く国家試験：大規模言語モデルが示すアクティブ ラーニングの可能性と限界」 歯学部 安彦 善裕	
ワークショップ（プロダクト）	
1グループ（テーマ1）	105
2グループ（テーマ2）	107
ワークショップ（感想）	110
F D 委員感想	115
総合評価	118

全学 FD 研修 [基本編]

「学生を中心とした
教育をすすめるために」
-ユニバーシティ・アイデンティティーを考える-

期 日：令和 7 年 4 月 2 日（水）

会 場：当別キャンパス

はじめに

北海道医療大学 全学 FD 委員長
荒川俊哉

令和 7 年 4 月 2 日、新任教員を対象とした「全学 FD 研修〈基本編〉」が開催されました。本研修は、例年と同様に「ユニバーシティ・アイデンティティーを考える」をサブテーマに掲げ、本学の教育理念の理解と共有を深める機会として実施されたものです。

午前の部におきましては、まず三国学長先生より「北海道医療大学の教員としての使命と期待」と題するご講演を賜りました。講演では、本学の一員として果たすべき役割や、教育・研究における姿勢について多くの示唆が示され、新任教員にとって大変意義深い内容となりました。続いて、藏満教授より「講義の実施に当たっての基本的な確認事項」と題するレクチャーが行われ、授業運営に際しての基本的留意点について、具体的かつ実践的な指導をいただきました。

午後の部では、新任教員が二つのグループに分かれ、ワークショップ形式で討議を行いました。テーマは「本学の教育理念等を実現するために必要な教育法」および「医療系総合大学として本学ができること」の二点であり、参加者はそれぞれの専門的背景や経験を生かしつつ、活発に意見を交換いたしました。その過程において、普段は接点の少ない他学部教員との交流も実現し、相互理解の促進と新たな学びにつながる有意義な時間となりました。

さらに議論の中で、多職種連携に関する貴重な実務経験を有する教員の存在が明らかとなり、次回の全学 FD/SD 研修会の講師としてご協力をお願いする機会を得ることもできました。このような人材の発見と活用につながる点も、本研修会の大きな成果の一つであるといえます。

総じて、本研修は新任教員が教育者としての自覚を新たにするとともに、学部横断的な交流を通じて視野を広げ、今後の教育実践に資する貴重な機会となりました。本学における教育の質向上に、この研修で得られた経験が活かされることを強く期待いたします。

令和7年度 全学FD研修<基本編>

メインテーマ：「学生を中心とした教育をすすめるために」

*サブテーマ：「ユニバーシティ・アイデンティティーを考える」

主 催：北海道医療大学全学FD委員会

日 時：令和7年4月2日（水） 10:00～16:00

会 場：本学当別キャンパス 中央講義棟 C109演習室 [全体会]

C103・C104・C106演習室

[ワークショップ]

参加対象者：2025年度新規採用(4月1日付)教員及び

2024年度中途採用(4月2日付以降)教員：計12名

運営委員：令和6年度の全学FD委員

FD委員長：歯学部 荒川教授

FD委員：薬学部：泉教授、柳川教授、歯学部：豊下准教授

看護福祉学部：守田教授、八木准教授、心理科学部：柳生教授、齊藤講師

リハビリテーション科学部：本家教授、中川教授

医療技術学部：藏満教授

全学教育推進センター：中野准教授、磯部准教授

歯科衛生士専門学校：山形専任教員

講 師：三国学長、藏満教授 (FD委員)

事務担当：茂庭学務部次長、四釜教務企画課係長、紺井IR課員

【趣旨】

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

【目標】

- 1) 本学の教育の三方針、アドミッショն・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを理解し、本学の「ユニバーシティ・アイデンティティー」とは何かを考える。
- 2) 講義を行う上での様々な注意点や留意点を理解する。

【研修形態】

- 1) 能動的体験型研修とする。
- 2) 肩書なしの対等な意見交換をする。
- 3) 建設的な意見交換から建設的対応策を生み出す。

【スケジュール概要】

時間	内容	担当者
9:50	参加者集合	
10:00	開会	
10:00-10:05	『開会挨拶とオリエンテーション』 ・研修の意義と進行内容の説明	【進行：荒川委員長】 『荒川委員長』
10:05-10:45	『講話』 北海道医療大学の教員としての使命と期待	『三国学長』
10:50-11:30	『レクチャー』 ・当大学の理念・目標・方針に基づく授業 ～基本的な確認事項について～	『藏満委員』
11:30-12:40	昼 食・休 憩 ※昼食は参加者各自で適宜	
12:40-12:50	『全学 FD 委員の自己紹介（約 1 分×13 名）』	【午後進行：豊下委員】
12:50～	『ワークショップ』	【説明：中川委員】
12:50-13:10	* ワークショップテーマの説明 * プロダクトの作成作業について * ワークショップの進め方	<ファシリテーター> 各グループ 4 名程度
13:10-15:00	* 自己紹介、役割分担(進行・記録・発表)の決定(10 分) * グループ討論 (100 分) A グループ 「テーマ 1：本学の教育理念等を実現するために必要な 教育法」 B グループ・C グループ 「テーマ 2：医療系総合大学として本学ができること」	A グループ (八木、柳生、藏満、中野) B グループ (柳川、豊下、中川、山形) C グループ (泉、守田、齊藤、本家、 磯部)
15:00-15:10	休 憩	
15:10-15:45	発 表（発表・質疑応答 10 分×3 グループ）	【発表進行：本家委員】 【午後進行：豊下委員】
15:45-15:50	総評	『荒川委員長』
15:50-16:00	アンケート記入・閉会	

令和7年度 全学FD研修<基本編(新任教員等)> 参加者名簿

[敬称略]

職名	氏名	所属講座等	グループ
薬学部			
教 授	室本 竜太	分子生命科学(免疫微生物学)	B
助 授	山本 隆弘	実務薬学(実務薬学教育研究)	A
助 授	奥田 衣理	実務薬学(実務薬学教育研究)	C
助 授	鈴木 桃子	創薬化学(薬化学)	B
助 授	坂東 拓哉	実務薬学(病院薬学)	A
歯学部			
准教授	川島 雄介	生体機能・病態学系(歯科放射線学)	C
助 教	佐藤 良樹	生体機能・病態学系(組織再建口腔外科学)	B
看護福祉学部			
助 教	吉田 菜摘	看護学科(基礎・統合看護学:基礎看護学)	C
助 教	白川 まゆこ	看護学科(基礎・統合看護学:基礎看護学)	B
助 教	中谷 智子	看護学科(生涯発達看護学:母性看護学)	A
助 教	鈴木 真人	福祉マネジメント学科(介護福祉学)	C
リハビリテーション科学部			
准教授	鈴木 瑞恵	言語聴覚療法学科	A

参加者計 12

講師 (1)	学長	三国 久美
FD委員長(1)	歯学部	荒川 俊哉
FD委員 (13)	薬学部	泉 剛・柳川 芳毅
	歯学部	豊下 祥史
	看護福祉学部	守田 玲菜・八木 こずえ
	心理科学部	柳生 一自・齊藤 恵一
	リハビリテーション科学部	本家 寿洋・中川 賀嗣
	医療技術学部	藏満 保宏
	全学教育推進センター	中野 諭人・磯部 太一
	歯科衛生士専門学校	山形 摩紗
事務担当 (3)	学務部	茂庭 智広・四釜 祐央・紺井 啓

全学FD研修（基本編） グループ編成

グループ	氏名 【所属学部等】		FD委員	
A 4名	山本 隆弘 【薬】	坂本 拓哉 【薬】	八木委員 藏満委員	柳生委員 中野委員
	中谷 智子 【看護】	鈴木 瑞恵 【言語】		
B 4名	室本 竜太 【薬】	鈴木 桃子 【薬】	柳川委員 中川委員	豊下委員 山形委員
	佐藤 良樹 【歯】	白川 まゆこ 【看護】		
C 4名	奥田 衣理 【薬】	川島 雄介 【歯】	泉委員 齊藤委員 磯部委員	守田委員 本家委員
	吉田 菜摘 【看護】	鈴木 真人 【福祉】		

グループの役割分担

【進行】 グループ討論時の司会進行を行う。
 【書記・PC入力】 グループ討論時のPC入力(書記)を行う(プロダクト作成)。
 作成したプロダクトはPC等に保存(終了後提出)。
 【発表者】 全体発表時にグループプロダクトの発表を行う。
 【発表資料作成】 メンバーが協力して作成する。

ファシリテーター(FD委員)

グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
 グループ討論のタイムキーパーも行う。

研修報告書 原稿

- | | |
|-------------|--|
| ① グループプロダクト | グループ発表資料 |
| ② 参加者アンケート | Google Forms(本日提出) |
| ③ FD委員感想 | 400字以内(ワード形式、フォント10.5、A4縦標準サイズ) |
| ④ 提出先・提出期限 | 事務局(学務部教務企画課) fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp
①③提出期限:4月25日(金) |

2025年度 全学FD研修 <基本編>

学生を中心とした教育を 進めるために

サブテーマ

ユニバーシティ・アイデンティティーを考える



主催：全学FD委員会



2025年4月2日（水） 当別キャンパス 中央講義棟

研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

研修の目標

- 1) 本学の教育の三方針、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）を理解する。
- 2) 大学教員としての自覚を持って、どのように講義を行うのかを理解し、またその際の様々な注意点や留意点を理解する。
- 3) 本学の「ユニバーシティ・アイデンティティー」とは何かを考える。

研修会スケジュール

研修会スケジュール

9:40	FD委員集合	午前進行:荒川委員長
9:50	参加者集合	
10:00	開会、委員長あいさつ/スケジュール確認ほか	荒川委員長
10:05	学長講話: 「北海道医療大学の教員としての使命と期待」	三国 久美 学長
10:50	レクチャー: 「当大学の理念・目標・方針に基づく授業 ～基本的な確認事項について～」	森浦委員
11:30	昼休憩	
12:40	参加者集合	
12:50	FD委員の自己紹介	午後進行:豊下委員
	ワークショップテーマ、プロダクトの解説、 ワークショップの進め方について等	中川委員
13:10	ワークショップ	
	「本学の教育理念等を実現するために必要な教育法」 「医療系総合大学として本学ができること」 (自己紹介、役割分担(記録・発表等)を決める時間を含む)	Aグループ Bグループ・Cグループ
15:00	休憩	
15:10	発表(1グループ 10分)	発表進行:本家委員
15:45	総評・アンケート提出	荒川委員長
16:00	閉会	

スケジュールは配付済みのプリントもご確認ください

研修会スタッフ

研修会スタッフ

学長	三国久美
FD委員長	荒川俊哉 歯学部教授
FD委員	泉 剛 病理学部教授 柳川芳毅 病理学部教授 豊下祥史 歯学部准教授 守田玲菜 看護福祉学部教授 八木こすえ 看護福祉学部准教授 柳生一自 心理科学部教授 齊藤恵一 心理科学部講師 本家寿洋 リハビリテーション科学部教授 中川賀嗣 リハビリテーション科学部教授 藏満保宏 医療技術学部教授 中野諭人 歯学部／全学教育推進センター准教授 礒部太一 心理科学部／全学教育推進センター准教授 山形摩紗 歯科衛生士専門学校専任教員
事務局	茂庭智広 学務部次長、四釜禎央 教務企画課係長、IR課 紺井 咲

研修会参加者

2025年度全学FD研修（基本編） 参加者

薬学部	看護福祉学部	
	B	C
室本竜太	B 吉田菜摘	C
山本隆弘	A 白川まゆこ	B
奥田衣理	C 中谷智子	A
鈴木桃子	B 鈴木真人	C
坂東拓哉	A リハビリテーション科学部	
歯学部	鈴木瑞恵	A
川島雄介	C 参加者内訳	
佐藤良樹	B 4学部 12名	

参加者のグループ分け

A	B	C
テーマ1		
山本隆弘(薬)	室本竜太(薬)	奥田衣理(薬)
坂東拓哉(薬)	鈴木桃子(薬)	川島雄介(歯)
中谷智子(看)	佐藤良樹(歯)	吉田菜摘(看)
鈴木瑞恵(リハ)	白川まゆこ(看)	鈴木真人(看)
グループ担当ファシリテーター		
八木委員	柳川委員	泉委員
柳生委員	豊下委員	守田委員
藏満委員	中川委員	齊藤委員
中野委員	山形委員	本家委員
		礒部委員

※荒川委員長は、各グループを巡回

講 話

北海道医療大学 学長

三国 久美

北海道医療大学教員としての使命と期待

レクチャー

当大学の理念・目標・方針に基づく授業
～基本的な確認事項について～

藏満保宏

医療技術学部教授 FD委員

昼食・休憩



ワークショップの開始：**12:40**
(時間厳守)

12:38までにお集まりください。

セッションの流れ

進行／豊下委員

12:40 - 12:50	全学FD委員の自己紹介
12:50 - 13:10	ワークショップテーマ説明 プロダクトの作成作業 ワークショップの進め方
13:10 - 15:00	ワークショップ 自己紹介、役割分担、グループ討論
15:00 - 15:10	休憩
15:10 - 15:45	発表 <small>※発表グループ交代等の時間調整含む (発表・質疑応答) 10分×3グループ</small>

 2025年度 全学FD研修 <基本編>

ワークショップテーマの説明と プロダクトの作成作業、 ワークショップの進め方について

2025年4月2日（水曜日）
主催：全学FD委員会

担当：中川委員（リハビリテーション科学研究科・FD委員）

ワークショップテーマ 説明①

本学のユニバーシティ・アイデンティティー（UI）に即した教育法

大学を取り巻く環境は、ユニバーサル化^(※)と少子化による存続競争が激化する状況です。
そこで、本学の理念や方針等から、特徴的なUIを考察し、学内外に対しその特徴を印象付ける具体的な教育法（教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイル）の展開について議論してください。

※ユニバーサル化：進学率が50%以上となった段階

ワークショップテーマ 説明②

本学の理念や教育の三方針、3つのポリシー^(※)を理解し、本学のUIとは何かを考える。

その上で

- 本学のUIとなりうる本学の良さ、特長を洗いだす。
- 本学のUIとなりえる特徴を念頭におき、戦略的にアピールできる「学生を中心とした教育」を考える。
- 戦略的にアピールできる「学生を中心とした教育」の手法を具体的に示す。

(※) アドミッション、ディプロマ、カリキュラムの各ポリシー

作業解説

プロダクト作成の作業ステップを例示します
(いろいろな進め方があると思いますので進め方の一例として参考にしてください)

<step1>

【課題を具体的に定義する】

議論を効率的に進めるには、課題を具体的に定義し、スタート地点をしっかり共有することで議論がまとまりやすくなります。

<step2>

【アイデアを出し議論する】

グループ内で検討するテーマに対するアイデアを引き出し、議論を活発にします。

ポイントは、

- ・出てきたアイデアを否定しない
- ・傾聴する
- ・議論に参加できないメンバーには話を振る

(アイデアの質は後で検討するのでここでは気にしません)

<step3>

【アイデアを分類し選択する】

出されたアイデアを分類することは、アイデアの良し悪しを議論するよりも効率的になります。

次に、グループのプロダクトとするアイデアを選択します。選択の方法としては、「評価軸[※]」を決めて選択していく方法があります。

(※)評価軸:例えば、実行性や効果、かかる費用や時間…など

<step4>

【アイデアの詳細を詰めてまとめる】

自由に出されたアイデアは細部がつめられていないので、グループのプロダクトにするために、以下の点を詰めていきます。

1.誰が、2.どこで、3.どんな風に、4.誰に対して、5.どんなタイミングで、6.なぜそれをやるのか
…いわゆる5W1Hです。

<step5>

【グループ発表】

発表では、以下のポイントを意識します。

- ◇最終的な結論を一言で表現する(40文字以内)
- ◇なぜその方法を選んだのか(理由・基準)
- ◇具体的なアイデアの内容(実行方法・アイデアの詳細)
- ◇アイデアの実行による結果(生じる利益・利点)

<プロダクトのまとめと発表方法>

■プロダクトの発表資料の作成には、パワーポイント、ワードなどを使用してください。
(プロダクト作成に使用するアプリ等は問いません)

■作成したプロダクトは、本研修会終了後、全学FD委員会に提出してください。

提出方法は問いません。

→メールの場合は、fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

→USBメモリなどに保存して提出の場合は、学務部教務企画課／IR課

学生中心とした教育をすすめるために、UIを念頭において、より教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイルを提案してください。

言葉の説明（補足）

ディプロマ・ポリシー (DP)



学位授与方針

- ◇ディプロマ・ポリシーに盛り込むべきポイント
 - ①学生が身に付けるべき資質目標・能力目標の明確化。
 - ②「何ができるようになるか」に対し、卒業認定、学位授与に必要な学修成果を具体的に示す。
 - ③策定においては、学生の進路に資するよう社会における頑在・潜在ニーズも十分に踏まえる。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（平成28年3月31日）より

カリキュラム・ポリシー (CP)



教育課程の編成・実施方針

- ◇カリキュラム・ポリシーに盛り込むべきポイント
 - ①ディプロマ・ポリシー(DP)を踏まえた教育課程の編成、学修方法・学修過程、学修成果の評価方法等を具体的な例示。
 - ②能動的学修、大学教育の質的転換に向けた取組の充実。
 - ③DPに基づく体系的な教育課程の構築に向けた、初年次教育、教養・専門教育、キャリア教育等、多面的観点から検討。
 - ④多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるような観点をもった初年次教育の充実。

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（平成28年3月31日）より

アドミッション・ポリシー (AP)



入学者 受入方針

- ◇アドミッション・ポリシーに盛り込むべきポイント
 - ①各大学の強み、特色や社会的な役割を踏まえつつ、大学教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか。
 - ②入学者に求める能力は何か。
 - ③入学者選抜において、高等学校までに培ってきたどのような力を、どのように評価するのか。（どのような要素に比重を置くのか、どのような評価方法を活用するのかなど）

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室資料（平成27年3月）より

ユニバーシティ・アイデンティティ

「大学がイメージの統一を図り、その組織の存在を人々に印象付けて組織の内外ともに活性化を図るための行為」

ビジュアル・アイデンティティ（VI）：大学が社会に送り出すあらゆるもの（研究・教育に関する情報と人、サービス、設備、広告、校章に至るまで）をシンボルやデザインによって統一性や計画的多様性を持たせる

マインド・アイデンティティー（MI）：新たな教育理念の確認・確立、目標設定、長期的戦略計画の立案、内部資源の再評価・再編成などが行われる

ビヘイビア・アイデンティティー（BI）：大学の理念、機能、役割を社会に向かって明確に示し、その存在理由を主張し、社会と組織内部の支持と理解を求める

その結果を踏まえた外部への情報発信を中心とするコミュニケーション活動で、実態とイメージの一体化をはかる統合された組織行動

日経広告研究所1994:17-18

関連の参考資料

- 本学の基本方針
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/basic-policy>
- 教育理念・目的・目標
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/rinen/>
- 行動指針
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/guideline/>
- 大学の三方針（ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの各ポリシー）
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>
- シラバス（学部別にサイトが用意されています）
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/> (for student/syllabus)
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/> (for student/gakuseibinran/)
- 学校法人東日本学園 中期計画
<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/summary/med-term>
- 入試情報WEBサイト
<https://manavi.hoku-iryo-u.ac.jp/>
<https://sites.google.com/hoku-iryo-u.ac.jp/opencampus/>

ワークショップの流れ

12:50-13:10
・ワークショップテーマ、プロダクトの解説
・ワークショップの進め方の説明

13:10-15:00
・ワークショップ（各グループ）

15:00-15:10 休憩

15:10-15:45 ※発表グループ交代等の時間調整含む
・発表、質疑応答（3グループ各10分）

ワークショップの進め方

質問です。

ワークショップは初めて？

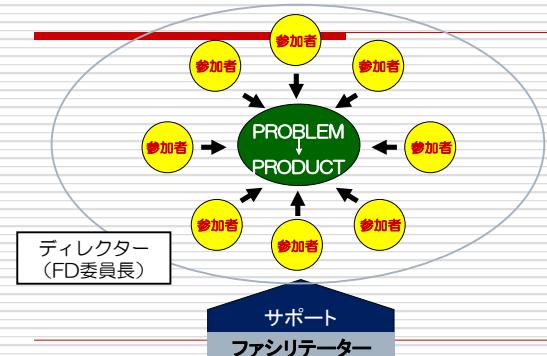


ワークショップとは？



- ・多人数を対象として、**参加者1人1人の参画意識を高める**ために、小グループに分かれて**討論と作業**を行い、**結論**を出していく方式をいう。
- ・**一定の時間内**にある**成果(プロダクト)**を生み出すという手段をとる。

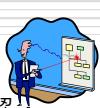
ワークショップとは？



ワークショップの流れ

1. プレナリーセッション

全 体 : 導入講義・課題の確認



2. スモールグループディスカッション (約100分)

グルーブ別 : 課題について討論・プロダクト作成



3. プrezentation (1グループ10分)

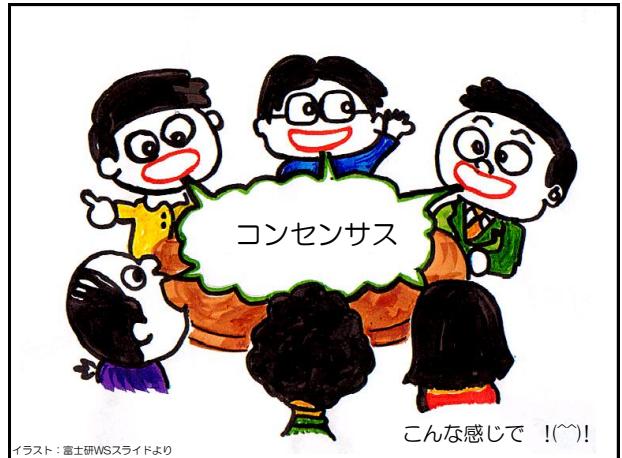
グルーブ別 : 発表・質疑応答



ワークショップの要件

1. 全てのメンバーが**積極的な参加者**になる
2. 参加者全員が**Resource Person(主役)**
3. 積極的に**建設的、前向きな意見**を述べる
4. どんな質問・意見でも**無意味ではない**
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
5. あらかじめ決まった**正解はない**
6. **先生はいない**
7. **時間を守る**





スモールグループディスカッション

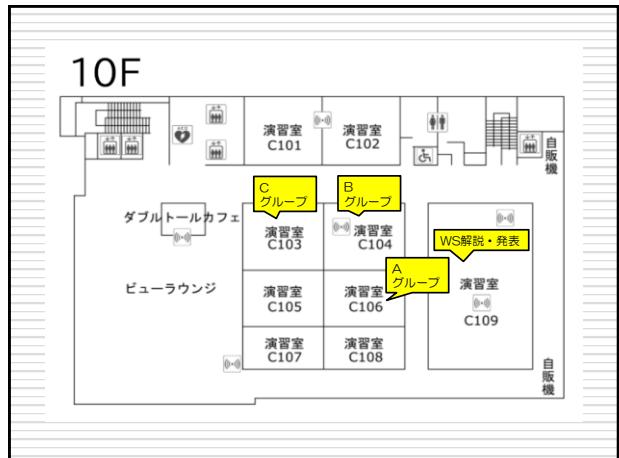
1. 参加者の自己紹介 (1人1分程度)
 (氏名・所属と併せて、時間があれば、私のいち
 押し、「実は私○○です」, Good&New[24時間
 以内にあった“良かったこと(Good)”や“新しい
 発見(New)”などを交えた自己紹介も行ってみてください)

2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)

**3. グループ討論
 ・発表内容の確認**

役割分担

- 進行 · · · · · []
 ● グループ討論時の司会進行を行う。
- 書記・PC入力 · · · []
 ● グループ討論時のPC入力(書記)を行う(プロダクト作成)。
 ● 作成したプロダクトはPC等に保存(終了後提出)。
- 発表者 · · · · · []
 ● 全体発表時にグループプロダクトの発表を行う。
- ファシリテーター(FD委員)
 ● グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
 ● グループ討論のタイムキーパーも行う。



休憩

グループ発表の開始 : 15:10
 (時間厳守)

15:08までにお集まりください。

グループ発表

総評

(全学FD委員会 委員長)

参加者
アンケート
研修の評価



皆さんの感想をお聞かせください
(上記QRコード又はEメールに送信されたURLを利用して下さい)

!アンケートの回答をもって終了です!
お疲れさまでした

学長講話

北海道医療大学の教員としての使命と期待



本学の沿革

1974 学校法人東日本学園大学設立 薬学部

1978 歯学部 大学院薬学研究科

1984 歯学部附属歯科衛生士専門学校

1988 大学院歯学研究科

1993 看護福祉学部

1997 看護福祉学研究科

2002 心理科学部

2004 心理科学研究科

2013 リハビリテーション科学部 リハビリテーション科学研究科

2019 医療技術学部

2023 医療技術学研究科(2025年度から博士後期課程)



6学部9学科を擁する医療系総合大学

計12の国家資格



開学50周年

50周年記念サイト

ONE TEAM,
ONE DREAM.

 Health Sciences
University of Hokkaido







50周年記念講演会
白井一幸客員教授
(WBCヘッドコーチ)

学生数と教員数

全国私立大学
教員1人当たり学部学生数 平均 19.1名
(2024学校基本調査)

学部名	学生数	教員数(助手含む)	教員1人当たりの学生数
薬学部	933名	63名	15.3名
歯学部	436名	131名	4.2名
看護福祉学部	644名	61名	10.6名
心理科学部	266名	18名	14.8名
リハビリテーション科学部	804名	52名	16.1名
医療技術学部	271名	16名	16.9名
歯科衛生士専門学校	60名	5名	12.0名

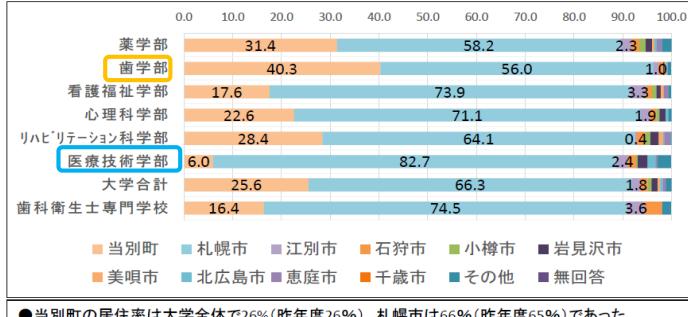
 Health Sciences
University of Hokkaido

(2024年5月1日現在)

●全学:教員1人あたりの学生数 9.8名

学生の居住地(2024年度)

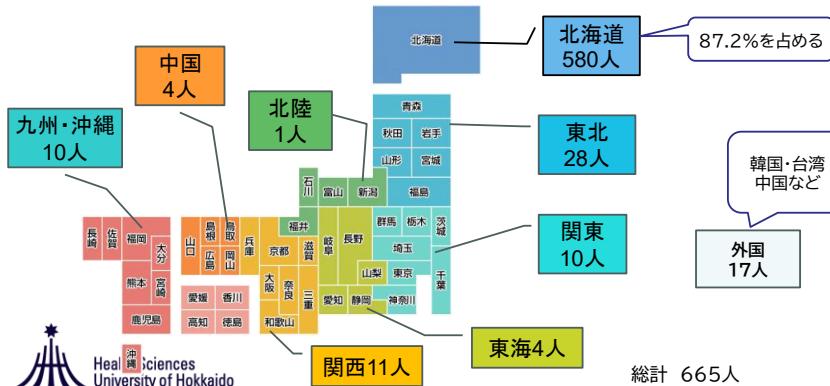
1. 居住地



Health Sciences
University of Hokkaido

令和6年度学生生活アンケート集計結果 学生1,897名(56.9%)の回答

学生の出身地(2024年度入学生)



北海道医療大学の建学の理念

知育・德育・体育

三位一体による医療人としての全人格の完成

「知」: 真理の探究心に裏打ちされた確かな知識・技術の修得

「徳」: 幅広く深い教養と豊かな人間性を培うこと、

「体」: 健康で活力ある美しく強靭な心身を養うこと



Health Sciences
University of Hokkaido

教育基本法 第二条

教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。

二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。

三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。(以下略)

北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を養成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献すること



※この教育理念のもとに教育目的・目標を設定

北海道医療大学教育の3方針

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」を組み合わせた学士課程教育を提供。

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

各学部・学科の教育理念・目標に沿った学士課程の授業科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識を身につけ、かつ各学部が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与する。



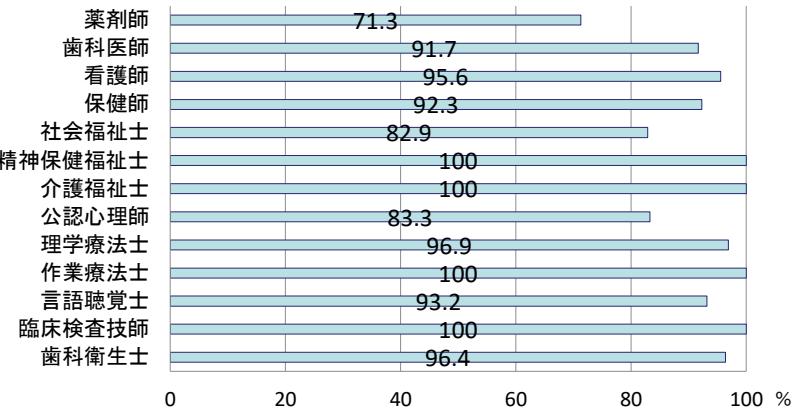
北海道医療大学教育の3方針

入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 入学後の修学に必要な基礎学力を有している人
2. 協調性や基礎的な思考力と表現力を有している人
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心がある人
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っている人
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っている人



本学の国家試験合格率（2024年度）



本学における学生教育への対応

1 教育の質の向上と、教育内容・方法の充実
2007年度 大学教育開発センターを設置
2019年度 **全学教育推進センター**に名称変更

主に全学教育科目

2 教員の自己評価と学生の評価
2007年度 教員評価制度の実施と評価結果の利用
1993年度 学生による授業アンケートの実施

3 充実した学生生活の確保
2008年度 Student Campus Presidents (SCP)の導入

 Health Sciences University of Hokkaido

SCPの活動内容

実際の活動内容は主に次の3つに分けられる。

- 1. SCP独自企画による活動**
新入生歓迎！学友会紹介イベント、学生アンケート
- 2. 大学からの依頼に基づく活動**
卒業式/入学式スピーチ、大学PRテレビ出演
- 3. 外部からの依頼に基づく活動**
薬物乱用防止キャンペーン、当別町TOWNミーティング

 Health Sciences University of Hokkaido

勉学励む学生へ「応援メシ」

北海道新聞掲載
2023年2月22日

農家提供のコメ 学内でピラフなど調理





 Health Sciences University of Hokkaido

SCP×北海道医療大学後援会 合格祈願！応援メシ

ご寄付いただいた白米約300kgを、後援会の協賛の下、学内食堂（エームサービス）に調理して頂き、国家試験や定期試験等の勉強に励む学生に無料で提供し応援します！

（当別キャンパス）
（あいの里キャンパス）
・16時15分～17時15分
・16時15分～17時15分
・総合玄関ロビー（P-1講義室前）・就職相談室前ロビー

両キャンパス 実施期間合計、約3,000食の提供を予定しています。

- Googleフォームで申込受付（締切：提供当日 9時）
※当日の提供可能数を超えた場合は抽選とし、できる限り多くの学生に提供したいと考えています。
- 当選結果はメールで通知
- 受け取りの際は、IC学生証が必要になります。

期間：1/31～2/29を予定
当別キャンパス | **あいの里キャンパス**
 (16:15～17:30) | (16:15～17:00)
 月・水・金→正面玄関 ロビー | 就職相談室前ロビー
 火・木→中央講義棟 2階

さらに！生米配布も実施します！
両キャンパスにて、より同日程、予約なしの先着順となります！
ご当地のICカードの持主をお勧めします！



 Health Sciences University of Hokkaido

大学経費の問題

国立大学:運営費交付金(2024年度)

東京大**797億円**、京都大**550億円**、北海道大**353億円**と桁違いに多い。
北海道教育大は**64億円**、旭川医大でも**49億円**給付されている。

私立大学:経常費補助金(2024年度)

国から配分される運営費交付金は10億円に満たない。
本学**8億3千万円**

学納金に見合った大学側の対応が必要(**学生中心の教育**)

私立大学の収入の**約7割は授業料**であることを忘れてはいけない



安定した経営を維持するためには

- 授業料収入の増加または安定化が第一。
- そのためには、定員割れがあつてはいけない。
- 定員割れをなくす**ためには多くの人が受験してくれなくてはいけない。
- 多くの人が受験してくれるためには、**魅力的な大学**にしなければいけない。
- 北海道からのみ学生が受験してくれるだけではなく、**全国から来てくれる**のが理想である。
- 魅力的な大学・選ばれる大学**になるために何をするべきかを教員の方々は考えてほしい。



道内私立大学経常費補助金

(令和6年度)

(単位:千円)



国家試験の合格率を上げるために

・入り口対策

- 入試の際、優秀な学生を集める。
- 北海道医療大学のブランドを上昇させる。
- 国試の合格率が高い。留年率が低い。
- 北海道だけでなく、全国から受験生を集める。

・出口対策

- 国試対策をきめ細かく行う。
- 他の大学の教育システムを学び応用する。
- 魅力的な授業を行う。

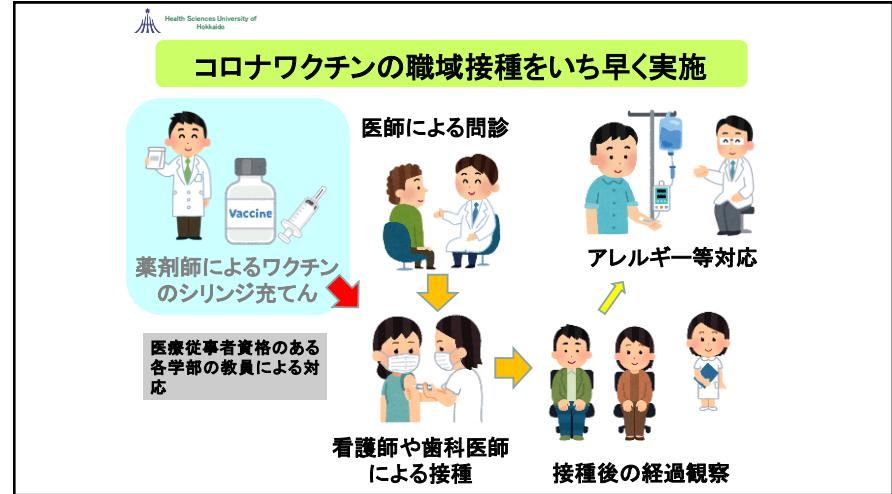




新型コロナワクチン接種への 北海道医療大学の取り組み

- ・わが国で最も早く2021年6月21日より学生、教職員とその家族に対してワクチン接種を開始した。
- ・打ち手として歯科医師を90人確保できた。
- ・医師、歯科医師、看護師、薬剤師など北海道医療大学の保有する人材を駆使することで問題なく終了した。
- ・学生、教職員を合わせてほぼ90%の接種率であった。

Health Sciences University of Hokkaido





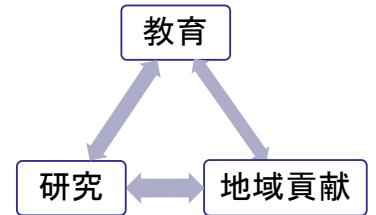
北海道内の大学別科研費採択数・配分状況 新規+継続（令和6年度）

大学名	配分額(千円)	採択件数	基盤A	基盤B	基盤C
北海道大学	6,063,590	1,592	78	366	586
札幌医科大学	400,530	249	0	12	178
旭川医科大学	213,850	121	0	11	77
帯広畜産大学	155,610	62	0	11	31
北海道教育大学	142,610	96	0	9	61
北海道医療大学	140,660	102	0	5	78
北見工業大学	110,500	54	1	7	41
室蘭工業大学	106,470	79	0	4	58
公立はこだて未来大学	84,500	27	0	9	14
小樽商科大学	76,310	35	0	2	22
北海道科学大学	75,660	58	0	0	49
酪農学園大学	73,320	52	0	3	34

研究活動への期待

- 医療系総合大学の強みを生かして、**学際的な研究活動**を進めてほしい
- 地域貢献・教育の観点から、研究活動と効果的にリンクできるような取り組みも期待される

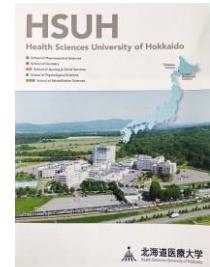
地域包括連携協定:
当別町・滝川市・苫小牧市
北広島市・由仁町



国際交流

大学間連携	提携大学(国名)	提携学部	本学該当学部	提携年(最新更新年)
同窓大学(中国)	同窓大学(中国)	医学部	医学部	1993年(2019年)
ニューヨーク州立大学バッファロー校(アメリカ)	ニューヨーク州立大学バッファロー校(アメリカ)	看護福祉学部	看護福祉学部	1996年
シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	医学部	医学部	2007年(2023年)
日本工大(香港)	日本工大(香港)	看護学部	看護学部	2004年(2016年)
中國大學(中国)	中國大學(中国)	看護学部	看護学部	2007年(2023年)
韓国立公明畜産大学(ロシア)	韓国立公明畜産大学(ロシア)	看護学部	看護学部	2016年
シンガポール同志社大学	シンガポール同志社大学	看護学部	看護学部	2023年

大学間連携	提携大学(国名)	提携学部	本学該当学部	提携年(最新更新年)
同窓大学(中国)	同窓大学(中国)	看護学部	看護学部	1993年(2019年)
ニューヨーク州立大学バッファロー校(アメリカ)	ニューヨーク州立大学バッファロー校(アメリカ)	看護福祉学部	看護福祉学部	1996年
シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	医学部	医学部	2007年(2023年)
日本工大(香港)	日本工大(香港)	看護学部	看護学部	2004年(2016年)
中國大學(中国)	中國大學(中国)	看護学部	看護学部	2014年(2018年)
マジソン大学(タリ)	マジソン大学(タリ)	看護学部	看護学部	2015年(2020年)
エジソン大学(スウェーデン)	エジソン大学(スウェーデン)	看護学部	看護学部	2015年(2021年)
ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)	ブリティッシュコロンビア大学(カナダ)	看護学部	看護学部	2016年
国際基督教大学(ポーランド)	国際基督教大学(ポーランド)	看護学部	看護学部	2017年(2023年)
シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	看護学部	看護学部	2018年(2023年)
ヨーロッパ大学(タリ)	ヨーロッパ大学(タリ)	看護学部	看護学部	2018年(2023年)
リュクサンブルグ大学(タリ)	リュクサンブルグ大学(タリ)	看護学部	看護学部	2018年(2023年)
リバーフォード大学(イギリス)	リバーフォード大学(イギリス)	看護学部	看護学部	2020年
シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	シカゴアカデミック・インスティテュート(アメリカ)	社会福祉学部	看護福祉学部	2018年(2023年)
ブルームズベリー(イギリス)	ブルームズベリー(イギリス)	看護学部	看護学部	2019年
ヨンsei大学(韓国)	ヨンsei大学(韓国)	看護学部	看護学部	2019年
SEGi大学(マレーシア)	SEGi大学(マレーシア)	看護学部	看護学部	2019年
マラカイ大学(マレーシア)	マラカイ大学(マレーシア)	看護学部	看護学部	2019年(2023年)
カリッジ大学(韓国)	カリッジ大学(韓国)	社会福祉学部	看護福祉学部	2019年
ハサヌドン大学(インドネシア)	ハサヌドン大学(インドネシア)	看護学部	看護学部	2023年
香港大学(香港)	香港大学(香港)	看護学部	看護学部	2023年



大学間連携:5大学
学部間連携:20大学

学校法人東日本学園中期計画(2025~2030)

<ビジョン>

急速に変化する社会環境に対応できる人材育成を目的とした学修者中心の教育を実現し、全国的にブランド力がある医療系総合大学としての地位を確立する。

少子高齢化、DX化等、社会環境が急速に変化する時代となり、その変化に対応し社会課題を解決できる人材のニーズが高まっている。本学が「選ばれる大学」であり続けるために、学修者中心の教育を実現し、保健・医療・福祉を中心とする多様な分野で活躍する専門職業人を永続的に全国に輩出する医療系総合大学としての地位の確立を目指す。



学校法人東日本学園中期計画 重点課題

V 学生の受け入れの推進

教育の魅力度の向上とともに、人々の健康に貢献でき、多様なキャリアパスを持つ保健・医療・福祉職の魅力を伝達することにより、本学への進学を目指す生徒の拡大を図り、さらにリカレント・リスクリング教育を充実させ、広報戦略に基づく多角的な学生の受け入れを推進する。

VI 学生支援の充実

多様な学生の状況を踏まえて、学生の能力に応じた学修支援の充実を図るとともにインクルーシブな教育の提供に向けた環境づくりを推進する。

VII 教育・研究等の環境整備の推進

教育、研究、社会貢献の機能をより充実させるべく、新キャンパスの開設を含む教育・研究等の環境整備計画を推進する。

VIII 附属医療機関の充実

臨床教育機能の充実を図るとともに、地域医療に貢献し、良質な医療を提供するため持続可能な財政基盤の確立に向け改革を推進する。

IX 適正な経営管理の推進

ガバナンス体制を強化するとともに、安定的な財政基盤の構築に向けた経営管理を推進する。

学校法人東日本学園中期計画 重点課題

I 教育の充実

高度な知識・技能に裏打ちされ、社会環境の急速な変化にも対応できる人材育成のため、学修者中心の教育の充実を推進する。

II 研究活動の活性化

上記教育の充実に係る研究、地域社会の課題解決に向けた研究を推進するとともに、研究成果の発信の強化、学際的・先進的な研究の推進により外部研究資金の獲得を推進する。

III 社会連携・社会貢献の推進

大学が有する知識・技術等の知的資源を社会に還元するために地域社会との連携・協働体制の構築を進め、社会ニーズを踏まえた各種事業を推進する。

IV グローバル化の推進

国際社会と協調して人々の健康と安全とよりよい生活に貢献できる人材の育成、研究を通じて国際的な貢献に寄与する。



北海道ボールパークFビルレッジ 新キャンパス設置について



2028年4月に新キャンパスでの教育を開始予定

北海道ボールパークFビレッジ 共同まちづくりに関する基本合意締結について

北海道医療大学は、北広島市と、株式会社ファイターズ スポーツ＆エンターテイメント(FSE)とともに、北海道ボールパークFビレッジエリア内を予定地とする大学キャンパス・病院新設などの計画について、三者基本合意を締結いたしました。

北広島市やFSEと協力して、魅力あるまちづくりの実現を共通の基本的思想とし、Fビレッジの都市公園としてのあり方や災害時における連携協力など、Fビレッジ並びにその周辺地域のまちづくりについて十分話し合いをしながら、魅力あるまちづくりの実現に向け、協力してまいります。



2023年10月11日発表 大学HPより

北広島 新キャンパス関連プロジェクト

- 教学各部門PJ
多職種連携教育推進PJ・全学教育開発PJ
- 地域連携推進PJ
- 特別PJ
- 学生PJ
- 研究部門PJ



大学改革プロジェクト

- 研究推進PJ
- 入試戦略PJ
- SDGs取組みPJ



ご静聴ありがとうございました

*One Team
One Dream*



レクチャー

当大学の理念・目標・方針に基づく授業
～基本的な確認事項について～



本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

2

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

3

建学の理念 :

「知育・德育・体育の三位一体による医療人としての全人格の完成」

教育理念 : 「**生命の尊重と個人の尊厳**を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献する。」

教育目標

1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養
2. 確かな専門の知識および技術の修得
3. 自主性・創造性および協調性の確立
4. 地域社会ならびに国際社会への貢献

行動指針 : 「**学生中心の教育**」ならびに「**患者中心の医療**」を推進しつつ、「**21世紀の新しい健康科学の構築**を追究すること」。

4

求められる教員像、教員組織（抜粋）

自主性・創造性に優れ、「**学生中心の教育**」と「**患者中心の医療**」を担う教育・研究能力を有し、地域・国際社会への貢献が可能な人材。

1. 「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」の適切なバランスと連携を図ることが可能な適正な教員数を配置。
2. 専門分野及び関連領域の研究とその研究成果を学生教育や国内外の社会へ還元するために必要な教員を配置。
(女性33%、若手25%、外国人4%、研究補助者6%以上が目標)
3. 学生への修学支援、生活支援、進路支援に関する指導・助言を適切に行うために必要な教員組織を整備。
4. 教員の募集・採用・昇任は、透明性、公平性を担保しつつ、公募制に加え推薦制による候補者選考も可能。
5. 必要な役割分担と責任の所在を明確に定めた組織体制を整備。
6. 教育・研究・社会貢献を常に念頭に置き、質の高い教育と優れた研究成果を生むため、FD活動を組織的かつ継続的に取り組む。

5

北海道医科大学 三方針（抜粋）

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけた学生

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「保健と医療と福祉の連携・統合」を基本として、確かな知識と技術、深い教養と豊かな人間性を持ち、広く社会に貢献できる専門職業人の養成に向けた教育課程を編成

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

本学卒業には全学共通基盤の知識・技術・態度が必要となるばかりではなく高度な専門性の修得が要求される。そのため、各学部学科では学位授与の方針の要件をより効果的に達成しうる資質を持った人材を受け入れる

6

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

本学が特に力を入れる教育成果

- ・**国家試験受験者の高い合格率**
- ・保健・医療・福祉領域で（指導的）専門家に求められる資質として
→**多職種連携**に関する教育の推進・充実

8

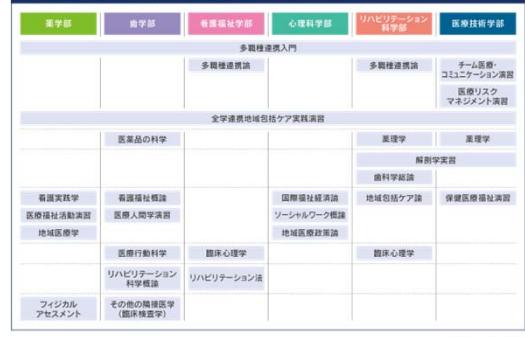
各学部国家試験合格率（2024年度）

名称	区分	回	新卒者			国公私立合格率 (%)
			受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)	
	薬剤師	110	101	72	71.3	85.0
	歯科医師	118	48	44	91.7	84.0
	看護師	114	113	108	95.6	95.9
	保健師	111	13	12	92.3	96.4
	社会福祉士	37	35	29	82.9	75.2
	精神保健福祉士	27	7	7	100.0	85.3
	介護福祉士	37	5	5	100.0	78.3
	理学療法士	60	97	94	96.9	95.2
	作業療法士	60	42	42	100.0	92.5
	言語聴覚士	27	44	41	93.2	87.5
	公認心理師	8	18	15	83.3	66.9
	臨床検査技師	71	48	48	100.0	94.0
	歯科衛生士	34	28	27	96.4	91.0

各学部国家試験合格率（2024年度）

名称	区分	回	新卒者			国公私立合格率 (%)
			受験者(名)	合格者(名)	合格率(%)	
	薬剤師	110	101	72	71.3	85.0
	歯科医師	118	48	44	91.7	84.0
	看護師	114	113	108	95.6	95.9
	保健師	111	13	12	92.3	96.4
	社会福祉士	37	35	29	82.9	75.2
	精神保健福祉士	27	7	7	100.0	85.3
	介護福祉士	37	5	5	100.0	78.3
	理学療法士	60	97	94	96.9	95.2
	作業療法士	60	42	42	100.0	92.5
	言語聴覚士	27	44	41	93.2	87.5
	公認心理師	8	18	15	83.3	66.9
	臨床検査技師	71	48	48	100.0	94.0
	歯科衛生士	34	28	27	96.4	91.0

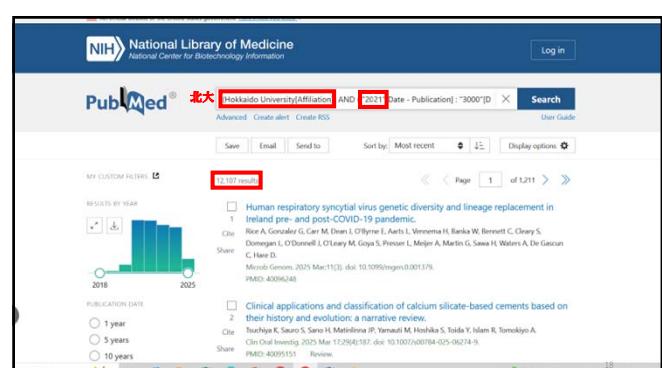
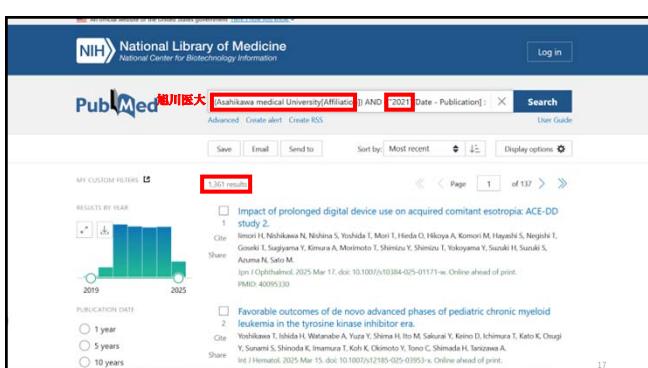
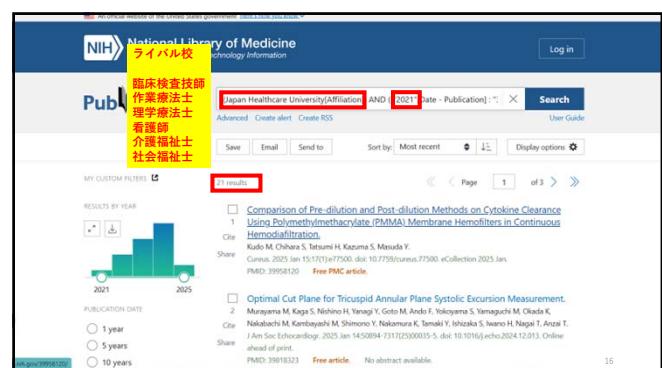
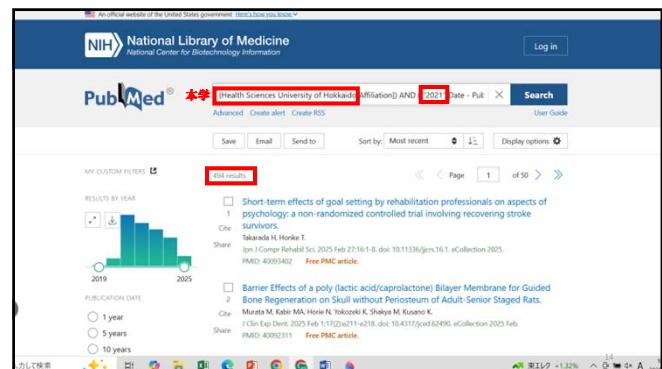
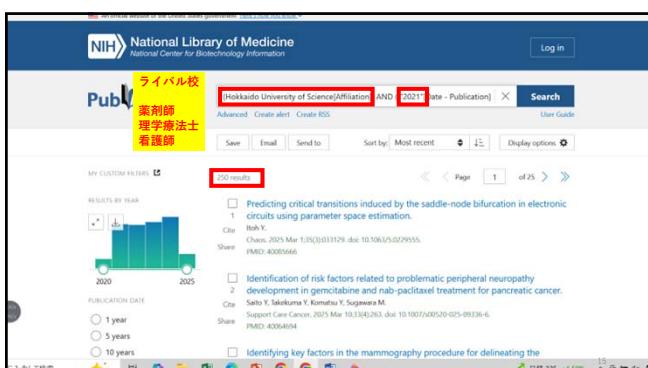
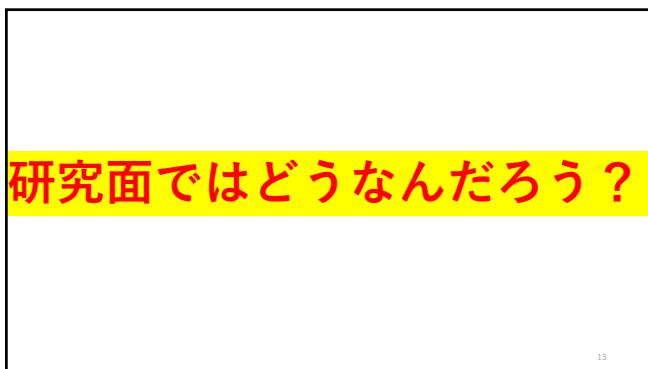
北海道医療大学における多職種連携教育



11

国試合格率を上げて
ライバル校に差をつ
けろ！

12



研究業績ではライバル校を圧倒的に凌駕している

19

この調子で研究業績を上げてライバル校に圧倒的な差をつければ道内No.1私大の地位を守っていける

20

さらに

21

一人一人が現状の倍の論文を発表すれば、旭川医大に並ぶことも可能である！

22

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

23

SARS-CoV-2に
感染した場合
どうするか

SARS-CoV-2に感染した場合の流れ

- (1) 発症日を0日として5日間は自宅待機
- (2) 症状軽快し24時間経過していれば6日目から出勤可能
- (3) 感染症報告フォームへの入力必要
- (4) コロナ陽性の場合診断書があれば職免

対応方針：<https://www.hoku-ryo-u.ac.jp/topics/important/945615/>
報告フォーム：<https://forms.gle/VE5ebRbMPwXDHeCq9>

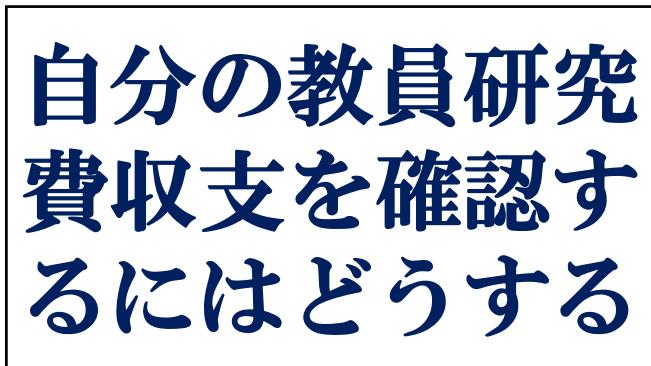
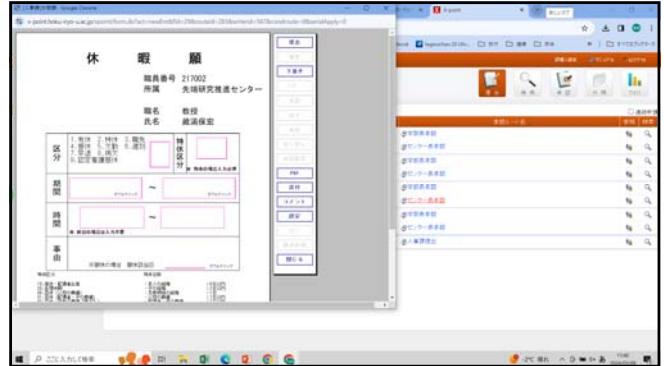
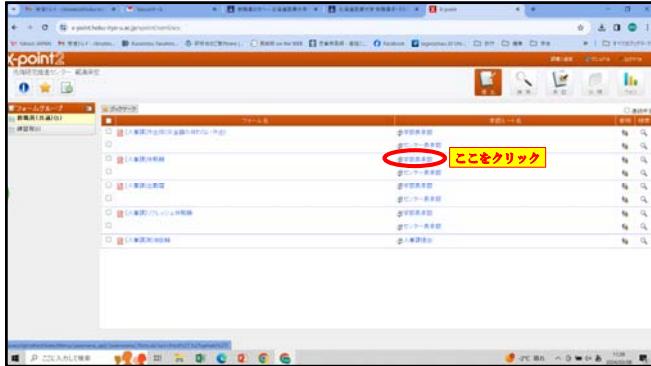
25

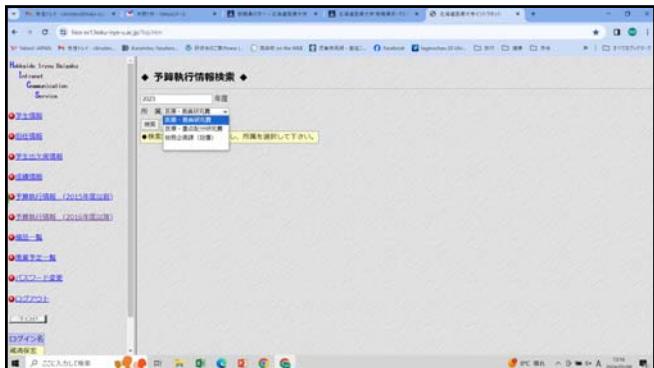
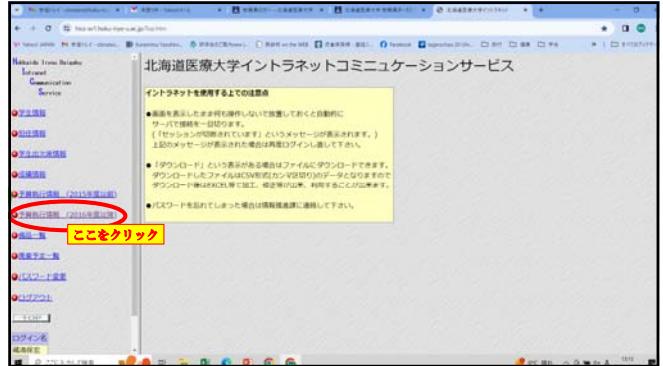


有給休暇や振替休日を取得する時にどうするか









授業を行うに あたって

授業を行うに当たって

授業準備

問い合わせ先	内容
各学部・学科 教務担当教員	授業資料の印刷、場所 周知 (manaba等教育プラットフォーム、 Google Classroom)
各学部教務課	講義室の予約、鍵、使い方 座席表、出席カード、カードリーダー 学生へ連絡 (i-portal)

教室に備え付けられているもの

- 黒板、パソコン・スクリーン → 板書授業でもスライド授業でも対応可能
ただし、パソコン、スクリーン、暗幕の操作が操作机にすべてある教室とスクリーン、暗幕のスイッチが異なる場所にある教室がある
- OHP、DVDプレーヤー、VGA端子、HDMI端子
→ 部屋によってあるなしがある
- 自分のパソコンをつなげることも可能である。
USBメモリを持参する方が問題が少ない
→ 特にオンライン授業時

* 教室によって装備品が異なります。
各教室について、事前チェックと動作確認をしてください。

49

授業形態と特徴（対面授業）

板書授業

- 学生はノートをとりながら行うので授業に集中できる
- ノートをとるのが遅い学生がいるので、進行が遅くなる
- 字が汚い、読みない、板書だけで理解できないなど時に苦情が出る
- 事前に板書計画を立てておくと学生が理解しやすくなる

スライド授業

- 予定通り授業が進行できる
- 授業の進行が速くなりがち。学生の理解が追いつきにくい
- ハンドアウトを渡す必要がある。渡さないと何も残らない
- ハンドアウトを渡すと、ノートをとらず授業に集中しない学生ができる
- 穴あき（カッコ内埋型）ハンドアウトを配付するなどの工夫が必要である

学生からは、授業のまとめ（確認テスト）が欲しいという意見がある。
その時々のノート記載、内容理解に精一杯なっている可能性がある。

50

授業形態と特徴（オンライン授業）

(教員と学生の双方向性の確保をお願いします)

<Zoom型授業；オンライン会議システムを利用したライブ授業 >

- 対面授業に近い形で授業ができる
- チャットを利用してすることで、双方向性が確保されやすい
- ネット環境の影響を受けやすく、内容が理解しづらい学生ができる
- 授業中ネット不具合を理由に後日視聴申請学生ができる

<オンデマンド型授業；スライド、動画などをサーバに置き、e-learningシステムなどにより随时配信する授業方式>

- ネット環境の影響を受けにくい
- 時間を気にせず、何度も受講ができる
- 双方向性の確保を考える必要がある
- 受講が後回しになって受講していないコマがたまる学生が出る

Zoom授業解説が、大学のGoogle Drive共有フォルダ内にあります。
USBメモリからスライドショー提示にすると動作が重くなるので、デスクトップにいったんアップすることをお勧めします。

51

遠隔授業の要件

- 設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導
- 学生等の意見の公開の機会 平成13年文部科学省告示第51号第2号規定
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103.htm
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07091103/002.htm

学生等の意見交換の公開の機会の確保

- 掲示板などを設け、学生が書き込めるようにするなどする。
- 同時双方向型の授業内で自由な発言時間を設定する

Zoom型授業（注意：Zoomの録画授業はオンデマンド型授業になります）

- 授業中に1、2を実施し、面接授業に相当する教育効果が担保できればよい。
- 従来型授業とほぼ同じ授業の進め方で実現可能である。
- 教員+参加学生全員が授業の意見交換ができる時間を作れる。
(従来授業では挙手による質問が隨時可能であることに対応)

オンデマンド型

- 授業終了後すみやかに1、2を実施（毎回の授業実施に併せて）
- 動画視聴などと設問解答を組合せて行うことで意見交換が可能である。
- LMS (Google Classroomなど) などで意見交換ができる場を設ける。

52

授業で気をつけたいポイント

- 集中して話を聞ける時間は、**10～15分**。長くて30分間と思って5分、10分、15分等と、予め講義内容をモジュール化の準備をする
- 動（書く、解く、作業する）と静（見る、聞く、考える）を組み合わせる
→ 質問、確認テスト、動画、新情報など新しさと変化が注意・集中力に有効
- 脳を適度に活性化させたり、休ましたりする
→ 雑談や教員自身のエピソードは、寝ている学生もなぜか起きる
- 物理的な筋・関節ストレッチなどの動作も気分転換（リフレッシュ）として、効果的

53

経験から毎回の授業毎に国試問題を解かせてみると、講義の内容と国試問題の関係を実感してもらえる

54

TCA回路に含まれる化合物はどれか。

2つ選べ

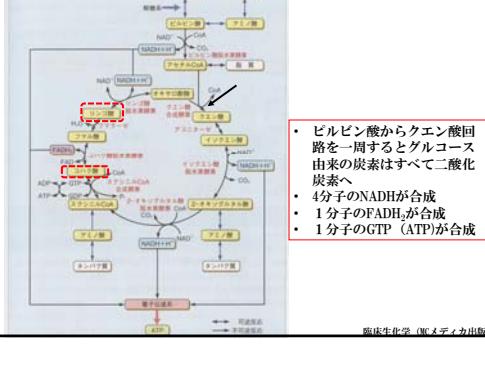
- 1) リンゴ酸
- 2) ピルビン酸
- 3) 乳酸
- 4) アスパラギン酸
- 5) コハク酸

TCA回路に含まれる化合物はどれか。

2つ選べ

- 1) リンゴ酸
- 2) ピルビン酸
- 3) 乳酸
- 4) アスパラギン酸
- 5) コハク酸

好気的解糖によりクエン酸回路でグルコースが完全酸化



クエン酸回路の中間代謝産物

『クエン酸急いで蹴とばし、すぐに怖くなり踏まれたリンゴ置き去りに』
 クエン酸 : (クエン酸)
 急いで : (イソクエン酸)
 蹴とばし : (α -ケトグルタル酸)
 すぐに : (スクシニルCoA)
 怖くなり : (コハク酸)
 踏まれた : (フマル酸)
 リンゴ : (リンゴ酸)
 置き去りに : (オキサロ酢酸)

『オクイアサコ不倫』
 オ: オキサロ酢酸
 ク: クエン酸
 イ: イソクエン酸
 ア: α -ケトグルタル酸
 サ: サクシニルCoA
 コ: コハク酸
 不: フマル酸
 偷: リンゴ酸

Michaelis-Mentenの式は下記のように表されるが、基質濃度をKm濃度の3倍で用いたとき、その反応速度は最大反応速度Vmaxの何%になるか

$$v = \frac{V_{\text{max}} \cdot [S]}{K_m + [S]}$$

- 1) 50%
- 2) 60%
- 3) 75%
- 4) 80%
- 5) 100%

Michaelis-Mentenの式は下記のように表されるが、基質濃度をKm濃度の3倍で用いたとき、その反応速度は最大反応速度Vmaxの何%になるか

$$v = \frac{V_{\text{max}} \cdot [S]}{K_m + [S]}$$

- 1) 50%
- 2) 60%
- 3) 75%
- 4) 80%
- 5) 100%

Michaelis-MentenのKmに1、[S]に3を代入するとv/Vmaxは3/4となり、反応速度はVmaxの75%となる

$$v = V_{\text{max}} \cdot \frac{3}{4} / (1 + \frac{3}{4}) = \frac{3}{4} \cdot V_{\text{max}} = 0.75 \cdot V_{\text{max}}$$

単純計算なので、慌てるな！！

1回の講義で国試問題を5問ほど紹介しているので年間30回の講義だと150問ほど紹介することになる

61

試験に出題する場合は5択だとウルおぼえでも正解できるので、**選択肢をバラバラにして○×で解かせた方が正確に覚える**

62

出欠席（担当教員は注意・関心を払う必要があります）

出席率70%以上。15回授業で5回以上の欠席は失格。
学部、科目によって違いがあります。
→毎週欠席者報告、あるいは3回以上で報告、定期試験前に報告などがある。
いずれの場合も、必ず**出欠席確認等の管理**を行う必要がある。
学生から欠席回数について、疑義申し立てられる場合もある。

対面講義出欠確認方法：点呼、カードリーダー、出席カード、座席表、確認テスト、リアクションペーパー

オンライン授業での出欠席確認法

Google Formによる確認テストを利用する方法が多いようです。
Google Drive内にGoogle Formの様式があります。

Google Formのアクセス方法

- 作成したGoogle FormのURLをチャットに貼付、全員に送信。
- 作成したGoogle FormのURLからQRコードを作成し、スライドに提示。
QRコード作成の無料サイト例：<https://www.cman.jp/QRcode/>

63

本日のレクチャーの内容

- 本学の教育理念
- 本学が力を入れる教育成果
- 授業を行うにあたって
- Google formの使い方
- 授業の成績評価について
- 著作権について
- 私学共済ハンドブックについて
- 当別キャンパスでの気分転換

64

Google DriveとGoogle Form

北海道医療大学のメールアドレス

北海道医療大学 共通ログインサイト

Google DriveとGoogle Form

Google

ログイン

お客様のGoogleアカウントを使用

IDまたはメールアドレスとパスワード

メールアドレスを忘れた場合

ご自分のパソコンでない場合は、プライベート ウィンドウを使用してログインしてください。 詳細

アカウントを作成

IDとパスワードを入力

65

北海道医療大学のGoogle Driveにアクセス

北海道医療大学のGoogle Driveにアクセス

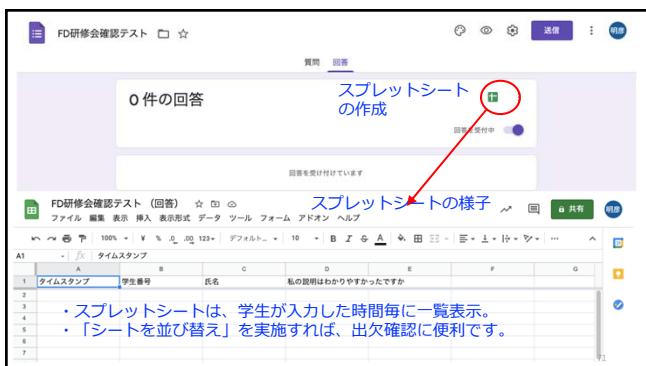
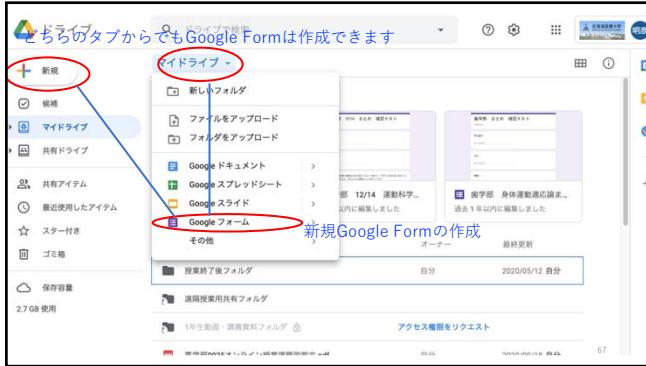
Google

北海道医療大学

ドライブ メール ドキュメント スプレッドシート スライド カレンダー チャット Meet Forms サイト 道路地図

Google Drive内の様子

66



スプレットシートの様子

	A	B	C	D	E
1	タイムスタンプ	メールアドレス	学籍番号	名前	本日の授業はどうでしたか
2	2020/04/24 10:29:06	aaaaaa@hoku-ryou-u.ac.jp	10A002	山田	5
3	2020/04/24 10:29:24	zzzzz@hoku-ryou-u.ac.jp	10A004	鈴木	4
4	2020/04/24 10:29:39	xxxxx@hoku-ryou-u.ac.jp	10A005	高橋	1
5	2020/04/24 10:30:00	ccccc@hoku-ryou-u.ac.jp	10A001	田中	5
6	2020/04/24 10:30:21	vvvvv@hoku-ryou-u.ac.jp	10A009	佐々木	3
7	2020/04/24 10:30:45	bbbbbb@hoku-ryou-u.ac.jp	10A008	小林	4
8	2020/04/24 10:31:03	sssss@hoku-ryou-u.ac.jp	10A007	齊藤	2
9	2020/04/24 10:31:34	ddddd@hoku-ryou-u.ac.jp	10A012	加藤	4
10	2020/04/24 10:31:50	ggggg@hoku-ryou-u.ac.jp	10A015	佐藤	3
11	2020/04/24 10:32:47	hhhhh@hoku-ryou-u.ac.jp	10A018	伊藤	5
12	2020/04/24 10:33:04	nnnnn@hoku-ryou-u.ac.jp	10A013	青木	5

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について**
- (6) 著作権について
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

73

成績評価（学生側から疑義申し立てができます）

評価方法：筆記試験（小テスト、定期テスト）、レポート、授業態度
評価基準（各評価法の割合）のシラバス明示
論述問題やレポート採点での客観的評価手法
・ループリック方法：学習の達成度を表を用いて測定する評価方法
・チェックシート方法

74

本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
- (2) 本学が力を入れる教育成果
- (3) 授業を行うにあたって
- (4) Google formの使い方
- (5) 授業の成績評価について**
- (6) 著作権について**
- (7) 私学共済ハンドブックについて
- (8) 当別キャンパスでの気分転換

75

注意事項

感染対策：使用した機器消毒、授業時の換気、3密の回避を徹底する。

著作権法への抵触

<条文>（改正著作権法第35条運用指針）

学校その他の教育機関（営利を目的として設置されているものを除く。）において教育を担任する者及び授業を受ける者は、その授業の過程における利用に供することを目的とする場合には、その必要と認められる限度において、公表された著作物を複製し、若しくは公衆送信（自動公衆送信の場合にあつては、送信可能化を含む。以下この条において同じ。）を行い、又は公表された著作物であつて公衆送信されるものを受信装置を用いて公に伝達することができる。ただし、当該著作物の種類及び用途並びに当該複製の部数及び当該複製、公衆送信又は伝達の態様に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合は、この限りでない。
<https://sartras.or.jp/wp-content/uploads/unyoshishin2020.pdf>

76

著作権法に関する解説

- 教員が授業に参加する学生のみ閲覧可能な場合は、教育的配慮により、授業資料への複製（転載）、配信が可能である
- 必要と認められる限度は、クラス単位、授業単位である
- 授業に用いる場合でも、受講生以外がオンライン上で閲覧できる状況（URLの流出を含む）は著作権法に抵触する
- 著作権法に抵触する場合は、著作権者に使用に関する許諾を得なければならない
- 授業資料の2次使用（公衆配信）は著作権法に抵触する
(学生などがSNSにアップしないよう授業資料に2次使用禁止を明記)

* 本授業資料は当該学生に対する教育資料としてのみ使用するものであり、使用目的外の利用、第3者の転載・転用、公開、移譲を固く禁じます。

①「複製」

手書き、キーボード入力、印刷、写真、複写、録音、録画その他の方法により、既存の著作物の一部又は全部を有形的に再製することをいいます（著作権法第2条1項15号。著作物だけでなく、実演、レコード、放送・有線放送の利用についても同様です）。

該当する例

- ・黒板への文学作品の板書
- ・ノートへの文学作品の書き込み
- ・画用紙への絵画の模写
- ・紙粘土による彫刻の模造
- ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物を別の紙へコピー
- ・コピー機を用いて紙に印刷された著作物をスキャンして変換したPDFファイルの記録メディアへの保存
- ・キーボード等を用いて著作物を入力したファイルのパソコンやスマホへの保存
- ・パソコン等に保存された著作物のファイルのUSBメモリへの保存
- ・著作物のファイルのサーバーへのデータによる蓄積（バックアップも含む）
- ・テレビ番組のハードディスクへの録画

78

改正著作権法第35条
授業の履修者以外がオンライン上で著作物を見られる状況はダメ！

URLが流出されたり、履修者以外に送信されないようにするために、
どう設定すればよいか？

Google Classroomやmanaba等で履修者のみアクセスできる
ように設定すれば良い。

- Google の場合、Classroomを介してDriveを利用すれば、Drive の著作権用の設定は不要である。

詳しくは、情報推進課や各学部、学科教務担当教員に問い合わせてください。

79

(1) 研修参加者に著作権に関する文化庁が作製したパンフを送信配布
(2) 本学は「SARTRAS」に加盟しています

授業目的公衆送信補償金制度の概要

令和2年1月2日
文化庁

The screenshot shows the 'Outline of the Public Broadcast Compensation System for Educational Purposes' document from 2020. It includes sections on 'Copyright License' and 'Non-Copyright License (Use of Copyrighted Materials for Educational Purposes)', with diagrams illustrating how the system works.

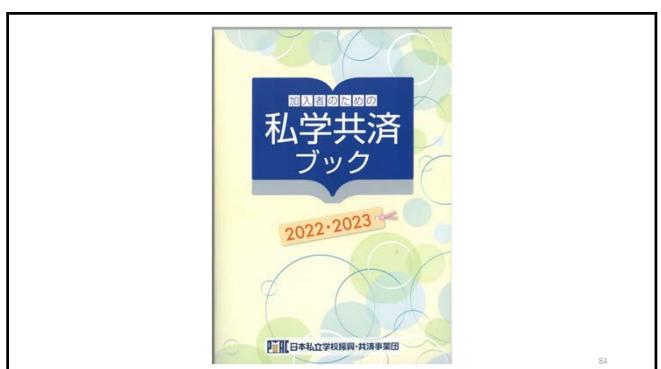
(1) 「SARTRAS」に加盟しているので、著作物を使用したスライドを配信しても補助金が支払われているので問題ない

(2) その講義を受講している学生にのみ配信が許されており、クラスルーム等にアップして学生がダウンロードする様な形式になります

本日のレクチャーの内容

- 本学の教育理念
- 本学が力を入れる教育成果
- 授業を行うにあたって
- Google formの使い方
- 授業の成績評価について
- 著作権について
- 私学共済ハンドブックについて
- 当別キャンパスでの気分転換

83



84



本日のレクチャーの内容

- (1) 本学の教育理念
 - (2) 本学が力を入れる教育成果
 - (3) 授業を行うにあたって
 - (4) Google formの使い方
 - (5) 授業の成績評価について
 - (6) 著作権について
 - (7) 私学共済ハンドブックについて
 - (8) 当別キャンパスでの気分転換

8



筋力トレーニングセンター



91

真冬の当別の樹氷



92

ご清聴ありがとうございました



北海道医療大学
Health Sciences University of Hokkaido

93

参考資料（リンクまとめ）

（リンクの表示は、マウス URL に乗せて、Ctrl+左クリックです）

本学ホームページ（下記のリンクはすべてこちらからのリンクです）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>

本学の基本方針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/basic-policy>

教育理念・目的・目標

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/rinen/>

行動指針

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/guideline/>

大学の三方針（ディプロマ、カリキュラム、アドミッショントリニティ）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/philosophy/policy/>

シラバス（学部別にサイトが用意されています）

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/syllabus/>

学則

<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/assets/pdf/about/summary/gakusoku/24gakusoku.pdf>

学生便覧

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/for/student/gakuseibinran/>

学校法人東日本学園 中期計画

<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/about/summary/med-term>

入試情報 WEB サイト

<https://manavi.hoku-iryo-u.ac.jp/>

オープンキャンパス

<https://sites.google.com/hoku-iryo-u.ac.jp/opencampus/>

上記以外についても、大学ホームページの各コンテンツからご覧ください。

ワークショップ (プロダクト)

A グループ

「本学の教育理念等を実現するために必要な
教育法」

B・C グループ

「医療系総合大学として本学ができること」

本学の教育理念等を実現するために必要な教育法

Aグループ
薬学部：山本、坂東
リハビリテーション科学部：鈴木
看護福祉学部：中谷

親からも選ばれる大学

医療系総合大学

- ・多職種連携がある

国家試験の合格率

- ・合格率が高い方が選ばれやすい

卒業後の進路

- ・卒業後の進路は親にとっても重要

国家試験の合格率を上げていくための課題

知識

- ・一つ一つの教科のつながりが薄い
- ・勉強の方法インプットが多いが、アウトプットが少ない
- ・学力の差が大きい
- ・現在の学生に合わせた教育法

メンタル

- ・メンタル面の弱さ・・・途中でくじけてしまう、継続性の無さ
- ・モチベーションが低い
- ・医療に対する面白さ

倫理観

- ・時代に沿った倫理教育
- ・守秘義務

教育法

知識を付けていくために

- ・アクティブラーニング
- ・学生同士で勉強を教えあう
- ・集団の中の学力の差を縮めるための学習支援室活用
- ・学習アプリの開発

メンタル面（モチベーションを高めるために）

- ・現場の現状を知るために学生がOB、OGの話を聞くことができる機会を増やしていく
- ・各学年の状況に応じて開催

倫理観

- ・時代に即した倫理教育

その他

- ・オープンキャンパスの充実



結論

国家試験の合格率を上げるために、
知識・メンタル・倫理観のフォロー
が必要である

医療系総合大学として 本学ができること

Bグループ

大学としての役割を 2 つに分けて考える

<学生に対して>

- ・本学は 6 学部 9 学科あり、取得できる医療系国家資格が 13 個ある総合大学である。

- ・医療の現場では多職種連携がする場合が多くあることを学んでもらえる。

・<社会に対して>

- ・地域医療に携わる人材を輩出する。

- ・将来に渡り、人材輩出を維持することが求められている。

学生に対しての現状の課題

- ・多職種連携の関連授業は多くはない。
- ・授業の数も限られている。
- ・選択制の授業となり選ばれることが少ない。
- ・多職種連携の授業は学部間の調整や、個人情報の取り扱いの問題もあって難易度が通常の授業よりも上がってしまう。

社会に対しての課題

- ・北海道は人口減少が今後続き、札幌以外の地域が先細りしていく傾向が予見される。
- ・今後、地域医療の維持が困難である。

課題に対する対応

<学生に対して>

- ・道内および、道外から全学部で幅広く募集していく。
- ・授業数の対応は難しいので質を担保する。
- ・意欲のある学生に対して質の高い多職種連携の授業を提供する。
- ・地域との連携協定で奨学金制度を作り、地域での医療者の輩出を促進する。

<社会に対して>

- ・北広島に移転することも踏まえて北海道日本ハムファイターズとのイベント等の連携も考えていく。
- ・イベントのブース等での健康相談等の啓蒙活動を行う。
- ・北海道の各地域の高校と連携し、高校生とのつながりをもっていく。
- ・すぐに結果を求めず、地域のつながりの継続性を重視する。

本学のUniversity Identityとして

- ・北海道にある大学である
- ・道内の地域の医療を支えることを重視している
- ・全国の学生を集めて、医療のプロフェッショナルとして教育し、全国に輩出していく
- ・北海道の地域の都市との提携を進めている
- ・北海道の特殊性のある地域のデータを大学として解析できる

医療系総合大学として本学ができるここと

北海道の中心から
地域医療の人材を全国へ

C班

医療系総合大学として学生を中心とした教育を進めるために本学ができること。

何故その方法を選んだのか。

- お互いの職種で日常ケアの中で疑問に思ったことを心理的障壁を感じずに自由に質問できるようになる（心理的安全性が高まる。）と結果的に患者さんのケア向上につながる。
- 段階的に学んでいくことで、学生の拒否反応が出にくいいのではないか。
- 現状の課題として中学年の多職種連携教育が不足している。

結論

患者さんのケアの質を向上するためにみんなで協働するための経験をする。

（たとえ患者さんや他職種に怒られて心が折れてもみんながいるから大丈夫という経験を積む。）

具体的な内容

- 低学年（自分づくり）
まずは自分の職種について理解する。
どの場面で自分の職種が必要とされるのかを理解する。
- 中学年（仲間づくり）
他の学部はどんな仕事なのかを知る。他学部の自己紹介をしてみて、フィードバックをもらう。
「こんなことを聞いたら、怒られてしまうのではないか。」という心理的障壁を各職種で明らかにする。
自分の領域外でも患者さんで気づいた点を上げる。
大都市の多職種連携、へき地の多職種連携で異なることを知る。
- 高学年（協働づくり）
PBL形式で実症例を使って症状から疑われる疾患について各自で調べて、みんなでディスカッションして、どういうケアを行っていくか決める。
実際の患者さんで自分の職種のケアを行う。

アイディア実行による結果
(生じる利益、利点)

- 医療人としてのレベルアップ（スキルアップ）。
- 地域貢献につながると学生の就職にもつながる。
- 患者さんのケアの質を向上するために頼れる相手が分かる。

結論

患者さんのケアの質を向上するためのみんなで協働するための経験をする。

（たとえ患者さんや他職種に怒られて心が折れてもみんながいるから大丈夫という経験を積む。）

アンケート

2025(令和 7)年度 全学 FD 研修(基本編)アンケート結果

開催日時:2025(令和 7)年 4 月 2 日(水) 10:00~16:00

開催会場:本学当別キャンパス 中央講義棟 C109 演習室[全体会] C103・C104・C106 演習室[ワークショップ]

参加対象:2024(令和 6)年 4 月 2 日以降に採用及び 2025(令和 7)年 4 月 1 日付採用の専任教員

参加人数:11 名(薬学部 4 名、歯学部 2 名、看護福祉学部 4 名、リハビリテーション科学部 1 名)

アンケートは Google Form により実施。

参加対象者の回答率は 100.0%(11 名中 11 名)。

所属 Affiliation

11 件の回答



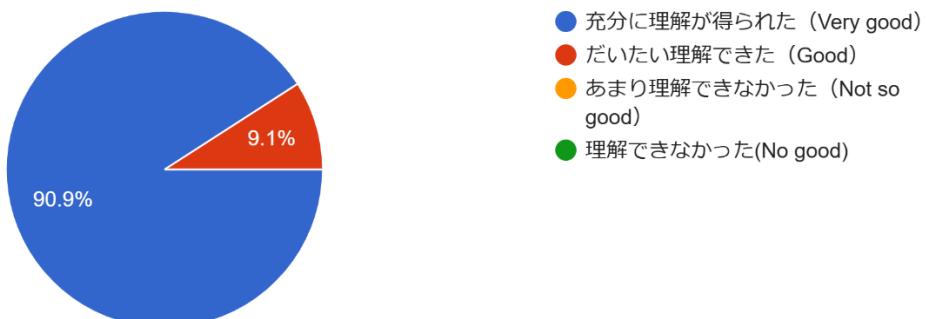
1. 今回の新任教員研修における次のテーマについて、習得度を自己評価してください。

①学長講話について

充分に理解が得られた	10
だいたい理解できた	1

①学長講話について(Lecture of the president of H.S.U.H, professor MikuniSelect one item among four.)

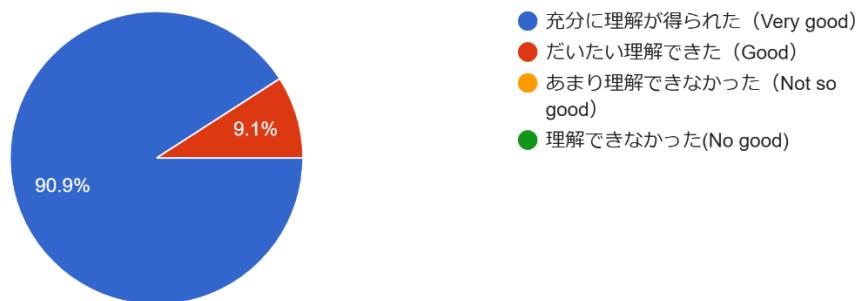
11 件の回答



②レクチャー：当大学の理念・目標・方針に基づく授業について

充分に理解が得られた	10
だいたい理解できた	1

レクチャー：当大学の理念・目標・方針に基づく授業～基本的な確認事項について～(5. Lecture of classes based on the philosophy, goals, and policies of the University ~Basic Confirmation Matters)
11件の回答



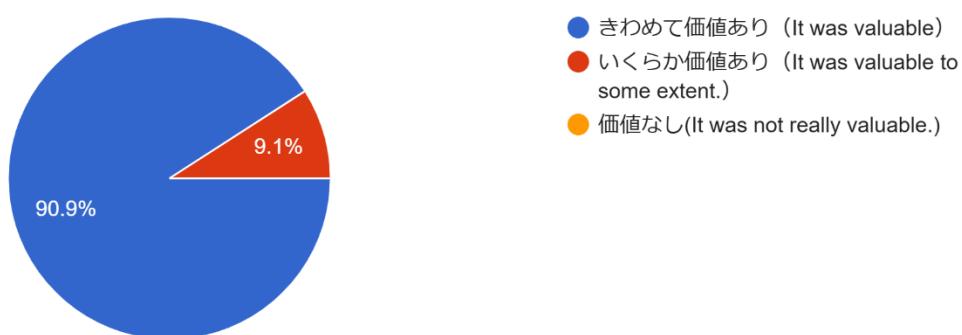
2.ワークショップについて評価してください。

(1) 内容についてどう評価しますか。

きわめて価値あり	10
いくらか価値あり	1

(1) 内容についてどう評価しますか。 How is your general opinion about the content?

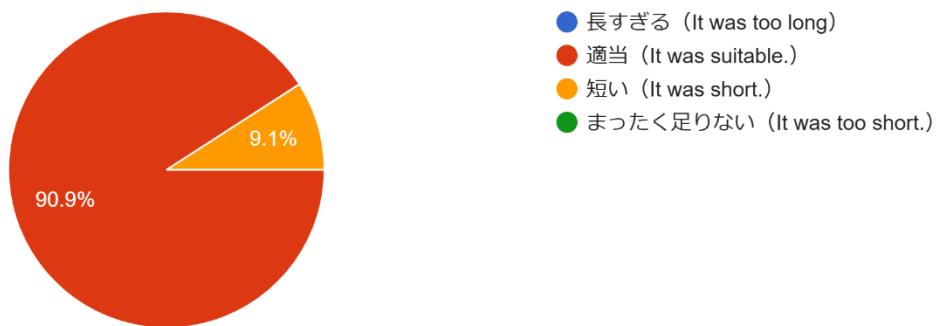
11件の回答



(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。

適当	10
長すぎる	0
短い	1

(2) 内容に対する時間量はいかがでしたか。How is your impression on hours of the workshop?
11件の回答

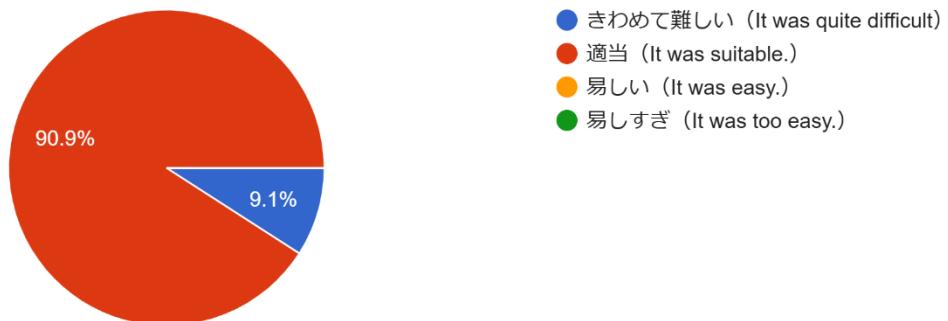


(3) 内容の難易をどう感じましたか。

適当	10
きわめて難しい	1

(3) 内容の難易をどう感じましたか。 How is the difficulty level of explanation and discussions in your opinion?

11件の回答

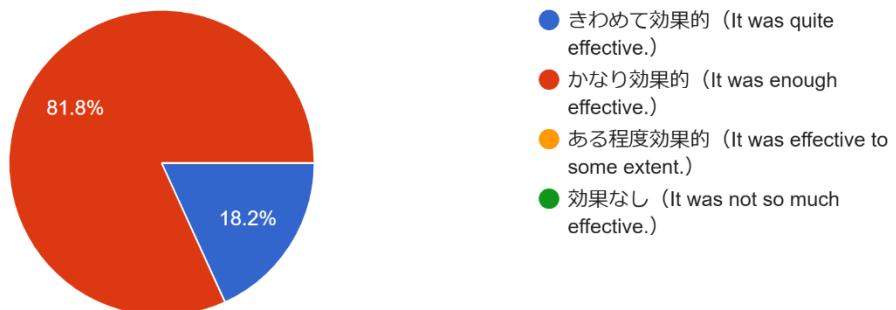


(4) このようなワークショップ形式についてどう思いましたか。

きわめて効果的	9
かなり効果的	2
ある程度効果的	0

(4) このようなワークショップ形式についてどう思いましたか。How did you evaluate the workshop style instruction course?

11 件の回答

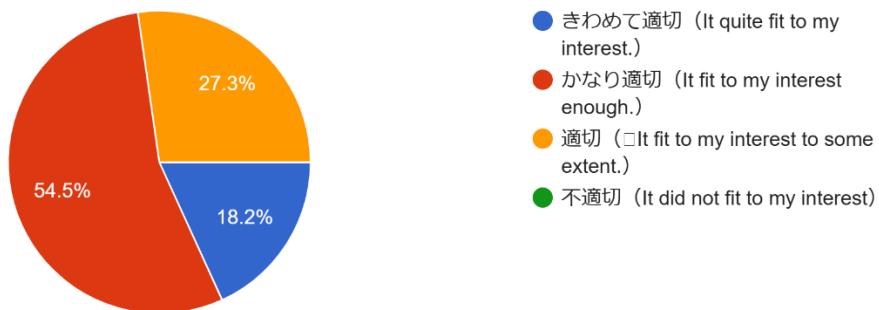


(5)このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。

きわめて適切	2
かなり適切	6
適切	3

(5) このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか。Did the content of the workshop fit to your interest?

11 件の回答



3.今回のワークショップ全体にわたり、とても良かったと思われる点は。

- ・一日で終わること。
- ・他学部の先生と議論が出来た点
- ・他学部の先生の意見も聞け学びとなりました。
- ・他学部の事情がそれぞれあることがわかった。
- ・他学部の先生と本学の本質について話をすることができ、さまざまご意見を聞くことができたことが良かったです。
- ・他学科の先生と多職種連携の障壁となる具体的経験をディスカッションでき非常に良い体験となりました。
- ・全て勉強になりました。
- ・他学部の先生とお話しできるのがとても良かった。
- ・日常業務で他学部の先生方と関わる機会が少ないため、とても良い経験ができました。主に多職種連携について議論しましたが、私自身も他学部との連携の楽しさを感じました。
- ・他の学部の先生とディスカッションができる良い刺激となった。
- ・教育理念を実現するためにグループ討論で様々な意見を聞くことができたこと

4.今回のワークショップ全体にわたり、良くなかったと思われる点(改善点)

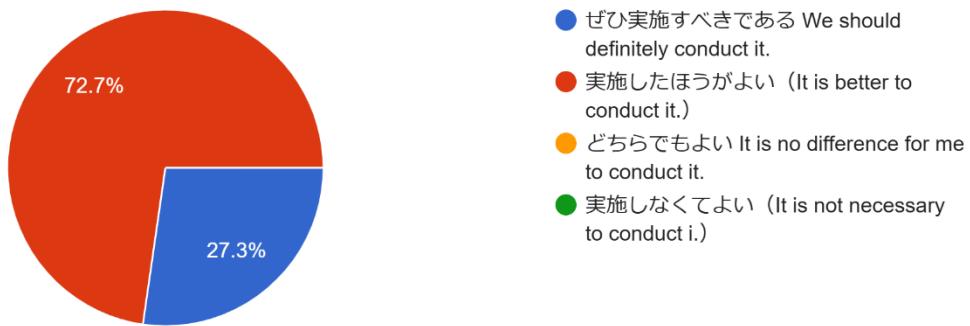
- ・特になし
- ・ファシリテーターの人数が多い。
- ・ややテーマが幅広いように感じました。
- ・ひとグループの人数がもう少しいてもよかったです。
- ・ディスカッションの到達点に答えがないため具体的になかなか見えてこなかったこと。
- ・私自身が事前に本学についての情報を収集することが不足していたために、あまりアイディアの幅を広げることができず具体性も深められなかった点が良くなかったです。
- ・発表資料の作成役への負担が大きいのではと心配になりました。
- ・特記事項なし
- ・課題が抽象的すぎた。
- ・なし

5.今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。

ぜひ実施すべきである	3
実施したほうがよい	8
どちらでもよい	0

5.今後ともこのようなワークショップの実施についてどう思いますか。Should we conduct Today's workshop style in the next time?

11件の回答



6.このワークショップの成果に関連して、今後1年の間に実施したいと考えていることを箇条書きにしてください。

- ・学生のアウトプットをどう増やして知識の定着につなげるか。
- ・モチベーション向上のための取り組み
- ・学生同士のグループ学習
- ・他学部の先生にも色々お話を聞く機会を持ちたいと考えます。
- ・他学部教員との交流・学生の教育支援・AIによる国家試験分析、対策問題作成
- ・全国の高校生に本学をアピールしていく方法を考えていきたいです。
- ・地域で実際に地域連携で課題解決に取り組みたいと思っております。
- ・特記事項なし。
- ・学生の国家試験合格率を上げるための教育法を考えていきたい。
- ・今回知り合った他学部の先生との関係を続けたい
- ・学生との関わりでメンタル面のケア、多職種との関わりについて学習の支援
- ・学生への向き合い方

7.全体を通して、今回の新任教員研修に対するご意見を記入してください。

- ・一日で終わって、安心しました。
- ・午後のワークショップはとても充実した時間でした。他学部の先生方と議論出来た点がとても勉強になりました。
- ・とても良い機会となりました。
- ・座学とディスカッションのバランスがよく、集中して研修を受けることができました。
- ・とても楽しく参加できました。ご準備いただきありがとうございました。
- ・非常に勉強になりました。引き続きよろしくお願ひいたします。
- ・特記事項なし。
- ・とても素晴らしい研修会だと思います。
- ・新任時だけでなく数年が同じメンバーでまた議論できれば面白いのではないかと思いました
- ・他の学部の先生とディスカッションができるよかったです。
- ・とても学びがあった

以上

F D 委員感想

令和7年4月2日に、「学生を中心とした教育を進めるために」というテーマで、令和7年度全学FD研修会基本編が開催された。午前中のレクチャーでは、「医療系総合大学教員としての使命と期待」というテーマで学長講話が行われた。本学の沿革、現状、教育理念の説明に引き継いで、現在、本学が抱える定員割れの問題、経営の問題および北広島移転について、分かり易い説明が行われた。午後のワークショップでは、筆者は「医療系総合大学として本学ができるうこと」というテーマで行われるグループワークにファシリテーターとして参加した。参加者の方のバックグラウンドは、医療系大学での勤務が初めての方や、医療現場で勤務されていた方など多様であり、本学の教育の可能性について様々な議論がなされたが、最終的に、多職種連携教育をどのように充実するかという議論に収束した。その中で筆者にとって印象的であったのは、「学生を指導する教員自体が、他の職種の事をよく知らない。学生だけではなく、教員間でもお互いに他職種について知るような機会が必要ではないか。」という議論であった。筆者はFD委員として、毎年、全学FD研修会に参加してきたが、回を重ねる毎に改善がなされ、特に本年の研修会については、新規採用の職員の方が本学の教育について、当初から問題意識を持って頂けるような内容であったと感じた。

(薬学部 泉 剛)

今回はじめてファシリテーターを担当するということで、まずはファシリテーターとは何か調べてみた。ファシリテーターとは、会議やワークショップなどで、中立的な立場から議論を促進し、参加者の相互理解や合意形成を支援する役割を担う者を指す。今回その役に徹したわけであるが、Bグループにおいては、メンバーによる討議がスムーズであり、その後のプロダクト作成もつつがなく行われ、予定時間通りに完了した。ファシリテーターの支援が無くても問題なく議論が深まり有意義なプロダクトが作成されたと思われる。テーマが「医療系総合大学として本学ができるうこと」ということで、新任教員にとっては、現実的かつ具体的な方策を提案するのが難しく、得られたプロダクトは今すぐ現場に生かせるようなものではなかったが、FDの意義が、教員の意識向上と教育力改善であることを考えれば、これで問題ないと思う。

(薬学部 柳川 芳毅)

今回、全学FD研修〈基本編〉に初めて参加をさせていただきました。午前中の三国学長の講和では本学の特徴や現在の大学全体の取り組みについて、大変わかりやすくご講演いただきました。続いて行われた藏満先生のレクチャーでは授業の工夫などを解説され大変参考になりました。午後はテーマに沿ったグループワークでした。各グループのプロダクトの内容は・アイディアに優れている・具体的な方略が練られていてすぐに実行可能である・わかりやすいキヤッチコピーであるなど創意工夫が感じられ、これからの中の本学の教育にとってヒントになるものがたくさんありました。私自身大変勉強になりました。ありがとうございました。

(歯学部 豊下 祥史)

過去に何度かファシリテーターとして参加してきたが、今回の研修を通じて、「学生中心の教育」や「患者中心の医療」といった本学の理念を改めて再認識するとともに、教職員としての在

り方や教育に対する責任について深く考える貴重な機会となった。講話やレクチャーについては、他の業務と重なってしまい受講できなかったものの、主にワークショップに参加することができた。能動的体験型のワークショップでは、肩書や学部の枠を超えた自由な雰囲気の中、参加者同士で率直な意見交換が行われ、教育の質向上に向けた多様な視点を得ることができた。また、グループ討論を通じて自身の教育実践を振り返るとともに、具体的な改善策も見えてきた。今後は、本研修で得た知見を活かし、より学生の主体性を引き出す教育の実現を目指していきたい。

(看護福祉学部 守田 玲菜)

「学生を中心とした教育をすすめるためにユニバーシティ・アイデンティティを考える」のテーマのもと、午前の部に参加し、三国学長と蔵満先生の講義を拝聴した。当校のような大きな組織の元で就業していても、日々自分の仕事に集中していると、つい所属部門内に視野が固定して知らずして見方が狭くなっている。全学 FD 研修に出ると、全体性という大きな視野のもとで、道内の私立大の中での位置づけや特徴を知り、客観的に自分のなすべきことを見直すことがとても大切なことであると気づかされた。新任教員にとっては、北海道医療大の現状と理想、自分の役割を知るためになくてはならないものだと思う。

また、国家試験の合格率を 100%にするための教育方法を練ると共に、大学教育を学生にとって魅力的なものにするにはどうすれば良いのか。教員全員が魅力化という課題を胸に団結して、社会の動向や学生からヒントを得て、ニーズを創造して、具体化できたら良いのではという思いを新たにした。今回は午前の部のみの参加となつたが、年度開始に当たり、気づきの場を与えられたことに感謝したいと思う。

(看護福祉学部 八木 こずえ)

全学 FD 研修<基本編>では、午前中の三国学長による講話「北海道医療大学の教員としての使命と期待」、蔵満教授によるレクチャー「当大学の理念・目標・方針に基づく授業」をお伺いました。これらの当学の指針に基づいて、午後に新任教員による「学生を中心とした教育をすすめるために-ユニバーシティ・アイデンティティを考える-」と題したワークショップが行われました。3グループに分かれたワークショップでは多様で活発な議論が行われ、今後の本学の発展に実際的に役立つようなアイディアが発表されました。新任の先生たちによる新しい視点を伺うことができました。私自身も本学の 6 学部9学科のもつポテンシャルをさらに発展させる可能性を感じることができ、今後の教育や実践に活かしていきたいと改めて思いました。

(心理科学部 柳生 一自)

今回の FD 研修では 4 名の新任教員によるワークショップのファシリテーターを担当した。ワークショップでは、初対面ということで最初は議論が低調であったが、ワークショップのテーマである「医療系総合大学として本学ができる」とに焦点を当てたアイディアが出されるようになったのをきっかけに議論が深まっていった。参加者自身の経験に根ざしたアイディアも出され、特に「奄美大島での地域連携」のような興味深いエピソードや、「他職種スタッフとの意思疎

通における心理的安全性の大切さ」のような現場の切実な声を反映した指摘は、ワークショップの議論を深めるのに多いに役立ったように思われる。

ファシリテーターとしての反省点を挙げるとすれば、十分に理性的で知識も豊富な参加者に対してどこまで首を突っ込んでよいのかその塩梅が難しく、必ずしも適切なタイミングと内容のサポートができていなかったことである。今後はより一層実りのある議論になるよう、適切なサポートができるように努めたい。

(心理科学部 齊藤 恵一)

三国学長の講話では、安定した経営を目指すには定員割れを起こさないことであり、そのためには魅力的な大学にすることが重要で、そこで教員が何をしなければいけないかを考えることが大切であることを説明していた。このことから私ができることとしては、医療大学の講義でしか学ぶことのできない最先端の作業療法、いわゆる私が実践している臨床研究を学生に伝えることによって、作業療法の面白さや魅力を伝えていくことであると考えた。藏満先生のレクチャーから学んだことは、毎回の講義で国試問題を提示することで講義と国試の関係を実感できるとのことであったので、私の講義でもさっそく実践してみようと思った。後半のワークショップにおける各グループの発表では、すぐにでも学生の講義に使用できる内容があり、特に多職種連携での「心が折れてもみんな(多職種)いるから大丈夫」とのビジョンは多職種連携論の講義の冒頭で使用できるものであった。

(リハビリテーション科学部 本家 寿洋)

令和7年度全学FD研修 基本編が令和7年4月2日全日にわたって行われた。包括するメインテーマは「学生を中心とした教育をすすめるために」であり、サブテーマは「ユニバーシティ・アイデンティティを考える」であった。これらのテーマは数年踏襲されていたものである。午前には医療大教員の使命と期待についての学長の講話と、本学の理念等の基本的事項についての藏満先生のレクチャーがあった。本研修で養うべき内容がよくわかるお話であった。午後には3班に分かれてワークショップが開催され、リハビリテーション科学部からは被研修者として鈴木瑞恵先生(A班)が参加し、全体の進行係とファシリテーターとして本家寿洋先生(C班)と筆者(中川)が参加した。特に筆者はB班で「医療系大学として本学ができるここと」をテーマとする議論に参加した。B班の被研修者は3名であったが、少人数に関わらず活発な意見交換がなされ、学内教員の交流としても有意義な機会がもてたと感じた。

(リハビリテーション科学部 中川 賀嗣)

今回の学長講話を拝聴しながら考えたのは本学のアイデンティティをしっかりと保持するには『国試合格率』と『研究成果』の両輪だと再認識した。

国試合格率は概ね満足できる結果であったが、薬剤師と看護師の合格率が低いとのことであった。例年看護師の方は合格率が良く、先日の高縁博氏のFD講演会でも入学者の質と量に関しては心配ないとのことであった。同氏によると、薬学部に関しては北海道科学大との競合の結果、地の利のハンディから偏差値で10点以上低い学生の入学が続いている、今後その差

は広がる一方であるとの予測であった。そこで両校の 2025 年から 2013 年まで遡った薬剤師国家試験合格率を比較すると本学 vs 科学大で高合格率獲得校は 2025 年から科学大→本学→本学→科学大→科学大→本学→本学→本学→本学→本学→本学→本学となつており、ここ 5 年間では 2 勝 3 敗で負け越しているものの 13 年間では 9 勝 4 敗の結果であった。偏差値でかなり負けている生徒が入学してきても、互角にまで育て上げている薬学部の先生方の多大なご尽力に只々感服です。高縁博氏によると今後も偏差値で更に完敗の生徒の入学が予想されるため、今後も大変な業務になると思うため、全学でのサポートが必須だと考える。

(医療技術学部 藏満 保宏)

今回の研修会では「ユニバーシティ・アイデンティティを考える」というテーマのもと、本学が選ばれる大学になるために、どのような特色ある教育や社会貢献ができるのかを検討していただきました。午前のレクチャーでは、学長より入学者数、教員数、国試合格率、研究費などのデータを含めて本学の現状が紹介され、午後のグループワークに向けた有益な基礎情報が提供されました。私はグループ A のファシリテーターを担当しましたが、メンバー全員が積極的に参加し、円滑に進行したため、ファシリテーションは最小限で済みました。テーマがやや抽象的であることを懸念していましたが、多様で自由なアイデアが出されていたのが印象的でした。事前に本学の教育体制や取り組み事例に関する資料が用意されていれば、より具体性を持った議論ができたと思います。また、ファシリテーターの数が参加者に対して多いので改善が必要だと感じました。

(全学教育推進センター 中野 諭人)

全学 FD 研修基本編の午後のワークショップにおいて、私は、グループ C 「医療系総合大学として本学ができること」にファシリテーターとして参加したため、そこでの感想を中心に述べる。グループ C では上記のテーマについて、多職種連携に関する授業の方策が主に話し合われた。参加者の経験から、他職種に聞きたい事柄があったとしても、「そんなことを聞いたら怒られるのではないか」という各職種間での心理的障壁があることが共有され、このような心理的障壁を学部の多職種連携の授業において払拭する経験(高学年でチームを組み実習にあたるなど)ができないかと提案された。心理的障壁の問題は興味深いものであり、この点をどのように改善していくのかが議論されたことが印象に残った。また、具体的な授業デザインにまで踏み込んで議論・提案がなされたことは、新任教員の方々の FD として実りある機会となったと考えられる。

(全学教育推進センター 磯部 太一)

今回の研修では、B グループのタスクフォースとして新任教員の方たちとともに「医療系総合大学として本学ができること」に関するグループ討議に参加させていただきました。

6 学部 9 学科、歯科衛生士専門学校の本学ならではの「多職種連携」や「地域医療」、「地域貢献」などのキーワードが挙げられており、学生の立場でより実践的な多職種連携実習・教育が

できることが、本学の強みという意見も出ていた。

それぞれの国家資格があるが、医療人としてどのような活躍をしているのか、また、地域医療に携わる人材を輩出するにはどうしたらいいのか、各地域の高校とも連携をして、より詳しく医療をわかってもらうことや、卒後教育でも取り入れてみる、各職種のイベント企画など、大学としての役割りや、課題が挙げられていた。

他大学との違いは、多職種連携教育を行うことができるということが、本学の強みであるとの認識を改めて感じた。本学への進学を考えている学生にとって、魅力的な教育が学べ、実践できる環境に期待できると感じた。

(歯科衛生士専門学校 山形 摩紗)

全学 FD 研修 [テーマ編]

「学生を中心とした
教育をすすめるために」
－発展し続ける生成 AI の講義での活用について－

期 日：令和 7 年 7 月 31 日（木）

会 場：当別キャンパス 中央講義棟

（対面・Zoom ハイブリッド）

はじめに

北海道医療大学 全学 FD 委員長
荒川俊哉

2025 年度全学 FD 研修〈テーマ編〉が 7 月 31 日（木）に開催され、三国学長先生にもご参加いただきました。今年度の研修のサブテーマは、近年ますます進化の著しい生成 AI を 3 年連続で取り上げ、「発展し続ける生成 AI の講義での活用について」といたしました（メインテーマは例年どおり「学生を中心とした教育をすすめるために」です）。

生成 AI は教育現場にも広く浸透しつつありますが、その進歩の速さに我々は十分に追い付けていないのが現状です。学生は日常的に生成 AI を利用しており、我々教員もその機能を理解し、有効に活用することが不可欠となっています。そこで今回は、午後のワークショップにおいて以下の 2 つのテーマを設定し、議論を行いました。

1. 生成 AI の実践的・効果的な講義での利用法
2. 生成 AI の国家試験対策への活用法

これに先立ち、予備知識の共有として、1) のテーマに関しては薬学部の二瓶教授に「生成 AI は何ができるのか、生成 AI に何を任せられるのか」と題したレクチャーをお願いしました。本講演により、生成 AI の発展のすさまじさを実感するとともに、教材作成はもはや生成 AI なしには考えられない時代に入っていることを痛感いたしました。

また、2) のテーマに関しては歯学部の安彦教授に「AI で読み解く国家試験：大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性と限界」と題したレクチャーをお願いしました。現状の AI でも国家試験には十分合格可能であることが示されました。画像解析にはまだ課題が残っていることも明らかになりました。今後の AI のバージョンアップによって、この問題も解決に近づくことが期待されます。

午後のワークショップでは、上記の 2 つのテーマごとに分かれて活発な議論が行われました。実際に ChatGPT を利用しながら議論を深め、その成果の発表には Gamma AI を用いることで、短時間でこれまでにない素晴らしいプレゼンテーションを作り上げていただきました。参加者の皆様は、生成 AI の有用性と可能性を実体験されたことと思います。今後は、これらの知見を各自の講義に生かしていかれることを期待いたします。

最後に、参加された皆様に心より感謝申し上げます。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。

2025（令和7）年度 全学FD研修〈テーマ編〉 実施概要

メインテーマ：	学生を中心とした教育をすすめるために
サブテーマ：	発展し続ける生成AIの講義での活用について
主催：	全学FD委員会
開催日：	2025（令和7）年7月31日（木） 9：40～15：55
開催方法：	対面・Zoomのハイブリッド
開催場所：	当別キャンパス 中央講義棟 C52 講義室【全体会】 C109・C103・C104 演習室 [WS]
ディレクター：	荒川俊哉（全学FD委員会 委員長）
進行：	午前：荒川委員長 午後：八木委員（ワークショップ解説）、明野委員（グループ発表）

1. 日程

進行内容		担当
9：40	参加者集合 開会・委員長挨拶、テーマ説明、日程確認ほか	荒川委員長
9：50	学長あいさつ	三国久美 学長
9：55	【レクチャー（ワークショップテーマに関する話題提供）】 1) 生成AIは何ができるのか、生成AIに何を任せられるのか 薬学部：二瓶裕之 教授	
10：45	<小休憩5分>	
10：50	2) AIで読み解く国家試験：大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性と限界 歯学部：安彦善裕 教授 <各テーマのレクチャーは50分>	
11：40	学長講評	三国久美 学長
11：50	昼休憩（50分）	
12：40	ワークショップの進め方について、プロダクトの作成について（5分）	進行解説：八木委員
12：45	ワークショップ（160分、途中休憩5分を含む） *参加者自己紹介、*役割分担（進行・記録・発表）の決定 *グループワークテーマ 1) 生成AIの実践的・効果的な講義での利用法 2) 生成AIの国家試験対策への活用法	【ファシリテーター】 FD委員 (各グループに配置) スーパーバイザー 二瓶教授
15：25	休憩（5分）	
15：30	グループ発表・質疑応答（1グループ10分×2グループ）	進行：明野委員
15：50	全学FD委員長総評	荒川委員長
15：55	ワークショップ参加者アンケート 閉会	

※午前中のプログラムはワークショップ参加者以外の教職員の対面参加を可とし、Zoom配信も行う。

グループワークの報告（プロダクトの発表）をZoom配信する。

ワークショップの参加者には午後のプログラムからノートPCの持参を依頼する。

2025全学FD研修(7/31)ワークショップ出席者一覧

(職位・敬称略)

参加テーマ	グループ	参加者氏名	学部・学校	学科・科
1) 生成AIの実践的・効果的な講義での利用法	①	奥田 衣理	薬学部	薬学科
		清水 伸太郎	歯学部	歯学科
		山口 夕貴	看護福祉学部	看護学科
		池森 康裕	看護福祉学部	福祉マネジメント学科
		上河邊 力	心理科学部	臨床心理学科
		近藤 里美	リハビリテーション科学部	作業療法学科
		山形 摩紗	歯科衛生士専門学校	歯科衛生科
		八木 こずえ	看護福祉学部	FD委員
		齊藤 恵一	心理科学部	FD委員
		磯部 太一	全学教育推進センター	FD委員

参加テーマ	グループ	参加者氏名	学部・学校	学科・科
2) 生成AIの国家試験対策への活用法	②	室本 竜太	薬学部	薬学科
		鈴木 桃子	薬学部	薬学科
		蓑輪 映里佳	歯学部	歯学科
		堀江 尚弘	歯学部	歯学科
		明野 聖子	看護福祉学部	看護学科
		用田 歩	リハビリテーション科学部	理学療法学科
		才川 悅子	リハビリテーション科学部	言語聴覚療法学科
		山崎 智拡	医療技術学部	臨床検査学科
		柳川 芳毅	薬学部	FD委員
		豊下 祥史	歯学部	FD委員

全体統括	荒川 俊哉	歯学部	FD委員長
------	-------	-----	-------

学部別参加数(FD委員等除く)	
薬学部	3
歯学部	3
看護福祉学部	3
心理科学部	1
リハビリテーション科学部	3
医療技術学部	1
歯科衛生士専門学校	1
計	15

2025年度
全学FD研修 <テーマ編>

学生を中心とした教育を
すすめるために

発展し続ける生成AIの講義での活用について

 主催：全学FD委員会

2025年7月31日（木）当別キャンパス 中央講義棟¹

研修会開催の趣旨
研修会スケジュール

研修会開催の趣旨

本学の教職員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することが本学の行動指針である。

その実現のためにFD研修会を開催し、教授法の開発改善を行うとともに「教育力」を高めることを本研修会の趣旨とする。

3

研修スケジュール

9:40 開会 委員長あいさつ テーマ説明、スケジュール説明ほか
9:50 学長あいさつ 三国学長
9:55 レクチャー① 「生成AIは何ができるのか、生成AIに何を任せられるのか」
二瓶裕之 教授（薬学部）
(休憩 10:45~10:50)
10:50 ②「AIで読み解く国試試験：大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性と限界」
安藤善裕 教授（薬学部）
11:40 学長講評
11:50 暑休憩
12:40 ワークショップの進め方とプロダクト作成の説明
12:45 ワークショップ（160分、途中休憩5分を含む）
15:25 ワークショップ終了・休憩
15:30 グループ発表・質疑応答、全体討論（1グループ10分×2グループ）
15:50 FD委員長講評・アンケートの実施
15:55 閉会

4

学長あいさつ

北海道医療大学 学長 三国 久美

5

レクチャー①

北海道医療大学 薬学部

二瓶 裕之 教授

<演題>
「生成AIは何ができるのか、生成AIに何を任せられるのか」

6

レクチャー②

北海道医療大学 歯学部

安彦 善裕 教授

<演題>

「AIで読み解く国家試験: 大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性と限界」

昼食・休憩



午後のワークショップの開始時間
12:40 (時間厳守)

※ワークショップ参加者は予め決まっています。
自由参加ではありませんので、予めご了承願います。

2025年度 全学FD研修 <テーマ編>

**ワークショップの進め方
プロダクトの作成について**

2025年7月31日（木曜日）

主催：全学FD委員会

担当：八木こずえ（看護福祉学部・FD委員）

ワークショップの進め方

質問です。
ワークショップは初めて？

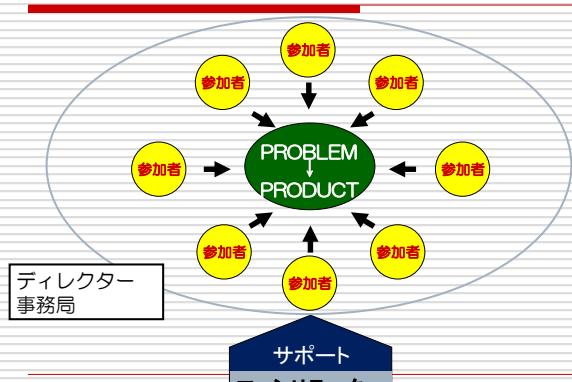


ワークショップとは？



- ・多人数を対象として、**参加者1人1人の参画意識を高めるために、小グループに分かれて討論と作業を行い、結論を出していく方式**をいう。
- ・**一定の時間内にある成果(プロダクト)を生み出す**という手段をとる。

ワークショップとは？



ワークショップの流れ

1. プレナリーセッション

全 体 : 導入講義・作業課題



2. スモールグループディスカッション (約120分)

グルーブ別 : 課題について討論・プロダクト作成



3. プrezentーション (1グループ10分)

グルーブ別 : 発表・質疑応答



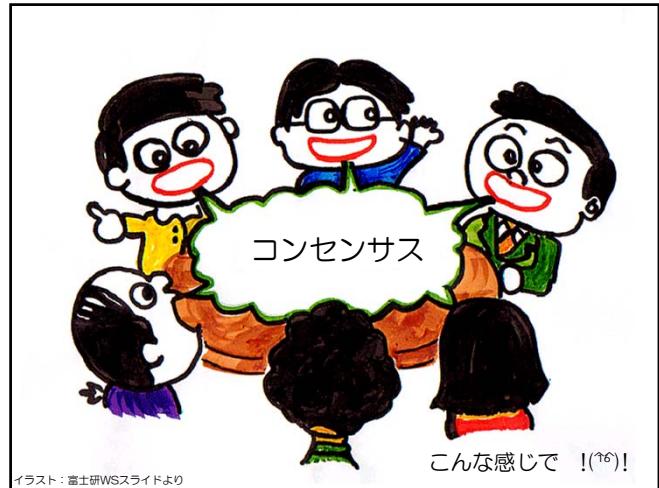
ワークショップの要件

- 全てのメンバーが積極的な参加者になる
- 参加者全員が Resource Person(主役)
- 積極的に建設的、前向きな意見を述べる
- どんな質問・意見でも無意味ではない
(良否の判断はしない。自分と異なる意見でも、まずは「なるほど～」と頷き、もう少し深く尋ねてみる等)
- あらかじめ決まった正解はない
- 先生はない
- 時間を守る



イラスト：富士研WSスライドより

これは歓迎しません… (15)



イラスト：富士研WSスライドより

こんな感じで !(16)!

スモールグループディスカッション

1. 参加者の自己紹介(1分程)

(アイスブレイク : 氏名・所属・

私のいち押し、「実は私○○です」,

Good & New[24時間以内にあった"良かったこと
(Good) "や"新しい発見 (New) "]など



2. 役割分担 (リーダー・記録・発表)



3. グループ討論 ・発表内容の確認

17

役割分担

- 司会** []
 - グループ討論時の司会進行を行う。
- 書記・PC入力** []
 - グループ討論時、書記(PC入力)を行う(プロダクト作成)
 - 作成したプロダクトはPC等に保存(終了後提出)。
- 発表者** []
 - 全体発表時にグループプロダクトをZoomで画面共有して、発表を行う。
- ファシリテーター(FD委員)**
 - グループ討論・作業が効率的に進むようにサポートする。
 - グループ討論のタイムキーパーも行う。



18

<ワークショップ>

【サブテーマ】

発展し続ける生成AIの講義での活用について

【ワークショップのテーマ】

- (1)生成AIの実践的・効果的な講義での利用法
- (2)生成AIの国家試験対策への活用法

<テーマ説明(1)>

生成AIの実践的・効果的な講義での活用法

ChatGPTに代表される生成AIが教育の現場でも活用されるべき

学生による主体的な学びの補助・支援のほか、教員の講義にも活用することができないか



グループ討議への期待

講義において、生成AIを実践的・効果的に活用する可能性についての新たな見解

<テーマ説明(2)>

生成AIの国家試験対策への活用法

AIの学習データは国家試験対策の場面でも活用されるべき

各種国家試験対策に生成AIを活用することができないか



グループ討議への期待

生成AIが予想問題を出題したり解説したりする生成AIの国家試験対策への活用法に関する新たな見解

作業解説

プロダクト作成の作業ステップを例示します

(いろいろな進め方があるので進め方の一例として参考にしてください)

<step1>

【課題を具体的に定義する】

議論を効率的に進めるには、課題を具体的に定義し、スタート地点をしっかりと共有することで議論がまとまりやすくなります。

<step2>

【アイデアを出し議論する】

グループ内でテーマに対するアイデアを引き出し、議論を活発にします。

ポイントは、出てきたアイデアを否定しない、傾聴する、議論に参加できないメンバーには話を振る。また、アイデアの質は後で検討するので、ここでは気にしません。

<step3>

【アイデアを分類し選択する】

出されたアイデアを分類することは、アイデアの良し悪しを議論するよりも効率的になります。

アイデアを分類した後、グループのプロダクトとするアイデアを選択します。

選択の方法としては、「評価軸」を決めて選択していく方法があります。

※評価軸の例:実行性、効果、かかる費用、時間…など

<step4>

【アイデアの詳細を詰めてまとめる】

自由に出されたアイデアは細部が詰められていません。グループのプロダクトにするために、選択したアイデアについて、以下の点を詰めていきます。

1.誰が、2.どこで、3.どんな風に、4.誰に対して、5.どんなタイミングで、6.なぜそれをやるのか

…いわゆる5W1H

<step5>

【グループ発表】

発表では、以下のポイントを意識します。

◇最終的な結論を一言で表現する

40文字程度

◇なぜそのアイデアを選んだのか

他に出されたアイデアのまとめ、選択理由・基準など

◇具体的なアイデアの内容

実行方法、アイデアの詳細など

◇アイデアの実行による結果

生じる利益・利点など

<プロダクトのまとめと発表方法>

- プロダクトの発表資料の作成には、パワーポイント、ワードなどを使用してください。プロダクト作成に使用するソフトは問いません。
- 作成したプロダクトは、本研修会終了後、全学FD委員会に提出をお願いします。

メールの場合: fd-kensyu@hoku-iryo-u.ac.jp

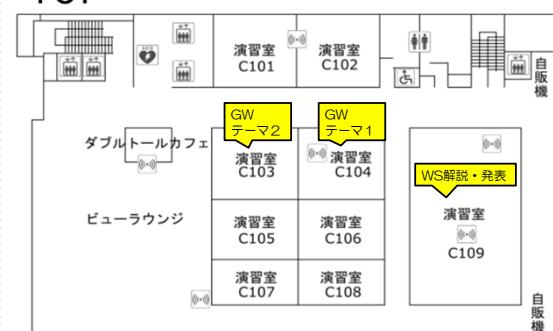
USBメモリなどに保存して提出の場合: 学務部教務企画課に持参

学生を中心とした教育をすすめるために、**本学の授業環境に適した、より教育効果の高い授業の進め方や新たなスタイル**を提案してください。

参加者のグループ分け（敬称略）

テーマ（1）		テーマ（2）	
奥田 衣理(薬)	清水 伸太郎(歯)	室本 竜太(薬)	鈴木 桃子(薬)
山口 夕貴(看福)	池森 康裕(看福)	蓑輪 映里佳(歯)	堀江 尚弘(歯)
上河邊 力(心)	近藤 里美(リハ)	明野 聖子(看福)	用田 歩(リハ)
山形 摩紗(衛專)	八木 こずえ (FD委員)	才川 悅子(リハ)	山崎 智拡(医技)
齊藤 恵一(FD委員)	磯部 太一(FD委員)	柳川 芳毅(FD委員)	豊下 祥史(FD委員)
中野 諭人(FD委員)	二瓶 裕之 (スーパーバイザー)	明野 伸次(FD委員)	

10F



休憩



休憩時間 15：25～15：30
(時間厳守でお願いします)

15：30 までに、
着席してください。

【次はグループ発表になります】

31

グループ発表

(発表時間は、各グループ10分です)

32

提出物について

<参加者>

- グループ代表はWSの成果として、グループで作成したプロダクトをまとめて下記に提出してください。取りまとめの様式、分量などに特に制約はありません。
- ワークショップ参加者は、ワークショップの感想を400字程度にまとめて提出してください。

<FD委員>

- 研修の感想文を400字程度にまとめて提出してください。

提出期限・提出先

- 提出期限：8月29日（金）
- 提出先：学務部教務企画課 FD研修担当
* fd-kensyu@hoku-ryou-u.ac.jp

33

アンケート

参加者のみなさま、お疲れさまでした。
最後に、アンケートのご回答、よろしく
お願い致します。



<https://forms.gle/QNbVufW6hTtCTB5A>
(チャットにURLを送信しております。ご利用ください。)

34

レクチャー

- ① 生成 AI は何ができるのか、生成 AI に何を任せられるのか
- ② AI で読み解く国家試験：大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性と限界

学生を中心とした教育をすすめるために
発展し続ける生成AIの講義での活用について

全学FD委員会
2025（令和7）年7月31日（木） 9：40～15：55
対面・Zoomのハイブリッド
当別キャンパス 中央講義棟 C52講義室【全体会】

生成AIは何ができるのか、 生成AIに何を任せられるのか



北海道医療大学 二瓶裕之

生成AIは何ができるのか

生成AI：データからパターンを「学習」し、人のような知的な処理を行う



パターン学習

AIはビッグデータから「パターン（特徴）」を見つけて、分析して学習します。



判断・予測・会話

学習したパターンを基に、AIは人間のように判断・予測・会話できます。



コンテンツ生成

AIは画像や音楽なども生成でき、創造的な分野でも活用が広がっています。

APIだけではなくWeb（SaaS）の利用事例もご詳細させていただきます

Eye-Catching Images



この動画の音声は「音読さん」を使用しています。

2

生成AIサービスの分類

SaaS 生成AI

Open AI GPT
Google Gemini

ローカル 生成AI

Coherence Command R
Meta Llama

資料 生成

Gamma AI
Notion AI

AI ツール

Perplexity AI
Microsoft Copilot

何ができるのか、何を任せられるのか



レポート
HOME



スプレッド
シート



教材資料

- 任せるうえで必要となる生成AIの仕組みについても後ほどご紹介します

7

レポート作成における学生の課題

レポートは定まった1つの正答がないため、学生には以下のような悩みがあります：

比較の難しさ

他の学生がどのようなレポートを書いているのか知りたいが、比較する機会が限られています。

モデル提示の制限

他の学生のレポートを見せるには本人の許可が必要で、さらに「良いレポート」の提示に限られがちです。

フィードバックの不足

自分のレポートの改善点が具体的にわからず、どう修正すべきか迷うことがあります。



これらの課題を解決するための新しいアプローチが必要です。

GPTを活用したレポート生成

GPTに過去のレポートを参照させ、「良いレポート」と「良くないレポート」をいくつも生成させることで、具体的な比較対象を提供



「良いレポート」の生成

過去のレポートを参考に、高評価を得られる「良いレポート」の具体的な例を生成します。



「良くないレポート」の生成

改善の余地がある「良くないレポート」も生成し、何が問題点であるかを明確に理解するための比較材料とします。

「良くないレポート」をベンチマークとして活用



ベンチマークの提示

GPTが生成した「良くないレポート」の例を学生に事前に提示します。

問題点の分析

構成、論理展開、引用方法などの問題点を具体的に指摘します。



改善方法の提案

どこをどのように修正すれば良いのかを具体的に示します。

学びの定着

問題点を理解し、改善策を学ぶことで、レポート作成スキルが向上します。

[学生は自分のレポートの問題点を事前に認識し、改善できるようにします。](#)

アレンジ

補足：わからない言葉があれば

- エポック：AIがデータを全部1回学習すること
- パラメータ：AIの細かい設定や調整のこと

この資料で困ったことや質問があれば、いつでも先生やTAに聞いてください！

この内容でWordファイルを作成します。
少しお待ちください。

数学が苦手な学生さん向けに、やさしい言葉でまとめたGAN画像生成の資料が完成しました。

下記のリンクからWordファイルをダウンロードできます。
ご自由にご活用ください！

[GANやさしい解説（数学苦手な人向け）.docx](#)

11

グループワーク

グループワープの要約

クラスター別と概要

クラスター名	件数	内容の概要
1. 共存・補完的適用	42件	AIと医療機器の組合せ、AIの問題・不利益の補完開発を強調する意見
2. 診断・治療支援への適用	36件	AIを使った診断支援、画像診断、近畿計画支援などの意見
3. 薬剤効率化・省力化	28件	薬剤効率化、スクール管理・データ入力などの具体的な意見
4. 教育や学習支援	21件	医学生や医師従事者のAIによる教育支援、自己学習支援など
5. 患者とのコミュニケーション面での活用	18件	AIでの心のケアや共感が難しいといった懸念や課題
6. リスク・倫理・情報管理	15件	個人情報、誤診、責任所在、偏りなどリスクや倫理に対する意見
7. リハビリ・支援技術としてのVR/ARとの連携	11件	VR/ARとAIを組み合わせたリハビリ支援やトレーニングの活用
8. 肯定的・肯定的意見	9件	AIが正確性や明瞭性、柔軟性の点で、医療にそぐわないという意見

各クラスターの代表的な意見（抜粋）

1. 共存・補完的適用（42件）

- 「AIは正確性や分析に優れ、人は共感や判断が得意。両者が協力してよりよい医療が実現する。」
- 「理学療法士とAIは共存し、それぞれの長所を活かすことが重要。」

グループワークの発表



12

検索拡張生成AIによる オンライン教材の自動生成

教育の多様化と国際化に対応する新しい教育支援システム



その他 : Perplexity AI

13



はじめに：教育の課題と解決策

教育の課題

学生の多様化・国際化が進み、個別最適な学びの提供が急務となっています

授業外の学修時間確保と主体的な学びの促進が重要です

解決策

オンラインキャンパス授業を補完する
オンライン教材の活用

しかし、教材作成の時間とコストが大きな課題でした

私たちのアプローチ

検索拡張生成AI（RAG）を活用し、授業録画から自動的にオンライン教材を生成するシステムを開発しました

76

知識ベースの構築方法

授業録画の分割

1時間程度の授業映像（mp4）を音声の区切りを基準に約3分のクリップに分割します

テキスト変換と加工

Text-to-Speech AIで音声からテキストを起こし、大規模言語モデル（GPT-4）で要約や見出しを生成します

多言語データの生成

教員の発話を英語、中国語、韓国語などに変換した音声ファイルも知識ベースに登録します



オンライン教材の主な機能

クリップ映像と要約

各クリップにタイトルと内容要約が付き、学生は自分のノートとして加筆・修正できます

目次機能

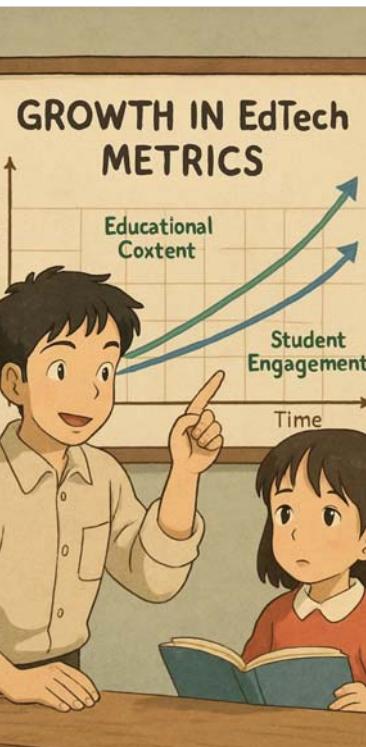
授業全体の概要把握や特定クリップへの移動が容易にできます

事前学修ビデオ

授業前に知っておくべき知識をアバターが自動生成されたレクチャーで説明します

多言語対応

教員の発話を含むすべての情報が多言語で視聴可能です



利用状況と効果

2,000

クリップ数

知識ベースに登録された約3分のクリップ総数

100...

映像時間

蓄積された授業映像の総時間

400...

発話語数

教員による日本語発話の総語数

200回

授業回数

教材生成の対象となっ
た授業回数

当初想定を大きく上回る知識ベースを構築でき、データサイエンス科目以外にも拡大しました

授業の振り返りや質問対応が減少する一方、知識の定着度は維持されています

まとめと今後の展望

成果

- 授業録画だけでオンライン教材を自動生成するRAGシステムを開発しました
- 予習・復習の個別最適な支援を実現しました
- 多言語対応により教育の国際化にも対応しています

今後の展望

- オンライン教材による学修効果の詳細な検証
- さらなる機能拡張と対象科目の拡大
- 教育のデジタルトランスフォーメーション推進



AIが予測するまでの3ステップ



データ収集

開発者がビッグデータを集める



AI設計

開発者がAIの構造を作成する



学習実施

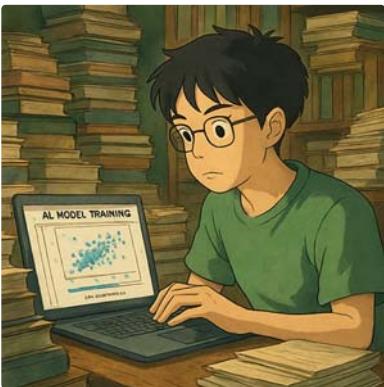
開発者がAIを学習させる

AIに学習・予測をさせるプロセス、ならびに、本学のローカル生成AIが「会話の予測」をするシーンなどもご覧いただきます

- 3つのステップを経て、利用者が「学習済みのAI」で予測する

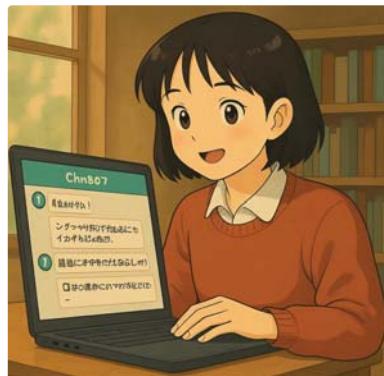
14

「学習」と「コンテキスト利用」の違い



学習：モデルの訓練

AI開発者がビッグデータを用いてAIモデルを訓練して能力を高めるプロセス：学習に使われたデータには、「利用者の同意のもと」でチャットの履歴（コンテキスト）が使われることもあります。



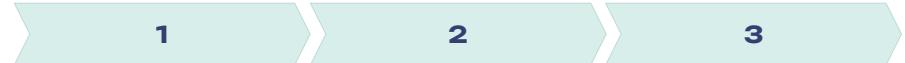
パーソナライズ：コンテキスト利用

日常的なChatGPT利用時、AIはチャット履歴（コンテキスト）をもとに会話の文脈を理解し、応答を最適化：ユーザーのアカウント内で完結します。

日常的なChatGPT利用時のコンテキストについては、随時バーソナライズされますが、随時学習されることはありません。

もし、日常的なChatGPT利用時のコンテキストが随時学習されているのなら、生成AIの回答を制御した世界的な広告が可能に：このような事例はない

AIの学習と予測の仕組み



1 ビッグデータから学習

AIは膨大なデータを分析して、パターンや関連性を見つけ出します。このプロセスで「学習済みモデル」が作られます。



2 モデルによる予測

学習済みのモデルは新しい入力データを受け取ると、過去の学習内容に基づいて結果を予測します。



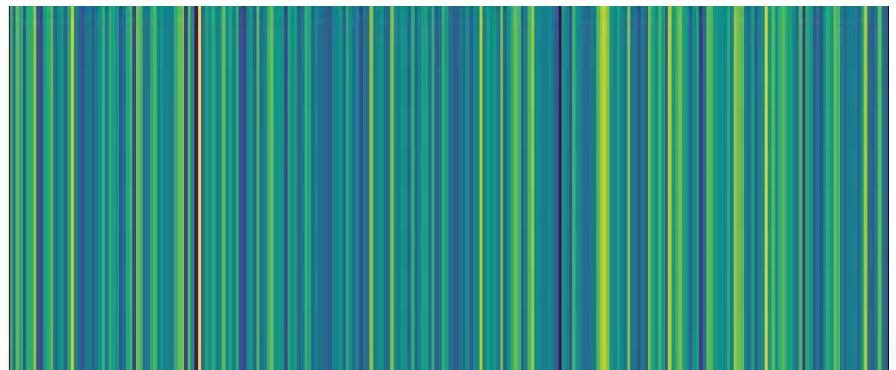
3 効率的な予測処理

AIは予測を行うたびに学習し直すわけではありません。すでに構築されたモデルを使用することで、高速かつ効率的に結果を導き出します。



AIが言葉を「学習」するとは

AIは言葉（単語）を「数字の塊」で、その意味を特徴づけようとする



AIは学習することで、単語の意味を特徴づける数字の値をブラッシュアップする

何ができるのか、何を任せられるのか



レポート



スプレッド
シート



教材資料

- 生成AIの仕組みを意識しながら、今後もご活用いただければと存じます

16

何ができるのか、何を任せられるのか



17

「AIで読み解く国家試験：
大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性と限界」

ChatGPT 4o

北海道医療大学 歯学部
生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野
北海道医療大学病院「口腔内科相談外来」
国際交流推進センター
安彦善裕
Yoshihiro Abiko B.A., C.P.P., D.D.S., Ph.D.



ChatGPT 4o



プロンプト：北海道医療大学の安彦先生は歯科医師国家試験対策のためのFDをするのに相応しい人ですか？

ChatGPT 4o

メインテーマ：学生を中心とした教育をすすめるために

1. 学生主体の学びとは何か

アクティブラーニング（例：反転授業、PBL、グループディスカッション）

学習者の多様性への対応（学習スタイル、背景、関心）

自律的な学習能力の育成（メタ認知、リフレクション）

2. 教育者の役割の変化

知識伝達者から「学びのファシリテーター」へ

フィードバックとコーチングの重要性

学生の思考を引き出す問いの設計

3. 教育設計の工夫

学生の「問い合わせ」や「関心」から授業を始める方法

学習成果の可視化と自己評価の導入

教育目標と評価の整合性（ループリック評価など）

ChatGPT 4.0

サブテーマ：発展し続ける生成AIの講義での活用について

1. 生成AIを活用した学生主体の学びの支援

自学自習の補助（要約、説明、問題作成など）

個別最適化されたフィードバック

学生自身がAIを活用して調査・発表を行うプロジェクト

2. 教育現場でのAI活用の可能性と限界

正確性の検証（AIの出力の真偽を見極める力の育成）

「AIリテラシー」の必要性（使いこなす力だけでなく、批判的に扱う力）

倫理的な側面（不正利用・著作権・データの偏り）

3. 教員の役割の再定義

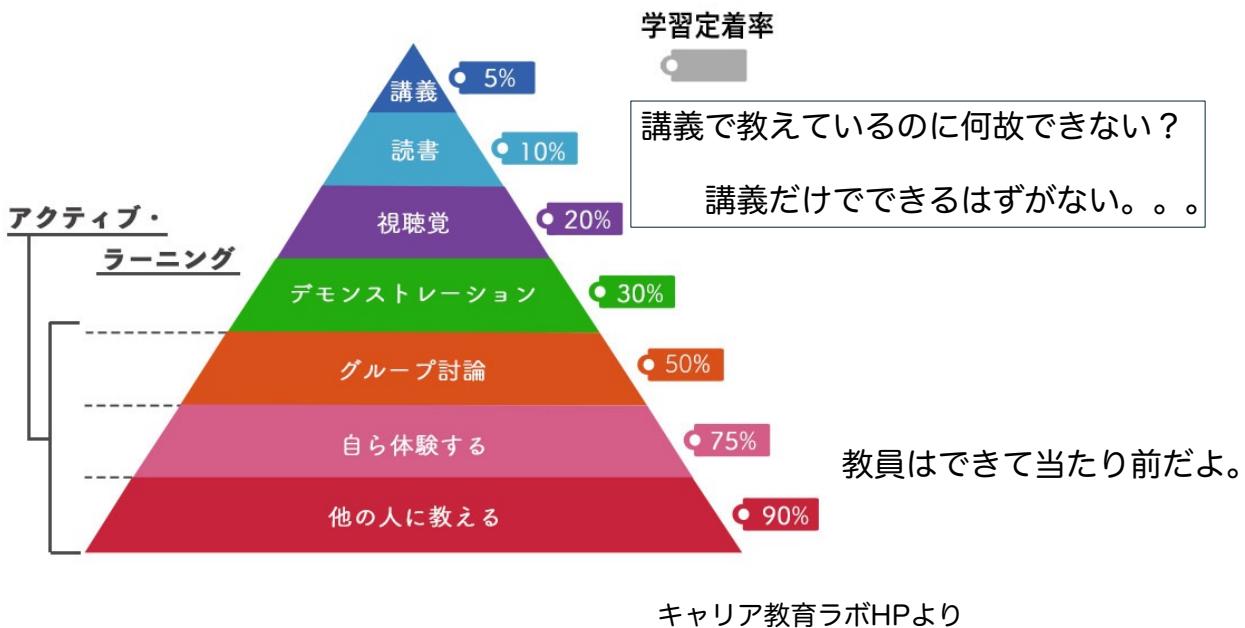
AIが担える部分と、教員にしかできない部分（共感、問い合わせ、価値観の共有）

教材・課題設計者としての教員の新たな役割

AIを活用した学習成果の可視化・分析

ChatGPT 4.0

The Learning Pyramid (ラーニングピラミッド)



国家試験のための勉強の知識をAIから得ていいのか？

プロンプト：歯科医師国家試験のための勉強の知識をAI（大規模言語モデル）から得ていいのか？

✓ AIを活用するメリット

1. わからないことをすぐに調べられる

LLMは辞書的な役割を果たし、「咬合平面って何？」 「カリエスの進行様式は？」などの基本的な疑問に、瞬時にわかりやすく答えてくれます。

2. 反復学習の補助になる

過去問を読み込んで、わからなかった問題について解説を求めたり、選択肢の一つひとつの意味を確認したりできます。

3. 図や概念の理解の助けになる

「歯周病の進行を図にして」 「咀嚼筋の解剖を簡単に説明して」など、イメージ補助にも使えます。

4. 試験対策の戦略相談ができる

「あと3か月でどこに集中すればいい？」 「口腔外科が苦手だけど克服法は？」など、学習計画の相談にも乗ってくれます。

ChatGPT 40

国家試験のための勉強の知識をAIから得ていいのか？

プロンプト：歯科医師国家試験のための勉強の知識をAI（大規模言語モデル）から得ていいのか？

⚠ 注意すべき点・限界

1. 情報の正確性に限界がある

AIの回答は時に間違いを含みます。出典の明示がないものや、医療現場の文脈を無視した内容が紛れることもあるため、必ず教科書や信頼できる資料で確認してください。

2. 最新の出題傾向に対応していない場合がある

AIは基本的に過去の情報を元に応答しています。近年の出題傾向（たとえばチーム医療や多職種連携、EBM関連など）については十分でない可能性があります。

3. 合格に必要な暗記の代わりにはならない

AIは知識の「検索」には強いですが、「記憶」して自分のものにすることは自分でやる必要があります。

4. 一次情報（教科書・資料）に勝るものはない

LLMは教科書や参考書を置き換えるものではなく、補助的な存在と考えるのがベストです。

ChatGPT 4o

国家試験のための勉強の知識をAIから得ていいのか？

プロンプト：歯科医師国家試験のための勉強の知識をAI（大規模言語モデル）から得ていいのか？

⚠ 注意すべき点・限界

1. 情報の正確性に限界がある

AIの回答は時に間違いを含みます。出典の明示がないものや、医療現場の文脈を無視した内容が紛れることもあるため、必ず教科書や信頼できる資料で確認してください。

2. 情報の正確性はどの程度なのか？

AIは連携
正確性を知らずして、使えない、使わせられない

職種



3. 合格に必要な暗記の代わりにはならない

AIは知識の「検索」には強いですが、「記憶」して自分のものにすることは自分でやる必要があります。

4. 一次情報（教科書・資料）に勝るものはない

LLMは教科書や参考書を置き換えるものではなく、補助的な存在と考えるのがベストです。

ChatGPT 4o

ORIGINAL ARTICLE

Performance of ChatGPT-3.5 and ChatGPT-4o in the Japanese National Dental Examination

画像を含む試験は除く

Osamu Uehara DDS, PhD, Tetsuro Morikawa DDS, PhD, Fumiya Harada DDS, PhD, Nodoka Sugiyama DDS, PhD, Yuko Matsuki DDS, PhD, Daichi Hiraki DDS, PhD, Hinako Sakurai DDS, Takashi Kado DDS, PhD, Koki Yoshida DDS, PhD, Yukie Murata DDS, PhD, Hirofumi Matsuoka PhD, Toshiyuki Nagasawa DDS, PhD, Yasushi Furuichi DDS, PhD, Yoshihiro Abiko DDS, PhD ✕, Hiroko Miura DDS, PhD ... See fewer authors ^

First published: 13 November 2024 | <https://doi.org/10.1002/jdd.13766> | Citations: 7

TABLE 3 Comparison of GPT-3.5 (Generative Pre-trained Transformer) and GPT-4o (correct response rate of question category).

Question category	Question (n = 1399), n (%)	GPT-3.5 correct response rate (%; 95% CI)	GPT-4o correct response rate (%; 95% CI)	p Value
All questions	1399 (100.00%)	45.46 (42.85–48.07)	84.63 (82.74–86.52)	<0.001
Essential knowledge	501 (35.81%)	55.89 (51.54–60.24)	90.82 (88.29–93.35)	<0.001
General	892 (63.76%)	39.91 (36.70–43.12)	81.73 (79.19–84.26)	<0.001
Clinical practice	6 (0.43%)			



画像を含む試験は除く

How to cite this article: Uehara O, Morikawa T, Harada F, et al. Performance of ChatGPT-3.5 and ChatGPT-4o in the Japanese National Dental Examination. *J Dent Educ.* 2024;00:00.
<https://doi.org/10.1002/jdd.13766>

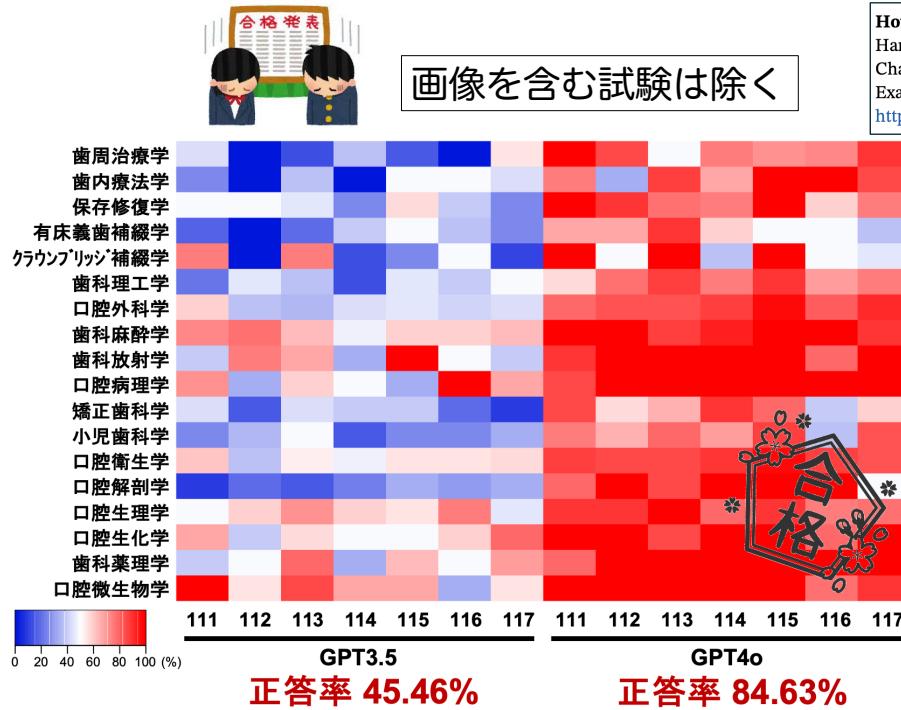


TABLE 4 Comparison of GPT-3.5 (Generative Pre-trained Transformer) and GPT-4o (correct response rate of question subject).

Question subject	Question (n = 1399), n (%)	GPT-3.5 correct response rate (%; 95% CI)	GPT-4o correct response rate (%; 95% CI)	p Value
All questions	1399 (100.00%)	45.46 (42.85–48.07)	84.63 (82.74–86.52)	<0.001
Periodontics	57 (4.07%)	22.81 (11.91–33.70)	77.19 (66.30–88.09)	<0.001
Endodontics	34 (2.43%)	29.41 (14.10–44.73)	79.41 (65.82–93.00)	<0.001
Operative dentistry	43 (3.07%)	44.19 (29.34–59.03)	83.72 (72.69–94.76)	<0.001
Removable prosthodontics	46 (3.29%)	28.26 (15.25–41.27)	60.87 (46.77–74.97)	<0.001
Crown and bridge prosthodontics	39 (2.79%)	30.77 (16.28–45.25)	61.54 (46.27–76.81)	<0.001
Biomaterials	62 (4.43%)	33.87 (22.09–45.65)	74.19 (63.30–85.09)	<0.001
Oral surgery	173 (12.37%)	43.35 (35.97–50.74)	86.71 (81.65–91.76)	<0.001
Anesthesia	130 (9.29%)	63.08 (54.77–71.39)	95.38 (91.58–99.18)	<0.001
Radiology	38 (2.72%)	52.63 (36.73–68.53)	92.11 (83.20–101.02)	<0.001
Pathology	45 (3.22%)	60.00 (45.74–74.26)	97.78 (93.51–102.05)	<0.001
Orthodontics	77 (5.50%)	28.57 (18.37–38.77)	66.23 (55.66–76.80)	<0.001
Pediatric dentistry	99 (7.08%)	30.30 (21.31–39.29)	73.74 (65.12–82.36)	<0.001
Oral health	289 (20.66%)	52.25 (46.49–58.01)	87.89 (84.18–91.60)	<0.001
Anatomy	58 (4.15%)	22.41 (11.61–33.21)	89.66 (81.71–97.61)	<0.001
Physiology	54 (3.86%)	57.41 (44.17–70.65)	87.04 (77.73–96.35)	<0.001
Biochemistry	36 (2.57%)	58.33 (42.31–74.35)	94.44 (86.71–102.17)	<0.001
Pharmacology	42 (3.00%)	57.14 (42.10–72.18)	97.62 (92.96–102.28)	<0.001
Microbiology	77 (5.50%)	67.53 (57.20–77.86)	96.10 (91.89–100.31)	<0.001

GPT-4oにおける正答率は、歯科特有の科目よりも医学と歯学に共通する一般的な科目で顕著に高かった。たとえば、病理学、薬理学、微生物学といった基礎医学分野では、GPT-4oはそれぞれ97.78%、97.62%、96.10%という高い正答率を記録した。

有床義歯補綴（義歯）、クラウンブリッジ補綴学、矯正歯科学の正答率が低いのは何故？？

補綴学のような歯科特有の科目におけるGPT-4oの正答率が比較的低かったのは、視覚的な分析や実技的な経験が求められるためであり。。。また、咬合は医学とは異なり歯科に特有の分野であり、これまでにさまざまな咬合理論が提唱してきた。
(Türp JC, et al. J Oral Rehabil. 2008)

How to cite this article: Uehara O, Morikawa T, Harada F, et al. Performance of ChatGPT-3.5 and ChatGPT-4o in the Japanese National Dental Examination. *J Dent Educ.* 2024;00:00.
<https://doi.org/10.1002/jdd.13766>

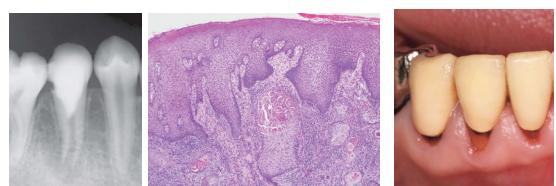


第118回歯科医師国家試験 (ChatGPT-4o)

区分	合格基準	得点
領域A（総論）	58点以上／97点	79点 (81.4%)
領域B（各論）	236点以上／363点	174点 (47.9%)
必修問題	63点以上／76点	69点 (90.8%)
判定	不合格	

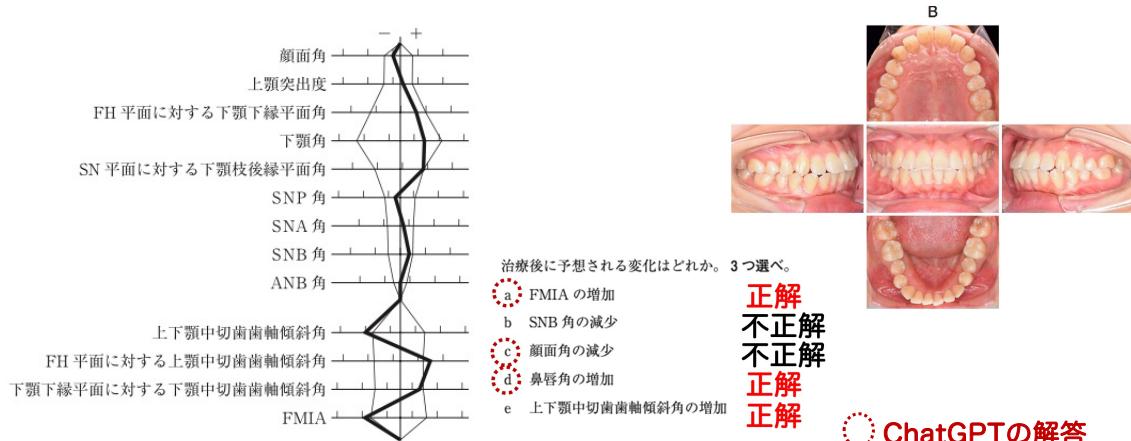
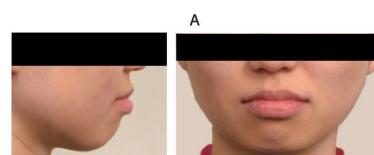


画像データも全部加えたら



第118回歯科医師国家試験ChatGPT-4o不正解例

71 22歳の女性。上顎前歯の突出感を主訴として来院した。診断の結果、上下顎側第一小白歯の抜去後、マルチプラケット装置と歯科矯正用アンカースクリューを併用した矯正歯科治療を行うこととした。初診時の顔面写真(別冊No. 30A)、口腔内写真(別冊No. 30B)及びエックス線画像(別冊No. 30C)を別に示す。セファロ分析の結果を図に示す。



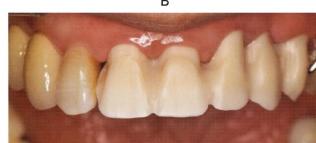
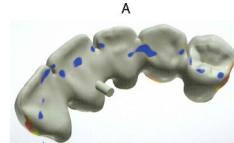
第118回歯科医師国家試験ChatGPT-4o不正解例

77 60歳の女性。①②③④ ブリッジの審美不良を主訴として来院した。診察の結果、ジルコニアを用いたブリッジを製作することとした。CADによる補綴装置のデザイン時の画像(別冊No. 31A)、治療過程の口腔内写真(別冊No. 31B)及び最終補綴装置装着時の口腔内写真(別冊No. 31C)を別に示す。

Bで確認すべきなのはどれか。3つ選べ。

- a 色調適合性
- b 隣接接触関係
- c フレームの適合
- d 鼓形空隙の清掃性
- e レイヤリング部の咬合接触

不正解
正解
正解
正解
不正解



ChatGPTの解答

プロンプト：歯科医師国家試験をAI（大規模言語モデル）に解かせるとどの分野が弱いですか？

LLMが苦手とする歯科国試の分野・傾向一覧表

ChatGPT 4o

分野・カテゴリ	苦手な理由
① 画像問題（X線・口腔内写真・顕微鏡像など）	LLMは視覚情報を扱えないか、解像度・理解精度が低い（※GPT-4Vなど除く）
② 最新ガイドライン・制度問題	学習データが古い場合が多く、2020年以降の改訂や法制度に追いついていない
③ 保健・統計・医療制度	複雑な制度・計算問題に弱く、日本独自の仕組みに対応しきれない
④ 臨床推論問題（複数ステップの症例問題）	病歴 → 診断 → 治療などの連続的判断が苦手。特に「最も適切」な選択肢を選びにくい
⑤ 日本語特有の設問形式・法制度表現	「正しいのはどれか」「適当でないものは？」などの否定表現に混乱

第114回看護師国家試験 (ChatGPT-4o)

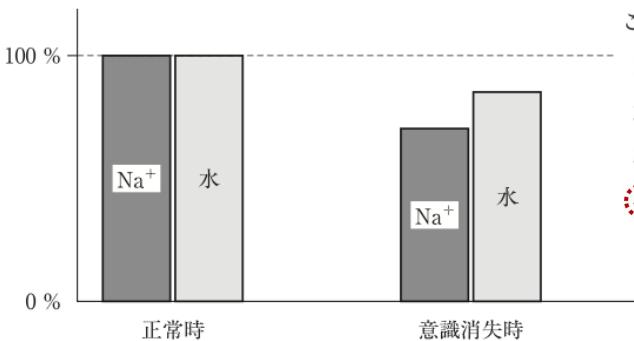
区分	合格基準	得点
必修問題	40点以上／50点	46点 (必修問題 92.0%)
一般問題 状況設定問題	148点以上／250点	224点 (一般問題 90.8%) (状況設定問題 88.3%)
判定	合 格	



第114回看護師国家試験ChatGPT-4o不正解例

27 A君(15歳、男子)は、蒸し暑い夏の午後に行われたサッカーの試合に出ていた。

A君は試合中に大量の汗をかいて、気分が悪くなつたので多量の水道水を飲み、日陰で休んでいたが、突然、意識消失して倒れた。このときのA君の細胞外液のナトリウムイオン濃度と水分量の正常時に対する割合を図に示す。



このときのA君の体液の状態で正しいのはどれか。

1. 細胞内液は減少している。 **不正解**
2. 血漿浸透圧は上昇している。 **不正解**
3. 循環血液量は減少している。 **正解**
4. ヘマトクリットは低下している。 **不正解**

○ ChatGPTの解答

プロンプト：歯科医師国家試験をAI（大規模言語モデル）に解かせるとどの分野が弱いですか？

🦷 LLMが苦手とする歯科国試の分野・傾向一覧表

ChatGPT 4o

分野・カテゴリ	苦手な理由
① 画像問題（X線・口腔内写真・顕微鏡像など）	LLMは視覚情報を扱えないか、解像度・理解精度が低い（※GPT-4Vなど除く）
② 最新ガイドライン・制度問題	学習データが古い場合が多く、2020年以降の改訂や法制度に追いついていない
③ 保健・統計・医療制度	複雑な制度・計算問題に弱く、日本独自の仕組みに対応しきれない
④ 臨床推論問題（複数ステップの症例問題）	病歴 → 診断 → 治療などの連続的判断が苦手。特に「最も適切」な選択肢を選びにくい
⑤ 日本語特有の設問形式・法制度表現	「正しいのはどれか」「適当でないものは？」などの否定表現に混乱

第114回看護師国家試験ChatGPT-4o不正解例

次の文を読み 100~102 の問い合わせに答えよ。

Aさん（87歳、女性）は1人で暮らしている。難聴のため補聴器を使用している。自宅で転倒して痛みで起き上がれなくなり、救急搬送され入院した。搬送先の病院で右大腿骨頸部骨折と診断され、全身麻酔下で人工骨頭置換術を受けた。術後は前腕部に点滴静脈内注射と右大腿の創部に吸引式ドレーンが一本挿入されている。

手術直後の検査所見：赤血球410万/ μL 、白血球7800/ μL 、Hb 12.0 g/dL、総蛋白6.5 g/dL、アルブミン4.0 g/dL、尿素窒素20 mg/dL、Na 145 mEq/L、K 3.8 mEq/L。

術後のドレーン出血量は少量である。創部痛に対して非ステロイド性抗炎症薬の坐薬と内服が処方され、手術当日の21時に坐薬を使用した。

100 術後1日。朝6時のAさんのバイタルサインは、体温36.5°C、呼吸数18/分、脈拍64/分、血压120/82 mmHg、経皮的動脈血酸素饱和度(SpO_2)97% (room air)であった。膀胱留置カテーテルが挿入されていて夜間の尿の流出は良好であった。腸蠕動音が確認できため朝食が開始された。食事時にAさんが顔をしかめていたため、夜勤の看護師が鎮痛薬の内服を勧めたがAさんは「痛みはそれほど強くない」と言った。朝食後に点滴静脈内注射と吸引式ドレーンが抜去された。

午前9時の看護師の観察項目で優先度が高いのはどれか。

- 1. 意識レベル 不正解
- 2. 酸素飽和度 不正解
- 3. 創部痛 正解
- 4. 血圧 不正解
- 5. 尿量 不正解

101 術後1日。午前中に看護師がAさんのバイタルサインを測定しているときは眠っていた。昼食後に看護師が訪室すると、Aさんは多弁で、落ち着かない様子がみられた。

- 看護師のAさんへの対応で適切なのはどれか。2つ選べ。
- 1. 医師に抗不安薬の処方を依頼する。不正解
 - 2. ベッド上で安静に過ごしてもらう。不正解
 - 3. 膀胱留置カテーテルを抜去する。正解
 - 4. ベッド周囲をカーテンで囲む。不正解
 - 5. 補聴器の装着を確認する。正解

102 術後2週。Aさんは杖歩行の練習をしている。見守りをする看護師に「早く家に帰りたいけど、また転びそうで怖いし、元のように歩ける自信がない」と話した。

- Aさんへの声かけで最も適切なのはどれか。
- 1. 「リハビリテーションの回数をもっと増やしましょう」不正解
 - 2. 「カルシウムを多く含んだ食品を摂りましょう」不正解
 - 3. 「少し歩けるようになってきていますよ」正解
 - 4. 「退院先は介護老人保健施設にしましょう」不正解

⌚ ChatGPTの解答

プロンプト：歯科医師国家試験をAI（大規模言語モデル）に解かせるとどの分野が弱いですか？

LLMが苦手とする歯科国試の分野・傾向一覧表

ChatGPT 4o

分野・カテゴリ	苦手な理由
① 画像問題（X線・口腔内写真・顕微鏡像など）	LLMは視覚情報を扱えないか、解像度・理解精度が低い（※GPT-4Vなど除く）
② 最新ガイドライン・制度問題	学習データが古い場合が多く、2020年以降の改訂や法制度に追いついていない
③ 保健・統計・医療制度	複雑な制度・計算問題に弱く、日本独自の仕組みに対応しきれない
④ 臨床推論問題（複数ステップの症例問題）	病歴 → 診断 → 治療などの連続的判断が苦手。特に「最も適切」な選択肢を選びにくい
⑤ 日本語特有の設問形式・法制度表現	「正しいのはどれか」「適当でないものは？」などの否定表現に混乱

第110回薬剤師国家試験（ChatGPT-4o）

<必須問題>

科目	合格基準	得点
物理・化学・生物	10点以上／30点	30点
衛生	6点以上／20点	18点
薬理	10点以上／30点	28点
薬剤	10点以上／30点	30点
病態・薬物治療	10点以上／30点	30点
法規・制度・倫理	6点以上／20点	18点
実務	6点以上／20点	20点
計	126点以上／180点	174点 (96.7%)

<一般問題>

区分	得点
理論問題	190点／210点 (90.5%)
実践問題	256点／300点 (85.3%)

<禁忌肢問題>

合格基準	選択数
2問以下	不明

合格基準	得点	判定
426点以上／690点	620点 (89.9%)	合格？



第110回薬剤師国家試験ChatGPT-4o不正解例

問133 中毒原因物質とスクリーニング試験（試験方法または検査試薬）の組合せのうち、正しいのはどれか。2つ選べ。

	中毒原因物質	試験方法または検査試薬
1	<chem>CN(C)c1ccccc1</chem>	ビリジン-ピラゾロン法
2	<chem>O=C1[C@H]2[C@@H](O[C@H]1C)C[C@H]3[C@H]2[C@H]4[C@H]3[C@H]([C@H]4O)N</chem>	クロモトロープ酸法
3	<chem>CC1=CC=C2[C@H]1C(=O)NC(=O)C2=CC=C1</chem>	銅-ビリジン法
4	<chem>CC(=O)Nc1ccc(O)cc1</chem>	ラインシュ法
5	<chem>CC1(C)OC2=C3[C@H]1[C@H]2[C@H]3O[C@H]2[C@H]1C3</chem>	デュケノア試薬

不正解

不正解

正解

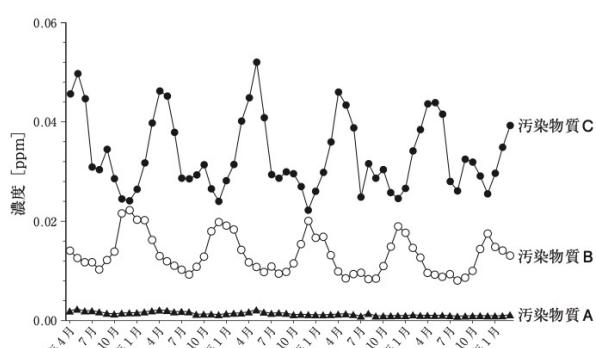
不正解

正解

⌚ ChatGPTの解答

第110回薬剤師国家試験ChatGPT-4o不正解例

問140 下図の汚染物質A～Cは、全国の一般環境大気測定期における窒素酸化物、二酸化硫黄又は光化学オキシダントのいずれかの季節変動を示したものである。汚染物質A～Cに関する記述のうち、正しいのはどれか。2つ選べ。



⌚ 汚染物質Aは、揮発性有機化合物や非メタン炭化水素に太陽光、特に紫外線が照射されることによって生成する。 不正解

2 汚染物質Bは、移動発生源である自動車のほかに、一般家庭で使用される燃焼器具も発生源となる。 正解

⌚ 汚染物質Cは、主に固定発生源における化石燃料の燃焼によって生成する。 不正解

4 汚染物質Aの測定には、ザルツマン法が用いられる。 不正解

5 汚染物質Cの測定には、中性ヨウ化カリウム法が用いられる。 正解

全国の一般環境大気測定期の月平均値の季節変動
(国立環境研究所 大気汚染常時監視データを基に作成)

⌚ ChatGPTの解答

プロンプト：歯科医師国家試験をAI（大規模言語モデル）に解かせるとどの分野が弱いですか？

🦷 LLMが苦手とする歯科国試の分野・傾向一覧表

ChatGPT 4o

分野・カテゴリ	苦手な理由
① 画像問題（X線・口腔内写真・顕微鏡像など）	LLMは視覚情報を扱えないか、解像度・理解精度が低い（※GPT-4Vなど除く）
② 最新ガイドライン・制度問題	学習データが古い場合が多く、2020年以降の改訂や法制度に追いついていない
③ 保健・統計・医療制度	複雑な制度・計算問題に弱く、日本独自の仕組みに対応しきれない
④ 臨床推論問題（複数ステップの症例問題）	病歴 → 診断 → 治療などの連続的判断が苦手。特に「最も適切」な選択肢を選びにくい
⑤ 日本語特有の設問形式・法制度表現	「正しいのはどれか」「適当でないものは？」などの否定表現に混乱

AIは画像問題が苦手な様だ。。。。



歯学部 生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野

北海道医療大学病院「口腔内科相談外来」

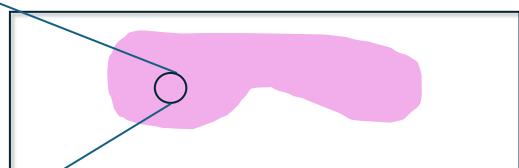
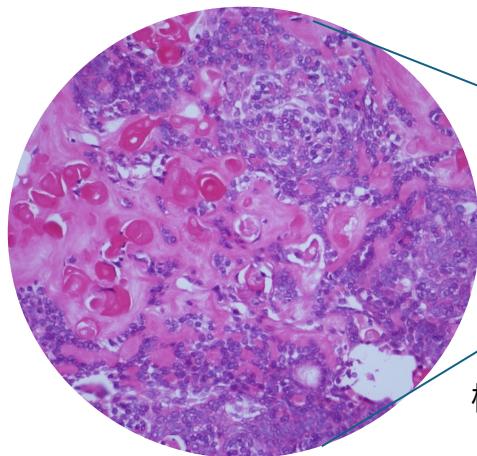
病理と口腔内科の診断に挑戦！

画像診断はどのくらい苦手？



ChatGPT 4o

そもそもAIは病理診断をどの程度正解するのか？



標本スライド全部が病変ではない。

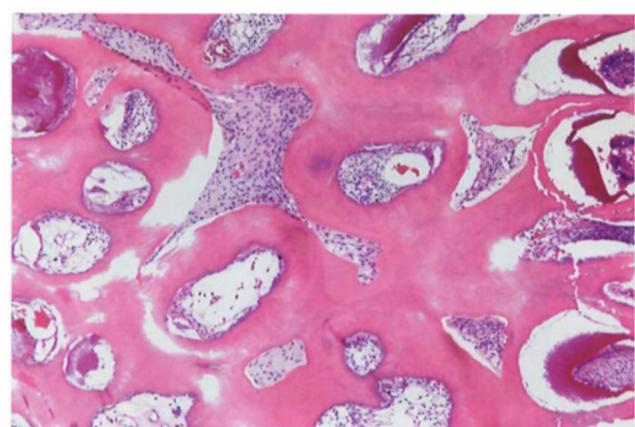
観る部分が重要である。



(例) 第118回 D78

37歳男性。かかりつけ歯科医を受診した際、エックス線画像で左側上顎の異常を指摘され、来院した。これまでに自覚症状なく、口腔内外に腫脹も認められない。切除術を行うこととした。

初診時のエックス線画像、
CT、切除物の写真、および
H-E 染色病理組織像を別に示す。

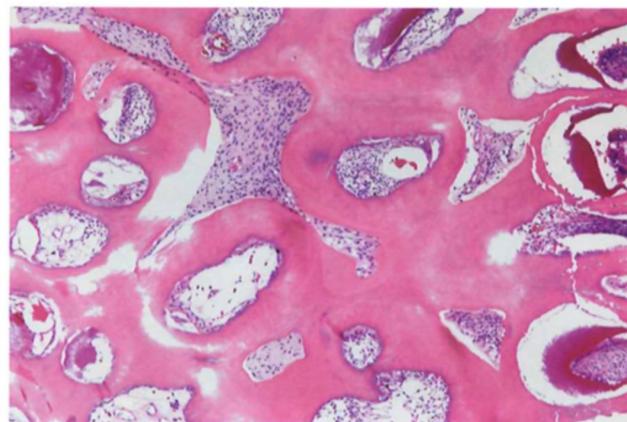


(例) 第118回 D78

37歳男性。かかりつけ歯科医を受診した際、エックス線画像で左側上顎の異常を指摘され、来院した。これまでに自覚症状なく、口腔内外に腫脹も認められない。切除術を行うこととした。

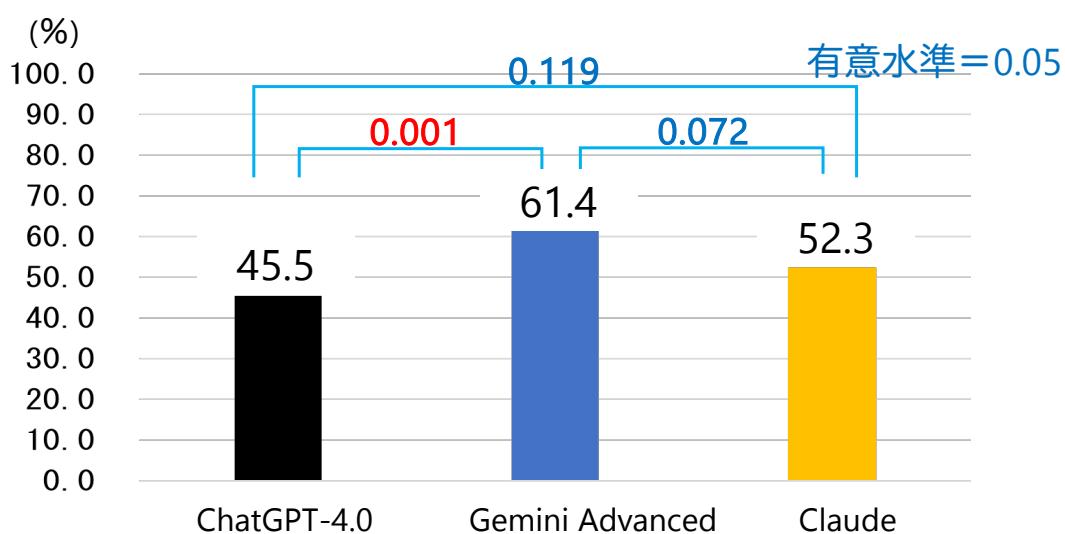
~~初診時のエックス線画像、
CT、切除物の写真、および
H-E 染色病理組織像を別に示す。~~

診断名を一つ挙げよ。



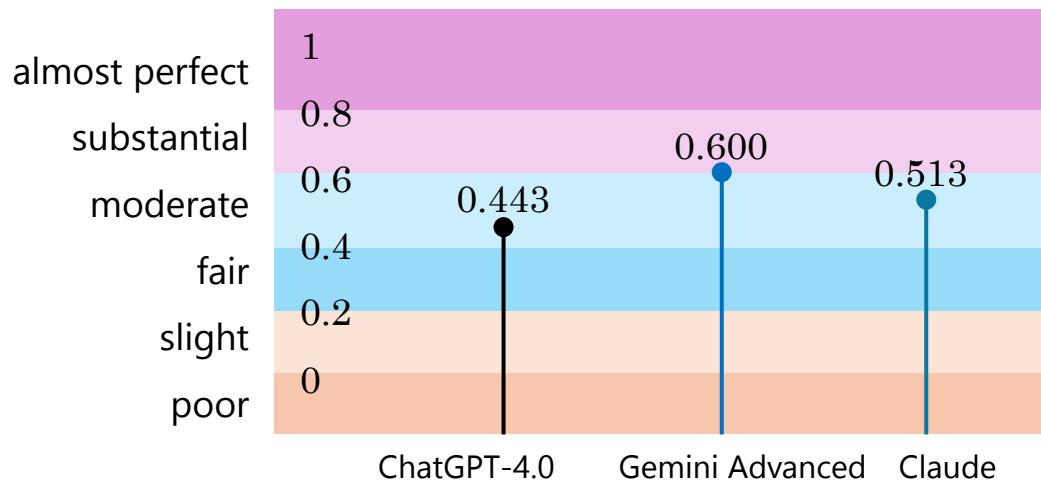
176問の正解率 および LLM間の正確性

(McNemar 検定)

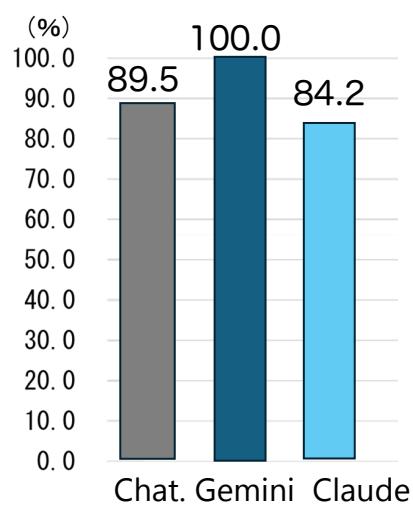


正解の信頼度 (Cohenのκ係数)

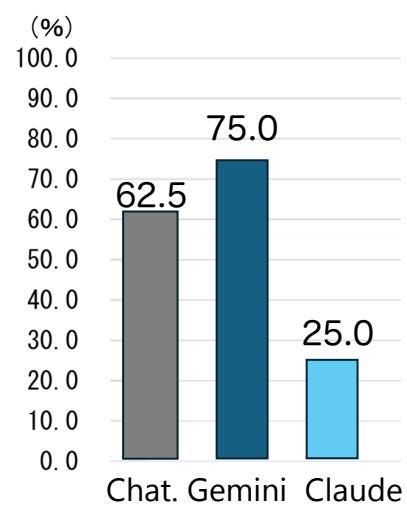
Landis and Koch 基準



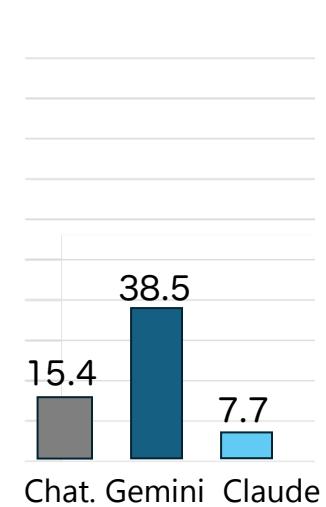
高分化型扁平上皮癌
(19問)の正解率



高分化型以外の
扁平上皮癌(8問)の正解率



唾液腺悪性腫瘍
(13問)の正解率



国家試験の過去問題の画像を用いた病理診断の正確性について

- 診断能力はChat、Gemini、Claudeいずれも「moderate（中等度）」にとどまり、現時点では最終診断に用いるには不十分であると考えられた。
- 正解率はGeminiが最も高く、現時点ではGeminiがAIによる口腔病理診断において最も優れていると評価された。
- 国家試験で最頻出の扁平上皮がんについては、いずれのLLMにおいても診断能力が最も高く、出題頻度の高さが診断精度の向上に寄与していると考えられた。
- 各LLMに共通して誤答が多かったのは唾液腺腫瘍（多形腺腫および腺様囊胞がん）であり、これらの診断精度を向上させることができ、今後の信頼性の高いLLMの開発において重要であると考えられた。

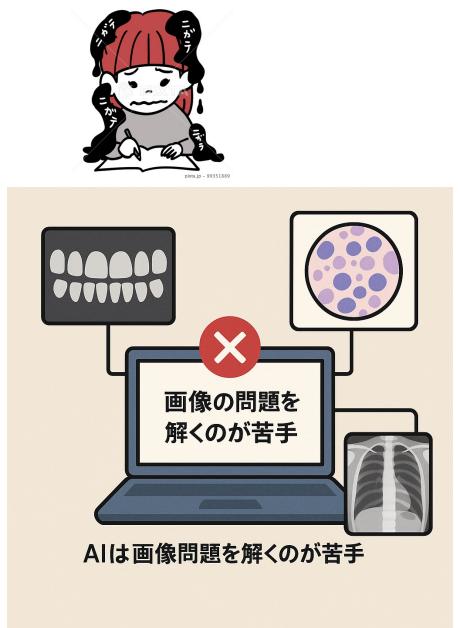
(Watanebe H, Uehara O, Morikawa T..... Abiko Y. in preparation for submission)

AIは画像問題が苦手な様だ。。。。

歯学部 生体機能・病態学系臨床口腔病理学分野
北海道医療大学病院「口腔内科相談外来」

病理と口腔内科の診断に挑戦！

画像診断はどのくらい苦手？



口腔内科の外来で多い『口腔灼熱症候群（舌痛症）』

症例：65歳 女性
主訴：舌の痛み

病変がなく症状のみ。画像の陽性所見が診断に役に立たない

Journal of Pain Research

Dovepress
Taylor & Francis Group

Open Access Full Text Article

ORIGINAL RESEARCH

Evaluating Large Language Models for Burning Mouth Syndrome Diagnosis

口腔灼熱症候群（舌痛症）

Takayuki Suga¹, Osamu Uehara¹, Yoshihiro Abiko³, Akira Toyofuku¹

Journal of Pain Research 2025;18:1387–1405

Received: 2 December 2024
Accepted: 26 February 2025
Published: 19 March 2025
 © 2025 Suga et al. This work is published and licensed by Dove Medical Press Limited, who reserves all copyright and other exclusive rights to the journal and the individual articles contained herein. Any article is available to the reader through the journal website at www.dovepress.com. This article is an open access publication.

Table 2 Number of Correct and Incorrect Answers of Three Large Language Models

	ChatGPT4o	Gemini Advanced 1.5 Pro	Claude 3.5 Sonnet
Correct	99	89	99
Incorrect	1	11	1



病理学、薬理学、微生物学といった基礎医学分野では、GPT-4oはそれぞれ高い正答率を記録した（Uehara O et al., J Dental Edu, 2024）。

✓ 得意な分野

一方で、LLMは以下のような分野ではかなり高い正答率を示します：

分野	特徴
解剖学・生理学	基礎的な定義や構造に関する質問には非常に強い
歯科材料学	機械的性質や成分に関する知識は豊富
薬理学	作用機序、副作用などの説明は得意
微生物学・免疫学	細菌・ウイルス・ワクチンなどに関しては多くの情報を保持
医療倫理・患者対応	ケースバイケースの判断を求められない問題には強い

ChatGPT 4o

ChatGPT 4o のアクティブラーニングへの応用例

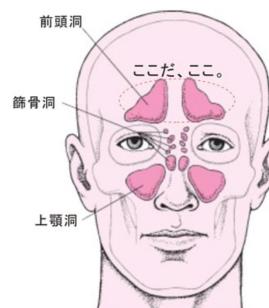
プロンプト：添付のハンドアウトを元に歯科医師国家試験の問題形式Aタイプ、X2、X3、X4タイプの問題を一問づつ作成して？

私の病理学、「炎症」のハンドアウトの一部

- 1) 濁液性炎：()が多い。浮腫になる。
例) (), アレルギー性炎

- 2) 線維素性炎：()を含んでいる。
例) 線維素性心内膜炎、()

- 3) 化膿性炎：多量の ()を含んでいる。
 - a. () 一限局性
例) ()
 - b.蜂窩織炎— ()
例) ()
 - c. () 一体腔への貯留,
例) ()



プロンプト：添付のハンドアウトを元に歯科医師国家試験の問題形式Aタイプ、X2、X3、X4タイプの問題を一問づつ作成して？

【Aタイプ（五肢択一式）】

形式：5つの選択肢から1つの正答を選ぶ

問題：

急性炎症に最も関与する細胞はどれか。

A. 好酸球

B. 好中球

C. マクロファージ

D. リンパ球

E. 形質細胞

2 【X2タイプ（2つ選択）】

形式：5つの選択肢から2つの正答を選ぶ（順不同）

問題：

炎症の五徴候に含まれる症状を2つ選べ。

A. 悪寒

B. 発赤

C. 発熱

D. 熱感

E. 機能障害

4 【X4タイプ（4つ選択）】

形式：7つ以上の選択肢の中から4つを選ぶ

問題：

炎症の原因として正しいものを4つ選べ。

A. 放射線

B. 酸・アルカリ

C. ビタミン欠乏

D. 細菌感染

E. 自己免疫反応

F. 嗜好品の過剰摂取

G. アレルギー

ChatGPT 4o

プロンプト：臨床実地問題も作って

【症例】

65歳男性。糖尿病の既往があり、下顎右側第二大臼歯の自発痛と腫脹を主訴に来院した。2日前から疼痛が出現し、昨日より顎下部の腫脹と圧痛が著明になった。体温は38.2°Cで、咬合時痛と嚥下困難も認められる。口腔内では同部位に重度の歯周病と深いう蝕があり、頬粘膜に波動感を伴う腫脹が観察された。

【設問】

この患者の状態として最も考えられる病態はどれか。1つ選べ。

A. 壊疽性炎

B. 蜂窩織炎

C.漿液性炎

D. 線維素性炎

E. 肝硬変による浮腫



ChatGPT 4o

【解説】

- 本症例では、**歯性感染（根尖病巣など）**を契機に、顔面～頸下部にかけて急激に広がるびまん性の炎症が観察される。
- 蜂窩織炎は化膿性炎の一種で、膿瘍の限局がなく、広範囲に炎症が波及するのが特徴。
- **壊疽性炎（A）**は嫌気性菌感染などで壊死が起こる場合だが、本症例では壊死の記載がない。
- **漿液性炎（C）や線維素性炎（D）**は軽度の炎症や粘膜面に限られた病態であり、今回のような深部組織の炎症とは一致しない。
- Eの肝硬変による浮腫は全身的・慢性のもので、急性局所炎症とは異なる。

ChatGPT 4o

ChatGPT 4o のアクティブラーニングへの応用例

プロンプト：AIの間違いのファクトチェックを歯科医師国家試験の勉強に応用する方法は？

- AIの誤答を検証して正しい知識を定着させる
- AIの誤答から学ぶ「ひっかけ問題」への対応力の強化
- 自作問題をAIにチェックさせて「出題者目線」を養う
- AIの間違いをグループ学習に活用



ChatGPT 4o

ChatGPT 4o のアクティブラーニングへの応用例

プロンプト：AIの間違いのファクトチェックを歯科医師国家試験の勉強に応用する方法は？

1. AIの誤答を検証して正しい知識を定着させる

ステップ1：AIに問題を出題する

例：国家試験の過去問や模擬問題をAIに解かせる。

ステップ2：AIの回答を自分で確認・評価する

解答や解説を参照して、AIの誤答・誤解を発見する。

ステップ3：間違いの原因を調査・考察する

なぜAIが間違えたのか？どのキーワードに反応したのか？どの知識が足りなかったのか？などを分析。

ステップ4：正しい知識を言語化・整理する

自分の言葉で解説をまとめたり、ノートにまとめたりすることで記憶が定着する。

ChatGPT 4o



グループ討論のためのヒント

テーマ：生成AIの実践的・効果的な講義での利用法

💬 グループ討論で使える問い合わせ（配布資料やスライド用）

1. あなたの講義・実習で、AIをどう活用できそうですか？
2. 学生の学びを深めるために、AIをどの場面で使うと効果的ですか？
3. AIを使わせる際に、どんな指示（プロンプト）を学生に与えるべき？
4. 「AIがいるから授業を聴かない」といった事態をどう防ぐ？
5. 自分の授業で「まず試してみたい活用法」は何か？

ChatGPT 4o

グループ討論のためのヒント

テーマ：生成AIの国家試験対策への活用法

グループ討論で使える具体的な問い合わせ（配布資料用にも）

1. あなたの授業で、国家試験対策としてAIをどう使えそうですか？
2. 「学生がAIを使いすぎて考えなくなる」リスクへの対策は？
3. 学生にAIを使わせるとき、どんなプロンプトや課題が効果的？
4. AIに問題を作らせたり、解説させたりする際に気をつけるべきことは？
5. AIの誤答を活かした「間違い探し」型学習の可能性は？

ChatGPT 4o

本日のまとめ

1. 大規模言語モデルが示すアクティブラーニングの可能性を知るためには、それぞれの専門分野でのAIによる精度を検討する必要がある（精度を知らずして、使えない、使わせられない）。

2. 現時点では、概して基礎医学系の問題の正答率はかなり高いために（95%以上）、この分野の一次調査には向いている（二次確認が必要）。

3. 画像や臨床写真が含まれるものに対しては、
精度が著しく劣る傾向がある。

4. アクティブラーニングの手法として、AIに問題をつくってもらうことや、フェクトチェックをする方法がある。



ChatGPT 4o

本日、最後のプロンプト

プロンプト：添付の様なFDがあります。私、安彦善裕も講演をします。私の講演の内容は添付のスライドではどうですか？総評をしてください。

ChatGPT 4o

ワークショップ
プロダクト

「教育におけるAI活用： 学習支援の新しい可能性」

多様な学力レベルの学生に対応し、一人ひとりの学びを深めるためのAI活用方法を探る。

本プレゼンテーションでは、**学生の主体性を引き出しながら**効果的にAIを教育に取り入れる具体的な手法を紹介する。



多様な学力レベルに対応するAI活用法

1. 試験・課題におけるAI活用



2. 学力差への段階的対応

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ①AIによる適応型の選択問題作成 | ②基礎学力が不足している学生へAIサポート |
| ③間違えた問題へ即時フィードバック | ④中間品質の文章をAIで作成し学生が修正 |
| ⑤学生の理解度に合わせた難易度調整 | ⑥達成感を持たせるための細やかな評価 |
| ⑦複数講義の内容を統合した問題生成 | ⑧個々の進捗に応じたカスタマイズ学習 |

レポート作成におけるAIの効果的活用

ステップ1: 自力での思考

まず**学生自身がテーマについて考え方**、アイデアや論点を整理。この段階ではAIを使用せず、自分の知識や考えを明確にする。

ステップ2: AIによる補助

初期アイデアをもとに、**AIを活用して文章構成や表現の改善案**を得る。文章作成能力に差がある学生も、適切なサポートを受けられる。

段階的なプロセスにより、学生は文章力を徐々に向上させながら、AIを効果的に活用する能

ステップ3: 校正と深化

AIの提案を**批判的に検討**し、自分の意図に沿った修正を行う。AIとの対話を通じて、より深い思考と表現力の向上を目指す。

学習の深化を促すAI活用の仕組み

1 AI回答の批判的検討

AIが提供した回答を単に受け入れるのではなく、妥当性や限界を検討するよう学生に促す。「このAIの回答の弱点は何かい？」どのように改善できるかといった問い合わせが有効。

2 AIを活用した理解の確認と拡張

確認試験で理解が不十分だった点について、AIに調べさせ、その内容を自分の言葉で解説させる。この過程で、単なる情報収集から理解の定着へと学習を深化させることができる。

3

AIとの対話による思考の発展

AIとの対話を通じて、自分の考えをさらに発展させるプロセスを設計。「もし~だったら？」という仮説思考や、複数の視点からの検討を促すことで、より高次の思考力を育む。



今後の教育におけるAI活用の展望



実践のポイント

- ・AIを「使う」ではなく「共に学ぶ」という姿勢
- ・学生の主体性を引き出す仕掛けづくり
- ・段階的な学習プロセスの構築
- ・個々の学生状況に応じたきめ細かなサポート
- ・AIリテラシーと批判的思考力の同時育成

生成AIは単なるツールではなく、学生が主体的に学び、成長を実感できる教育環境を実現するための重要なパートナーとなる。

生成AIの 国家試験対策への活用法

「AIで学習支援・意欲向上・実態把握を実現」



グループワークと AI活用の意義

なぜグループワークなのか

学生の質によってAI活用の難しさがあります。プロンプト入力の向上や正誤のチェック、および学生間での学び合いのためにグループワークを選択しました。



グループワークでの具体的な役割分担

1 要点抽出担当

学習内容から重要ポイントを抽出します

3 解答評価担当

AIからの回答の正確性を評価します

2 プロンプト作成担当

効果的なAIへの質問方法を考案します

4 プロンプト評価担当

解答を見てプロンプトの適切さを評価します

Made with GAMMA



教員の関わり方

プロンプト例の提示

教員がプロンプトA-C案を提示し、学生に抽出させます。その後、学生自身が適切なプロンプトを入力できるようにします。

画像問題への対応

AIで作問する場合、画像問題は教員が補う必要があります。学部によって画像問題数の差があることに注意が必要です。

AIの活用方法

✓ ファクトチェック

AIが間違えた国家試験問題のファクトチェックを学生が行います



弱点対策

AIが苦手な分野の問題を抽出し、学生が解答を作成します



問題作成

AIを使って問題を作成し、理解度を深めます

Made with GAMMA

導入時期と方法

低学年時

AI活用法を学ぶ基礎的な機会をつくる。

1

国試対策前

本格的に国家試験対策を始める前に、国試対策への活用について学ぶ機会を設ける。

2

フリータイム活用

講義内だけではなく、フリーの時間や補助手段として活用。実習期間やガイダンスなどの説明も検討。

3

学生のグループ配置は重要です。チューター制として、優秀な学生さんのためにもなります。

Made with GAMMA

学習支援ツールとしてのAI導入

① なぜ学習支援ツールとして導入するのか

最終的には「学生の学習傾向と試験データを活用した指導への活用」を行いたいですが、現実的には難しいです。まずは、AIをモチベーションややる気を向上してくれるようなツールとして活用します。

Made with GAMMA

モチベーション向上のためのAI活用法



質問方法の相談

どうやって質問したらいいかをAIに聞きます。



お気に入りAIの活用

AIにお気に入り、推しをつくり、対話してほめてもらいます。



達成感の創出

達成感を持たせる、一緒に勉強したり、悩みを聞いてもらうツールにします。

Made with GAMMA

実態把握の必要性

学生さんのAI活用の実態と成績の関連性をアンケートで調査する必要があります。

既にレポート作成や質疑応答にはAIを活用している可能性が高いため、新たな活用方法を提示することが重要です。

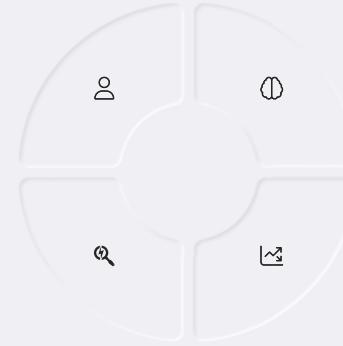


Made with GAMMA

まとめ：AIで実現する国家試験対策

グループワーク活用

学生間の学び合いを促進し、AIの効果的な活用を実現します



学習支援

AIを活用して学習効率を高め、理解度を深めます

実態把握

AI活用と成績の関連性を調査し、より効果的な指導法を開発します

意欲向上

モチベーションを高め、継続的な学習を支援します

Made with GAMMA

ワークショップ

感想

全学FD研修(テーマ編)に参加し、生成AIを教育に活用する可能性と課題について多くの学びを得ました。午前中はまず、薬学部の二瓶教授より、生成AIの基本機能と教育現場での活用例について講義がありました。教材作成や文書校正、グループワークへの応用など、実演を交えた具体的な紹介により、実践への理解が深まりました。続いて、歯学部の安彦教授からは、国家試験問題をAIに解答させた実例を通じて、AIの得意・不得意分野や限界、そしてアクティブラーニングへの応用可能性について示唆に富んだお話をいただきました。午後のワークショップでは、他学部の先生方と協力し、生成AIを活用した国家試験対策に関する発表資料作成に取り組みました。早速AIツールを活用し、実際に作業効率が大幅に向上しました。おかげで議論そのものに集中しやすい実感も得られたことはすばらしい体験でした。今後の教育実践において大きな示唆となったと感じました。このような有意義な機会を提供してくださった全学FD委員会の皆様に、心より感謝申し上げます。

(薬学部 室本 竜太)

ワークショップでは、生成AIを講義で実践的かつ効果的に活用する可能性について検討しました。これまで「AI」という言葉は何度も耳にしていたものの、自分で実際に使った経験はなく、どこか敷居の高さを感じていました。しかし、午前の講義で基礎から応用までを学び、AIでどのようなことが可能か、また大学教員としての活用法について具体的なイメージを持つことができ、大きな可能性を感じました。一方で、ワークショップを通じて、「使い方次第で学びの質を左右する」という重要な視点も得ました。AIは非常に有用なツールである一方、誤った使い方をすれば逆効果にもなりうるのだと考えます。その特性を理解した上で慎重に活用すべきだと実感しました。今後もさらに学びを深めていきたいです。

(薬学部 奥田 衣理)

私はこれまでほとんど生成AIに触れたことがなく、ニュースでAI生成物の利用や課題に関する否定的な報道を目にしていたため、使うことに不安を感じ、FD研修の前にも試すことができませんでした。しかし今回のセミナーで、生成AIの仕組みや教育・業務への活用方法、さまざまなソフトの存在について学ぶことができ、とても参考になりました。これまで抱いていた印象とは異なり、生成AIを「使わない」方向から「どう活用するか」を考える流れへ変わってきていることを実感しました。また、ワークショップでは参加者の先生方の多くがすでに利用していることに驚くとともに、利点や課題、教育へのつなげ方について具体的な意見を聞けたのも大きな収穫でした。今回のFD研修をきっかけに、私も生成AIを実際に利用しながら学生への教育にうまく取り入れていきたいと考えています。

(薬学部 鈴木 桃子)

本WSに参加したことでAIの種類や使用法についての理解が深まり、教育、臨床、研究において非常に有効な補助的ツールであることが分かった。また既に選択問題作成や、間違えた問題に対するフィードバック、レポートの採点等に使用している先生もいることに驚いた。私も本WSでAIへの価値観が大きく変わり、作業効率の向上を目的に今後は使用していくと考えている。グループワークの話し合いの中で、特に画期的だと感じたのは、学力面、やる気の面で遅れている学生への能力の差を埋める補助として使用するという意見であった。現状では、講義や実習についてこれない学生ほど手をかける必要があり、教育に時間をさかれてしまう。特に、頑張っていない学生に時間をさき、頑張っている学生に時間をさけないというのは平等とは言えないのではないかと常々考えていた。本来、頑張っている学生ほど時間をかける、または全員に同等に時間をかけることが平等と言えると思っている。こういった問題に対してAIの使用は、有効ではないかと考えさせられた。具体的には、レポートの作成の補助としての使用、文章校正の指導、考え方のプロセス形成、リテラシーの学習、基礎的な知識

の定着にAIを利用できないかと考えている。しかし、AIに答えさせるだけでは知識が定着するとは考えられないので、学習状態の評価を定期的に行い、自己評価をしてもらう必要もあるのではないかと思った。教員側の使用方法としては、選択肢問題の作成や、回答に対する採点やフィードバックに使用することで大幅に作業効率が上がることを期待している。また、簡単なスライドなど資料作成の補助としても時間短縮が期待される。学生がAIを使用することが当たり前になっている現代で、教員も使用方法を知るべきであり、今後はAIをビジネスパートナーとして積極的に使用していこうと考えている。

(歯学部 清水 伸太郎)

今回のFD研修会では、生成AIの教育現場での活用について多くの学びがありました。午前中の講演では、生成AIが日々進化し続けている現状と、その具体的な活用法として国家試験対策への応用事例を知ることができました。一方で、AIの限界や注意点についても触れられ、活用には人間の判断力が不可欠であることを再認識しました。午後のワークショップでは、「ChatGPT」を用いてアイディア出し合い、「Gamma」というプレゼンテーションツールを使ってプロダクトを作成しました。AIのサポートにより短時間で質の高いアウトプットが生まれたことに感動しました。AIと人間が協働する新しい学びの形を体験でき、今後の教育実践への活用に大きな可能性を感じました。

(歯学部 萩輪 映里佳)

生成AIに関する講義を通して、ChatGPTやGammaなどのツールが教育において非常に有用であることを知りました。特に国家試験対策においては、AIの活用によって学生一人ひとりに応じたきめ細やかな学習支援が可能となり、効率的かつ効果的な指導が実現できると実感しました。また、他学部の先生方とのワークショップを通じて、AIは学生の学習の進捗や理解度を可視化し、弱点の把握や学習意欲の向上、さらには教育現場における実態の把握にも大きく貢献できるという共通認識を持つことができました。

今後は、学生の特性や学習スタイルに応じた柔軟な対応が進められるよう、自らもAIに関する知識をさらに深め、実際の教育活動にどう活かせるかを考えていきたいと思います。教育現場におけるAI活用の可能性を改めて認識する大変貴重な機会となりました。ありがとうございました。

(歯学部 堀江 尚弘)

研修を通して、AIができることと限界を理解して、教育において効果的に活用する方法を学びました。学生が行うレポート作成においては、それぞれの学生のレディネスに応じて、学生自身の思考をもとにして、学びを深めたり、発展させたりする際に活用していくことができると感じました。また、国家試験対策においては、アクティブラーニングを活用したグループ学習の他、学生が受験した模試の結果を継続的にAIに投入し、学習のマネジメントやモニタリングにも活用できる可能性を感じました。すでに授業でも取り上げられているとは思いますが、学生自身が効果的にAIを活用できるよう、適切な活用方法についての理解が深まるような機会が必要だと考えます。研修を通して、学生が「自分で考える力」を育む手助けになるように活用していきたいと考えました。

(看護福祉学部 明野 聖子)

今回の研修では、他領域での生成AIの活用方法を知り、自らの教育活動にどう生かせるかを考える良い機会となりました。これまで私は、AIの利用が学生の思考力を奪い、達成感を損なうのではないかと懸念し、否定的に捉えることが多くありました。しかし研修を通じ、AIは使い方次第で教育成果を高め、学習を支援する有効な手段となり得ることを理解しました。

また、グループワークを通して他の参加者の意見を聞き、各分野における生成AIの具体的な活用事例や課題を共有できることは大変有意義でした。同時に、自分自身の知識や理解がまだ十分でないこともあります。今回得た学びを今後の教育や研究に積極的に取り入れていきたいと考えています。

(看護福祉学部 山口 夕貴)

近年、生成AIの進化は目覚ましく、教育現場もその変化への対応を迫られている。このような状況の中で、二瓶先生のご講演は非常に興味深く、有意義な学びとなった。AIの多様な分類に加え、ChatGPTがExcelにも応用可能であることは、今後の業務や授業運営に活かせると感じた。特にGammaを用いたスライド作成は、すぐにでも取り入れたい実践的な内容であった。以前から関心のあったオンデマンド型の講義動画配信についても、すでに多言語対応のシステムが開発されており、今後は学部学生の学習環境整備に向けて、自ら教材作成に挑戦したいと考えている。グループワークでは、必ずしもAIの活用に明るい教員ばかりではなかったが、文章生成について熱のこもった議論となりAI活用に対する理解を深める必要性を感じた。今後は画像・音声・動画の生成など、AIの多様な可能性についても幅広く学んでいきたい。AIを活用した教育の可能性を実感できた研修であった。

(看護福祉学部 池森 康裕)

AIを国家試験対策に活用する方法を考える中で、単なる問題の解説や用語検索にとどまらない、多様で深い活用の可能性に気づくことができました。AI活用でよく挙がる課題である「情報の正確性の見極め」や「検索の難しさ」については、学力差を考慮したグループワークで学生同士が補い合い、教員は方向性だけをサポートするという形が、現実的かつ有効だと感じました。また、個別最適化には学生自身のデータ提供が必要であり、その協力体制づくりの重要性も再認識しました。その一方で、AIをやる気の引き出しや維持のツールとして活用するという視点も得られ、学習の心理的側面への応用も重要であると感じました。

午前のレクチャーを通してAIの活用可能性の広さを実感できたことで、グループワークでは課題解決に向けた具体的な提案へと発展させることができ、学びの可能性を大きく広げる非常に充実した研修となりました。今後の授業や学生支援においても、積極的に取り入れていきたいと感じました。

(リハビリテーション科学部 用田 歩)

ワークショップでは、学生の中でも特に支援が必要な層にとってAIは便利である一方単に「簡単に使える」ことで、学びが浅くなってしまい実力の定着を妨げる懸念が共有されました。特に、レポートや実習日誌など、自分の言葉で考えを表現する課題において、AIをどう活用すれば学生の達成感やモチベーションにつながるのか、多くの視点から考えることができました。また、教員自身がAIの仕組みや利点・課題を理解し、適切なプロンプトの指導や活用タイミングの工夫が必要であることが明らかになり、私自身はこれまでAIは授業の効率化に役立つツールになるだろうという程度の考えでしたが、それを生かすためには、教員側がAIの仕組みや使い方をしっかり理解する必要があることに改めて気づかされました。学生の学びに寄り添う「伴走者」としてのAIの可能性を感じた学びの多い時間となりました。

(リハビリテーション科学部 近藤 里美)

今回のFD研修会を通じて、AIは単なる便利なツールではなく、学ぶ姿勢そのものを見つめ直すきっかけになると感じました。適切なプロンプト作成が学習の質を左右するように、AIから何を引き出すかは使う側の思考力にかかっています。そのためには、早い段階からAIと向き合い、自らの疑問を言語化する練習が必要だと思われます。

学習の主導権はあくまでも学生本人が持ちますが、AIを学びを支えるサポート役として活用することは有用です。そのためには教員も新しい技術を理解し、共に学び続ける姿勢が欠かせないと感じました。AIには不得意な分野や限界もありますが、それらを踏まえて教育や評価にどう生かすかを考える視点が重要です。今後は授業や教材設計の中でAIを積極的に取り入れ、学生が主体的に思考し試行錯誤できる環境を整えることが、教育者としての大きな課題だと改めて感じました。

(リハビリテーション科学部 才川 悅子)

私はワークショップに参加するのは初めてだったので、始まる前はかなり緊張しておりました。しかし、一緒に参加した先生方が積極的に話を進めて下さったので、スムーズに話を進めることができました。テーマについて、「生成AIの国家試験対策への活用法」ということで、私は生成AIを自身で利用したことがほとんどなかったため、理解できない部分が多いかと思っておりました。しかし、午前中のレクチャーや参加した先生方のご意見に加え、実際にChat GPTによる討論の補助的使用やGammaを利用した発表スライドの作成といった生成AIを利用してワークショップを進めたことで、生成AIが今までよりもより身近に感じることができました。今後、自分自身で生成AIがどれだけ利用できるのかはまだわかりませんが、ワークショップで出た意見などを参考にして、国家試験対策だけでなく、様々な仕事に応用できなか考へてみたいと思いました。

(医療技術学部 山崎 智拡)

F D 委員感想

生成AIの国家試験対策への活用をテーマとしたFD研修にファシリテーターとして参加し、教育における生成AIの可能性と課題を改めて実感しました。参加者の多くは薬学以外の分野の教員でしたが、生成AIによる問題作成、自学自習支援、理解度の可視化といった多く共通点があることを確認でき、分野を超えた活発な議論が展開されました。薬学部教員としては、国家試験の出題傾向や学修到達度との整合性、医療倫理への配慮など、専門性の高い教育への応用において留意すべき点も多いと感じました。今後は、AIの利便性を取り入れつつも、教育的判断とのバランスを保ちながら、より効果的な学習支援の方法を模索していきたいと考えます。

(薬学部 柳川 芳毅)

2025年度全学FD研修(テーマ編)にFD委員として参加をさせていただきました。今年度のFD研修は「発展し続ける生成AIの講義での活用について」というテーマで二瓶先生と安彦先生にご講演いただきました。二瓶先生からは生成AIを用いた活用方法についてエクセルデータを整理するなど、具体的な方法を提示いただきました。また、安彦先生からはAIの国家試験の回答精度からみたAIの特徴についてのご発表がありました。どちらのお話もAIを教育に取り入れていくうえで、非常に参考になるお話でした。午後からのワークショップでは「生成AIの国家試験対策への活用法」のテーマに参加をさせていただきました。グループ内の討論では、参加者の体験談やAIの使用経験などを踏まえて、活発なディスカッションが行われてました。ChatGTPの使用に慣れている先生の方が、より具体的な活用法をイメージできるテーマであると感じました。

(歯学部 豊下 祥史)

本年度の全学FD研修は「学生を中心とした教育をすすめるために一発展し続ける生成AIの講義での活用について」をテーマとして企画・運営に携わった。午前中のレクチャーでは、生成AIの基本的な仕組みから教育現場における活用事例、国家試験対策における可能性と限界まで幅広い知見が示され、参加者が多角的に考える契機となった。午後のワークショップでは、学部の枠を超えて活発な議論がおこなわれ、授業改善や国家試験対策に直結するアイデアが共有されたことは大きな成果であった。AIの利活用は万能ではなく、正確性の限界や倫理的課題も抱える一方で、学生の主体的学習を促進する契機となることを確認できた。また、AIはあくまで手段であり、何のために活用するのか、その目的を明確にし、学生の学びを促し教育の質を高める視点を持つことが重要であると感じた。今後は、今回得られた議論を教育活動に実装しつつ、FD研修でのファシリテーターとしての役割をさらに充実させていきたい。

(看護福祉学部 明野 伸次)

二瓶先生のレクチャーからはAIによって効率的にバリエーションに富んだ教材を作成する方法、望ましいレポートの雛形の提供などの具体的活用方法学べた。安彦先生は、レクチャーがAIによる講義作成の工程を示しており、AIの得意不得意など批判的な見方をリフレクションしながらの国試対策への活用方法を学べた。ファシリテーターとして参加した午後のWSでは、WSの会議録からAIが作成したプレゼン資料に、議論してもいい内容が勝手にスライド含まれており、AIのリスクを目の当たりにした。(二瓶先生によればAIの類推による作成だそうである。)綺麗に仕上がった資料はメンバーの満足感と議論の終焉をもたらし、1時間の残り時間を前に議論の情熱は去った。例年のような、メンバーがギリギリまで議論を重ねる姿や何度もまとめを読み合わせる姿もなかつことに私は驚いた。私は批判をしたいのではない。便利なAIによって私たちの心も影響を受けていくことは避けがたい。我々の心に生じたものを余裕とみなすか、リスクとみなすかは組織や各人の見識が問われていくだろう。ただ、

対人援助職である私たちは、利便性を求める以上に、自身の心の内省なくして真なる教育の向上はないのではないかと思った。

(看護福祉学部 八木 こずえ)

今年の全学FD研修(テーマ編)は「学生を中心とした教育をすすめるために」をメインテーマに、「発展し続ける生成AIの講義での活用について」をサブテーマとして開催された。

午前のレクチャーに続いて開かれたワークショップでは、欠席した参加者の代わりに「生成AIの実践的・効果的な講義での利用法」をテーマとするグループのディスカッションに加わった。生成AIに日常触れる頻度はメンバー間で様々であり、メール文面チェックや授業資料を読み込ませて練習用の選択問題を作らせるという活用事例が出された。

ただ、授業全体を通して本格的に利用するまでにはどのメンバーも至っておらず、その意味では実体験に基づいた深みのある議論にはならなかったと感じた。実際の様々な活用事例に触れて自分でも実際に使ってみるという体験の場が提供されていたら、より広がりと深みのある活発な議論につながったのではないかと思う。

(心理科学部 齊藤 恵一)

午前のレクチャーでは、AIを講義や国家試験対策にどう活用できるかについて、具体例を交えて紹介いただいた。午後のワークショップでは、グループ1「生成AIの実践的・効果的な講義での利用法」のファシリテーターを務めた。ディスカッションは参加者主体で円滑に進み、私は必要に応じて情報提供を行う程度であった。学力差の拡大への対応として、演習問題の作成やレポートの文章指導にAIを活用することで、低学力層への支援につなげられるという意見が出された。また、学生がAIに依存しすぎて主体的な思考を失わないよう、初年次からのAIリテラシー教育の重要性も提案された。この視点は今後のカリキュラム設計に不可欠だと感じた。発表準備にAIを活用したことで時間的余裕が生まれたため、低学力層の支援について、学びの個別最適化を実現するための具体的な方法の検討を参加者に促すことも可能だったかもしれない。

(全学教育推進センター 中野 諭人)

全学FD研修テーマ編の午後のワークショップにおいて、私は、グループ1「生成AIの実践的・効果的な講義での利用法」にファシリテーターとして参加したため、そこでの感想を中心に述べる。グループ1では上記のテーマについて、実際の教育においてどのように生成AIが使えるのか、また問題点は何かが主に話し合われた。議論自体は多種多様で、ときには脱線する内容もあったが、全体的には興味深いものであった。特に、生成AIの使い方や問題点などのレクチャーなどを事前に学生だけでなく、教員にも実施した上で、授業などにおいて注意深く利用しようとする議論に関心を持った。また、午前のレクチャーを担当した二瓶先生もオブザーバーとして参加されたため、いくつかの生成AIを実際に使用しながらワークショップを実施できたことで、現状の生成AI自体の内容を知る機会ともなった。以上のようなワークショップを実施できたことは、普段、学生教育を担当する教員の方々のFDとして実りある機会となったと考えられる。

(全学教育推進センター 磯部 太一)

総合評価

令和7年度 北海道医療大学全学FD研修（テーマ編） 実施結果（参加者アンケート集計結果）

<実施概要>

開催日：2025（令和7）年7月31日（木）

開催方法：対面・Zoomのハイブリッド

メインテーマ：学生を中心とした教育をすすめるために

サブテーマ：発展し続ける生成AIの講義での活用について

<アンケート集計概要>

回答者：36名（ワークショップ参加者 18名 [FD委員含む]、視聴参加者 18名）

※参加者数 110名

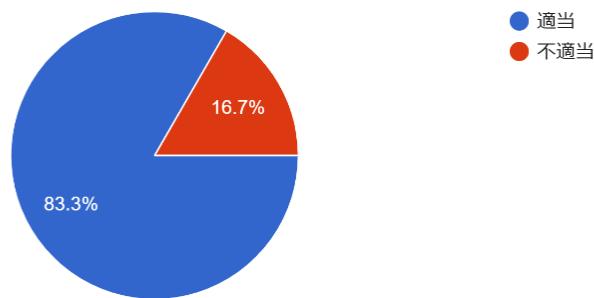
Q 1. FD研修の日程について

今回のFD研修の日程は適当でしたか

適当	不適当
30	6

Q 1

36件の回答



Q 1-2 Q 1で不適当を選択した方へ

不適当とご回答の場合はその理由やご意見をお願いします

- 定期試験の試験監督が重なると、出席が途切れてしまうので。
- 多職種連携全学地域包括ケア実践演習、そして定期試験と被っているのでFDセミナーに対面での参加が難しい。
- 全学包括ケア実践演習と重なってしまっていました。こちらの講義も見学したく、日程が重なってしまったのは残念でした。
- 定期試験期間中であるため（一部参加できませんでした）。
- 心理は人が集まらないので
- 多職種連携実習と重なり人手不足もあり参加が難しい時期であるため

FD研修の時間配分について

Q 2. 時間配分は適当だと感じましたか

適当			不適当		
	WS参加	視聴参加		WS参加	視聴参加
34	16	18	2	2	0

Q 2. で不適当を選択した方へ

Q 2-2. 不適当とご回答の場合はその理由やご意見をお願いします

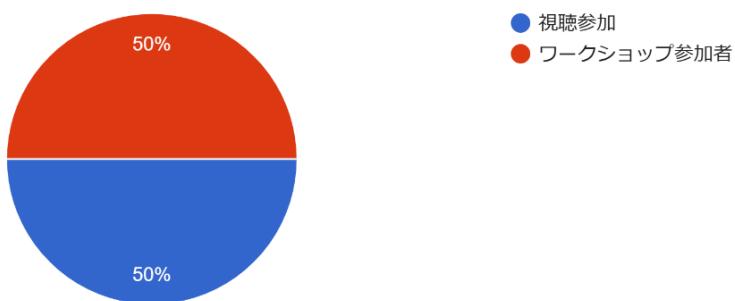
- ・時間的に、全体はもう少しコンパクトな方がいいと思います。
- ・もう少しタイパ重視でいけるのではないかと思います。

アンケート回答者の参加区分について

ワークショップ参加	視聴参加
18	18

視聴参加またはワークショップ参加の確認です

36 件の回答



ワークショップについて

Q 3. ワークショップについてのご意見、ご感想をお願いします（回答はワークショップ参加者のみ）

- ・様々な生成 AI の活用方法が具体的にわかり、とても役に立ちました
- ・勉強になりました
- ・各学部の様子が分かりよかったです。みなさん協力的に参加してくださり楽しかったです。AI は初心者なので、学びの機会ともなりました。ありがとうございました。
- ・ワークショップというものに始めて参加しましたが、他の皆さんのが積極的かつ建設的な意見を多数出してください、大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・活用体験を分かち合い、意見交換のまとめを、実際に AI で検証しながらできたのも良い体験になった。
- ・現在、AI が発展を遂げる中で、教育にどう活用していくか、意義のある研修でした
- ・AI は馴染みがありませんでしたが、ワークショップに参加することでより自分ごととして考えることができました。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・最初に AI の活用方法に関するレクチャーがあることで、後半のワークショップが進められました。
- ・多様な意見があり、AI の活用方法の視野が広がった。ガンマは今日から取り入れたい。
- ・改めて、テーマについて議論することで、考え方も深まり、大変参考になりました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・内容としては興味深いもので、テーマも適切かと思います。
- ・AI の活用方法について考える良い機会となりました。ありがとうございました。
- ・生成 AI 使ったことがなく、なかなか踏み出せませんでしたが今回の FD によって色々知ることができ活用していきたいなと思います。
- ・AI の種類や活用法を知るいい機会になりました。どのように活用していくか検討いたします。

FD研修全般について

Q4. 今回のFDでよかった点、悪かった点についてご記入お願ひます

<良かった点>

- ・新たな知見を得られました。
- ・参加人数が多すぎず、少なすぎずよかったです。午前中の講義も非常に役になってよかったです。
- ・低学力学生のフォローにAIを活用する点
- ・良かった点は、ワークショップでいろんな意見が出て、自分が思いつかないような考えを聞けたことと生成AIをワークショップで実際に利用して、意見の整理やまとめに使えることを知ったことは良かったと思います。
- ・最新のAI活用法を学ぶことができ大変有意義でした。
- ・教員全般に関心の高いテーマだったので、有意義だったと思います。
- ・AIの発達状況を知れた。
- ・他学部の先生との合同グループで、状況など知ることができます。ありがとうございました。
- ・午前の講演はとても参考になりました。今後の実習等で応用を検討したいと思います。
- ・日々進歩するAIについて聴講できる機会が設けられて良かった。
- ・生成AIについては興味があったため、ためになつた。
- ・AIの進歩が伝わったこと。日進月歩の分野なので定期的に開いてほしい
- ・いろいろな学部の先生方と分け隔てなく議論できたのはとても良い機会でした。ありがとうございました。
- ・AIの活用法を聞けたことが、大変勉強になりました。
- ・特に二瓶先生のお話は勉強になった。講義の質を高める参考にしたい。
- ・生成AIによる教育の現状と実際について、実例を含め拝聴できたことは良かったです。
- ・学生指導に活用していくそうです。AIについても理解が深まりました。
- ・良かったのは実際の生成AIを使用しながらワークショップの議論が出来たこと。
- ・生成AIの進歩について知ることができた。
- ・他学部の先生方とディスカッションできることで、良い刺激を受けました
- ・生成AIの具体的な使い方や、国家試験対策に生かす方法を考えることができるようになりました。（発表を聞いて）
- ・午前の講話は非常に興味深い内容で勉強になりました。
- ・AIの利用による利便性とリスクがよく分かった。
- ・現時点では自分では生成AIは使っていないが、活用することで色々な可能性があることが分かり、とても興味深かったです。使い方についてもっと詳しく知りたいと思った。
- ・昨年度と同じテーマで理解が深くなっていると感じました。
- ・生成AIについて理解が深まった。ありがとうございます。
- ・教育におけるAIの活用がより具体的に理解できた

<悪かった点>

- ・1日は少し長いようにも感じました。ただ、内容からすると、仕方ないようにも思います。
- ・悪かった点は特になし。
- ・悪かったということではないですが、二瓶先生の講演でスライドと生成AIの実際の利用を行き来していて、飛び飛びになっていたため今どこを話しているのかについて行くのが自分には大変でした。
- ・会場でのマイクを介さない質問などがZOOM上では聞き取りにくかったです。
- ・活用事例をもう少し出してくれると、発想が広がったと思いました
- ・悪かった点は少し時間が長く、議論が間延びしていたことです。
- ・もっと具体的な活用を教えてほしい。
- ・プロダクト発表の午後の前にもリマインドが欲しかったです。
- ・話し合いの160分の途中で休憩があつてもいいかと思います。
- ・悪い点は特にございません。
- ・一方で同じテーマなので、似たような議論や話が出てくるところは少し悪い点かと思います。

今後のFD研修に向けて

Q5. 今後のFD研修で取り上げるべきテーマなどのアイデアがあればご提案ください

- ・AIについてはもう少し学びたいです。
- ・AIのより具体的な活用法（プロダクト生成やデータ整理など）は教員全体の興味が強い部分だと思います。
- ・引き続きAIに関連するテーマは重要だと思います。

- ・今回の生成 AI の利用の際にもいろいろな先生から意見が出ていましたが、「学習意欲の低い学生、高校の内容を十分に理解できていない学生への有効な教育法の検討」という点が難しいという話が出ていたので、そういった点で新たなアイデアが出たら良いかと思いました。
- ・今は特になし
- ・AI エージェントなどの、更なる AI の進化をどのように教育に活かせるかなどをレクチャーしてほしい。
- ・AI の活用について（引き続き）
- ・今は特に思いつかない
- ・AI をさらに発展させた話を聞きたいと思いました。
- ・生成 AI のより具体的な活用法について知りたいです。
- ・チャット GPT やほかの AI の応用実践の機会が欲しいです！！
- ・AI の活用方法について、引き続き学び続けたい。文章以外に画像や動画生成についても興味がある。学生にも学ばせて、SNS の活用に生かして欲しい。
- ・AI を学生に使用してみての変化や、学生の状況がわかるとより使いやすい
- ・AI の研究への利用についても知りたいです。
- ・学生の主体性をどのように引き出すか、議論する。



学務部 教務企画課 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757

TEL:0133-23-1211／FAX:0133-23-1669

URL:<https://www.hoku-iryo-u.ac.jp/>